

●建設業に働くみなさんの仕事とくらしを応援します

杉並支部
結成70周年
記念誌



— 編集及び発行人 —
東京土建一般労働組合
杉並支部

TEL 03(3313)1445
FAX 03(3313)7096

70 歴史を確信に 年のともに未来へ

1949～2019



東京土建一般労働組合杉並支部

写真でつづる 杉並支部70年①



1954年 最初のバス旅行小河内ダムへ



1957年 西伊豆旅行



1962年
家族慰安行事で多摩動物公園



1962年 十二社温泉での大会は家族も



1955年 鎌倉での本部大会



1958年 石工部が大谷石採石場視察



1958年 水上温泉での支部大会



2019年 主婦の会が大谷石採石場視察



1960年 東京土建全都の運動会

写真でつづる 杉並支部70年②



1962年 メーデー「ルンペン姿」でアピール



1963年 第6回青年部大会



1963年頃 床屋に宣伝ポスター貼り



1963年 完成した組合事務所



1963年 組合事務所建設



1964年 主婦の会料理教室



1964年 松ノ木中でソフトボール大会



1966年 拡大記念文化祭



1970年 日雇健保擬制適用廃止に抗議し区役所前座り込み

写真でつづる 杉並支部70年③



1975年 創立25周年記念祭り



1975年 青年がメーデーデコ制作



1978年 第1回住宅デーは区役所前



1974年 主婦の会指圧教室



1975年 逆さのカバ



1982年 都庁前集会



1985年 第35回支部大会



1985年 3.13重税反対行動

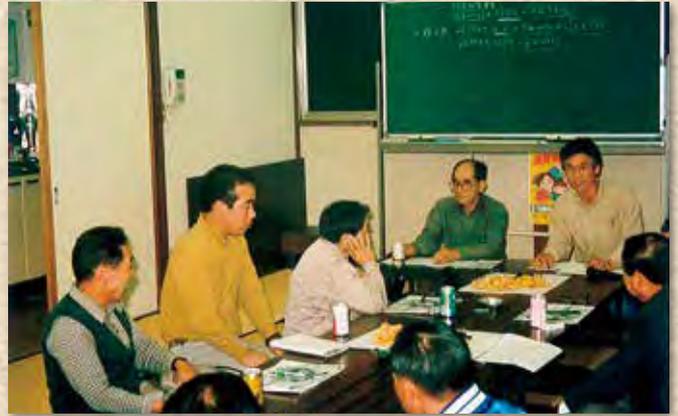


1988年 消費税法案廃案を求めて区民集会

写真でつづる 杉並支部70年④



1991年 協定賃金の自転車宣伝



1991年 組合事務所で親方賃金討論



1991年 梅里中央公園で新春餅つき



1991年 将棋大会



1991年 職人賃金討論



1993年 下高永福分会健康教室



1993年 杉二小で運動会



1995年 雪の梅里中央公園で新春餅つき大会



1994年 高井戸地区区民センターで木工教室



1995年 成田東分会主婦の会発足

写真でつづる 杉並支部70年⑤



1995年 阪神大震災復興支援で住宅相談



1996年 技術研修センターの講習



1995年 メーカー消費税率5%に反対



1997年 メーカーたまごっち



1997年 新泉小での運動会で和泉分会が優勝



1997年 和泉分会の住宅デーで和泉堀診療所が血圧測定



1997年 運動会の抽選でテレビデオ



1997年 ヘルシークッキングでストレッチ体操

写真でつづる 杉並支部70年⑥



1998年 獅子舞友栄会に仲間が参加



1998年 朝ドラ「天うらら」の撮影に協力



1999年 仕事確保ヘチラシを配って宣伝



1999年 まちづくりセンターの仕事



1999年 組合事務所建設



1999年 大学生協会館で第50回支部大会



1998年 和泉小で運動会



2000年 阿佐谷七夕まつりで署名あつめ



2000年 京王プラザホテルで新春旗ひらき

写真でつづる 杉並支部70年⑦



2000年 原水爆禁止世界大会広島へ3人派遣



2000年 支部50周年記念土建まつり
これが今の東京土建まつりの原型



2004年
中越地震で復興支援



2001年 メーカーは竿灯



2003年 区役所ロビーで住宅相談



2007年 家具転倒防止器具取り付けスタート



2005年 3500人支部達成直後の新加入者説明会



2009年 第1回夏休み宿題お助け塾



2005年 つくる会教科書問題で抗議



2006年 支部9条の会発足
最初の企画は小森陽一氏らが講師

写真でつづる 杉並支部70年⑧



2010年 建設中の新会館（2階内部）



2010年8月 新会館が完成



2010年 60周年記念ジャンボレク
鬼怒川温泉で中国雑技団ショー



2010年 60周年・新春旗ひらき
永年表彰も初めて実施



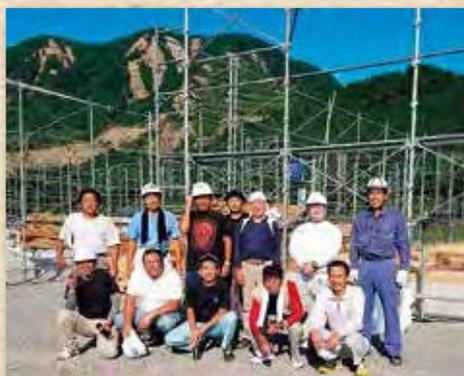
2012年 南相馬復興支援



2011年 岩手に支援物資配達



2015年 子育て企画米づくり体験



2016年 熊本震災復興支援
応急木造仮設住宅建設



2017年 本部70周年祭りに参加



2019年 丸の内現場宣伝



2019年 改元の日のもーデー・最優秀賞を受賞



2019年 支部会館で第70回大会

杉並支部

70 歴史を確信に 年のとともに未来へ

1949～2019

— 目次 —

あいさつ・祝辞	2～10
記念誌発行に寄せて (この冊子の活用の仕方)	11
スペシャルインタビュー 教えて先輩!	12～15
東京土建杉並支部の歴史	16～71
分会・各部の紹介	72～85
資料編	86～95
支部役員紹介・35周年誌「ねんりん」より・歴代四役名簿・ 組織拡大と要求実現の道のり・「くみあい物語」	
編集後記	96

東京土建一般労働組合杉並支部

支部執行委員長あいさつ



東京土建一般労働組合杉並支部 執行委員長

大戸 龍雄

築いた運動と組合に誇りと確信持って

杉並支部は1949年（昭和24年）10月に組合員36名で結成され、70年を経た2020年1月現在で3400名を超える仲間が結集する組織まで発展しました。

東京土建杉並支部70周年を迎えられたことを心から祝うとともに、これまで組合活動に尽力していただいた支部、分会、群の役員をはじめとする組合の仲間の皆さんにお礼を申し上げます。

今、建設業界では依然として低賃金、雇用形態の改善は見られず、若者に関心が向かわれず後継者育成ができないことによる高齢化が進み、技能労働者不足により建設産業全体が危機的な状況にあります。

その対策として政府主導の下、設計労務単価の引き上げと社会保険の加入促進が行われてきておりますが、現場での実態調査では相変わらず設計労務単価に及ばない低賃金となっています。

最近の組合活動として、公契約条例制定の運動があります。建設産業で働く仲間の経済的、社会的な地位向上と後継者対策等の推進を図る上で大変重要な運動で、杉並区議会での条例制定はあと一步のところに来ております。杉並区長はじめ、区議会議員各会派の皆様、杉並建設業協会、杉並建築業小規模連絡会、地域の労働組合の皆様にご理解とご協力をいただき、公契約条例が制定されるまで引き続き運動の推進をしていく所存であります。

地域との連携強化の分野では、まちの救助隊ビーバースを設立し、杉並区や荻窪消防署との防災協定を結ぶなど災害時における自治体との協力体制を強化しています。

さらに、毎年、東京土建まつりを開催し地域の皆様に好評を得ており、また、杉並区内の学校授業支援を行うなど、地域の皆様とかかわり、様々な取り組みを行って東京土建をアピールしています。

今後も、組合員・家族の仕事とくらしを守るため、土建国保の補助金獲得や建設産業の民主化運動のさらなる発展、仲間づくりの推進など、現状に満足せず、皆がつながり、まとまっていく魅力ある組合を作っていきたいと思っています。先輩方が築いてきた運動と組合に誇りと確信を持って、仲間や家族の要求実現のため全力で頑張りぬく決意を申し上げ、東京土建杉並支部70周年の挨拶とさせていただきます。



杉並区長 田中 良

創立70周年を祝して

このたび、東京土建一般労働組合杉並支部が創立70周年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

貴支部は、建設労働者の生活の安定と社会的地位の向上を目的として昭和24年に東京土建西部支部から独立され、地域を「住」の視点で支えるさまざまな活動や、建設現場で働く皆さんの仕事や暮らし、健康を守る活動を続けて来られました。

地域に密着したさまざまな活動を通して、地域の安全・安心に大きく貢献されてきました歴代の委員長をはじめ役員の皆様、組合員の皆様方に改めまして敬意と感謝の意を表します。

さて、時代は昭和から平成、新たな令和という時代を迎えたところでありますが、近年では、地震、豪雨、記録的猛暑といった、これまで経験したことのないような災害が多発しています。

現在、区政では、首都直下地震への備えなど、区民が安心して暮らし続けられるための取り組みが急務となっておりますが、貴支部の協力のもと災害に強い防災まちづくりを進め、被災時における民間住宅の応急修繕や感震ブレーカーの設置などを進めることにより、地域防災力の向上をはじめとした減災の視点に立った防災対策を推進し、災害に強く安全で安心のまちづくりに取り組んでいるところです。

区政を取り巻く環境は日々刻々と変化しておりますが、誰もが住み続けたい、住んでみたいと思う「質の高い住宅都市杉並」の創造のためには、区民福祉のさらなる向上と限界のない高みを目指した地域社会づくりが不可欠であることから、暮らしやすいまちづくりのために、私も力を尽くしてまいります。

区民の皆様が安全・安心の生活を送るためには、地域の皆様との連携が不可欠であります。今後とも、区の取り組みに対するご理解ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

最後になりますが、東京土建一般労働組合杉並支部のますますの発展と、組合員の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

東京土建一般労働組合 中央執行委員長祝辞



東京土建一般労働組合 中央執行委員長

松丸 一雄

東京土建の歴史と伝統引き継ぐ杉並

東京土建杉並支部が結成70年を迎え、大きく成長され元気に活動されていることに心からお祝い申し上げます。杉並支部では、区と家具転倒防止器具取り付け、火災警報器、感震ブレーカー取り付けの委託契約を締結し、また、東京土建まつりを19年開催している実績や防災協定締結などにより、地域への影響力と建設職人の必要性を証明し、公契約条例制定も目前に迫っています。こうした杉並支部70年の歴史を作り上げた歴代の先輩役員の方々と多くの仲間の献身的なご努力に心から敬意を表します。

東京土建は、1947年1月15日、東京土木建築労働組合が焼け野原の中で結成されました。結成大会ではわずか35人の組合員でしたが、すぐさま全国組織の結成めざし、統一と団結を呼び掛け、幾多の苦難を自らのたたかいで切り開き、現在の11万を超える組織へと大きく育つことが出来ました。杉並支部はその歴史と伝統を立派に引き継がれています。

今は歴史の大きな岐路、転換点です。まず、平和日本が大変危機的な状況にあります。戦時中の建設労働者は軍事施設や前線の陣地構築に動員され、多くの命が奪われました。「建設産業は平和でこそ成り立つ」、「二度と戦争のための工事はしない」、この言葉を私たちのスローガンに掲げて運動をすすめます。

建設産業民主化の課題では、設計労務単価の引き上げ、公契約条例の制定自治体が増加、技術・技能の評価と賃金を結びつける運動へと展望が切り開ける建設キャリアアップ導入等、仲間の賃金・単価の引き上げとルール化を実現させる環境が、私たちの運動によって生まれています。今がまさに正念場ですので、仲間の仕事と暮らしを守る大運動が求められます。

社会保障制度も自助を強調し、公費負担の縮小がすすめられようとしており、建設国保を守る上でも社会保障制度拡充の運動は前進を勝ち取らなければなりません。生活を守る課題では、賃金の上昇が見られない中、消費税率が引き上がり、仲間の生活と営業に大きな負担が押しつけられています。国民負担増はさらなる格差社会を助長するだけですので、国民本位の税制へと転換させなければなりません。

仲間が安心して働き暮らせる社会の実現には、全国、全都の仲間と力を合わせて奮闘することが重要です。諸要求実現にむけて、共に奮闘しましょう。そして、仲間の要求実現には組織強化と前進は必須の課題です。力強い組織建設にむけ、共にがんばりましょう。

むすびに杉並支部のますますのご発展と組合員・家族の皆さんのご多幸を祈念いたします。



衆議院議員 石原 伸晃

東京土建一般労働組合杉並支部70周年に寄せて

東京土建一般労働組合杉並支部の70周年を心からお祝い申し上げます。

貴支部が、終戦直後の混乱の時期から、助け合いの精神のもと、建設労働者の地位向上に取り組まれてこられましたことに心より敬意を表します。

昨年の台風では東京でも深刻な被害が発生しました。建設業は現場の最前線で国民の生命と財産を守る「地域の守り手」として、災害復旧などを担うとともに、都市再生など活力ある未来の構築に貢献しています。

一方、建設業の担い手不足の深刻化が懸念されており、労働環境の改善に向けた働き方改革、生産性向上を車の両輪として、建設産業が持続的に活躍できる環境の整備が必要です。これらの課題に対応するため、議員立法の品確法の改正を始めとする新・担い手3法が成立したところです。

今後とも、貴支部が、地元根差した組合という特徴をいかんなく発揮され、建設産業が若者にとって、魅力のある職場となるように、大きな役割を果たすことを期待致します。

石原伸晃議員は杉並の選挙区から10期連続当選

〈石原伸晃議員略歴（公式ホームページより抜粋）〉

- ・平成2年 第39回総選挙にて、旧・東京四区（杉並区・中野区・渋谷区）より衆議院議員に初当選。
- ・平成5年 第40回総選挙にて、2度目の当選。
- ・平成8年 第41回総選挙にて、東京8区（杉並区）より3期連続当選。以後一貫して東京8区。
- ・平成12年 第42回総選挙にて、4期連続当選。
- ・平成15年 第43回総選挙にて、5期連続当選。
- ・平成17年 第44回総選挙にて、6期連続当選。
- ・平成21年 第45回総選挙にて、7期連続当選。
- ・平成24年 第46回総選挙にて、8期連続当選。
- ・平成26年 第47回総選挙にて、9期連続当選。
- ・平成29年 第48回総選挙にて、10期連続当選。

平成13年、小泉純一郎内閣の行政改革・規制改革担当大臣として初入閣。以後、平成15年、国土交通大臣、初代・観光立国担当大臣。平成17年、法務委員長。平成19年、自民党政務調査会長。平成20年、麻生内閣において自民党幹事長代理。平成22年、東京選出議員としては初めて自民党幹事長に就任。平成24年、安倍内閣の環境大臣・原子力防災担当特命大臣。平成28年、経済再生担当大臣、社会保障・税一体改革担当大臣、経済財政政策担当大臣など要職を歴任。

【編集部註】担い手3法とは

平成26年に国土建設の担い手に関する3つの法律（担い手3法）、①公共工事品質確保法（品確法）、②建設業法、③入札契約法（入契法）が改正。令和元年に全会一致で改正され新・担い手3法となっています。

東京土建一般労働組合 西部ブロック各支部からの祝辞①



建設労働運動の前進をめざして共に奮闘しましょう

東京土建一般労働組合目黒支部 執行委員長 佐藤 忍

東京土建杉並支部結成70周年おめでとうございます。貴支部が地域に密着し、たゆまぬ努力を続ける中で、建設労働者のみならず、地域の労働者や区民の生活と権利を守るため、ご奮闘されていることに心より敬意を表します。

私も1988年に組合加入して、青年部時代では

西部ブロックの仲間と「学んで遊び、遊んで学ぶ」密な時間を過ごしてきました。時には朝まで大騒ぎして盛り上がったこともありました。杉並支部の仲間とは、今でも組合に仕事とつながりがあり、お互い組合を背負う立場になりました。これからは横のつながりを大切にして、東京土建を盛り上げるために、一緒に奮闘しましょう。



杉並支部結成70周年に寄せて

東京土建一般労働組合渋谷支部 執行委員長 伊藤 勝伸

この度は、杉並支部70周年を迎えられ、誠におめでとうございます。これまでの労働組合運動のご奮闘とご活躍に敬意を評します。

貴支部の大規模な住宅デースペシャルは区民と繋がる大事な取り組みであり、長年をかけた賜物だと思います。

また、公契約条例の制定が間近と伺っていま

すが、野田市から始まった公契約条例制定運動は10年を迎え、また西部ブロック圏内においても4支部目となり、私たちの求める産業民主化にじっくり歩みを進める貴支部の姿勢は、全都、全国を勇気づける取り組みだと思います。

今後みなさまの更なるご健闘とご活躍を願っております。



杉並支部結成70周年に寄せて

東京土建一般労働組合世田谷支部 執行委員長 佐久間 法博

杉並支部結成70周年、誠におめでとうございます。

貴支部と私たち世田谷支部は、同じ西部ブロックとして、激動する情勢の中で手をたずさえて諸運動の前進にむけて全力を尽くしてきました。拡大運動を始め、盛大に催されておりま

す東京土建まつり、また公契約条例も制定間近と、貴支部の日頃のご奮闘に敬意を表します。

これからも地域の建設産業の健全な発展と、そこに働く労働者・職人の生活と地位向上のため、貴支部のますますのご活躍を心より祈念申し上げます。

東京土建一般労働組合 西部ブロック各支部からの祝辞②



杉並支部結成70周年に寄せて

東京土建一般労働組合新宿支部 執行委員長 伊藤 賢司

杉並支部結成70周年おめでとうございます。

元々のルーツは同じ西部支部から独立（中野支部・杉並支部・新宿支部）した兄弟支部です。貴支部は、2011年3月11日の東日本大震災以降、毎年継続的に行っている後継者世代による復興支援では、ここ3年間当支部と一緒に参加させていただき、誠に感謝申し上げます。

公契約条例制定に向けた運動では、2010年の契約検討委員会の設置から約10年、いよいよ条例制定のスケジュールが示されたこと、敬意を表します。

今後とも、諸運動を共に進めさせていただく決意を申し上げ、貴支部の更なる発展を祈念いたします。



杉並支部結成70周年に寄せて

東京土建一般労働組合中野支部 執行委員長 阿部 秀晴

杉並支部結成70周年おめでとうございます。

東京土建の歴史をひも解くと、1948年（昭和23年）7月に中野、新宿、杉並を地域とする西部支部が結成され、そこから49年に杉並支部が独立、さらに53年に中野支部が独立し、今に至るとあります。つまり杉並支部と中野支部はル

ーツを同じにする兄弟支部という事になります。時に助け合い、時に競い合う、困難があれば解決のために知恵を出し合う、まさに血を分けた兄弟のように切磋琢磨しながら、これからも組合員要求に基づく産業課題、組織強化課題など、諸運動の前進を共に力強くすすめていきましょう。

西部ブロックとは…

東京土建は、組合員のみなさんが所属する「群」を基礎単位に「分会」、「支部」、本部となっています。

本部は、地域ごとに支部をブロックわけしており、東京23区のなかで、目黒・渋谷・世田谷・新宿・中野・杉並の6支部が西部ブロックとなっています。西部ブロックは、2万人近くの仲間がつどう、東京土建最大のブロックです。さまざまな機会に交流を重ね、協力体制を築いています。

祝辞 杉並建築協議会（土建共闘）



東京土建杉並支部創立70周年に寄せて

杉並建設労働組合 執行委員長 吉本 正幸

戦後間もなくの1949年の創設ということになると思われますが、今の時代に生活している我々には想像できない数々の困難を克服されての設立だと思われます。

その時代から一貫して建設労働者の権利と安全を確立するために努力されてきました。今やっと「建設キャリアアップ」が始まり技術に見合った処遇が受けられる時代が始まる

うとしています。全建総連の旗のもと我々の組合も共闘させてもらっています。公契約条例を勝ち取る闘いも実を結びつつあります。これも共闘の効果の一つです。

全建総連・東京都連の中での東京土建の存在は圧倒的であります。

これからも東京土建さんに大いに引っ張っていただきたいと思います。



東京土建杉並支部創立70周年に寄せて

首都圏建設産業ユニオン杉並支部 執行委員長 西村 英次郎

貴組合の創立70周年、誠におめでとうございます。同じ地域で共に活動を担う組合として、昭和の戦後間もない混乱期から平成の時代を経て、令和の現在をお迎えになられた事に対し尊敬の念を禁じえません。

この間、杉並区における公契約条例制定運動を始め、区民住宅相談、防災協定の締結など、

貴組合には行政との窓口として主導的な役割を果たして頂きました。この先も、公契約条例の運用、その他の活動全般において一層のご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。貴組合及び組合員の益々のご繁栄とご多幸をお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。

杉並建築協議会（土建共闘）とは

杉並区でともに活動する全建総連の仲間

全国建設労働組合総連合（全建総連）に加盟し杉並区で活動する、杉並建設労働組合、首都圏建設産業ユニオン杉並支部、東京土建杉並支部の3団体で構成しています。

定期的に会合をもち、杉並区との交渉や杉並建設業協会との懇談などを通じ、産業民主化をめざし活動しています。



杉並支部創立70周年を祝して

杉並区職員労働組合 執行委員長 西澤 正光

杉並支部70周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。また、これまで組合活動にご尽力された支部、分会、群の役員をはじめとする組合の仲間の皆さまに敬意を表します。

さて、貴職と杉並区職員労働組合は、区内では組織構成員が最も多い労働組合として友好的な関係を構築し、共同した取り組みを進めてきました。例えば、夏の区民集会は、憲法改悪阻止、消費税増税反対、大幅な賃上げなど共通の旗印を掲げて地域の団体とともに

取り組んでいます。その中で、貴職がその先頭に立って奮闘されていることに、改めて感謝申し上げます。

建設労働者・公務員労働者にとって賃金の引き上げは切実です。また、戦後75年を迎える今年、平和憲法を次世代に引き継いでいかななくてはなりません。貴職とこれからも共闘関係を強め、働く者の生活と権利を守り、暮らしやすいまち杉並、平和な日本を目指して手を携えて頑張っていきましょう。



組合結成前からのお付き合い

劇団前進座 藤川 矢之輔

東京土建杉並支部「70周年誌」発刊、誠におめでとうございます。

70年の長きに亘り、建設産業の民主化、そこで働く仲間みなさんの命と暮らし・雇用を守るたたかいを続けてこられたことに、心より敬意を表します。そしてまた、地域を基盤とした組織作りと、行政とも連携しての地元密着の様々な活動、それらがどれほど充実していることか。それは、秋の土建まつりの盛況ぶりにも如実に表れていると存じます。

前進座は、そうした貴支部のお隣・武蔵野市に拠点を構え、89周年を迎えます。東京土建のみな様には、組合結成前から「同じ立場の仲間」としてのお付き合いをいただき、私の初出演映画「どっこい生きてる」や舞台「五

重塔」など、ご一緒に創り出した作品もいくつかございます。

こののちも、みな様方の活動がより豊かに発展する様な舞台を創り続け、みな様と一緒に、手を携えて進んでまいる所存です。何卒お力添えのほど、よろしくお願い申し上げます。

プチ解説 組合結成前からのお付き合い

◆前進座との親交…1931年の前進座結成当時から、ともに産業民主化をめざす同志として親交があり、1951年の映画「どっこい生きてる」を始め、多くの活動を東京土建は後援。支部でも「前進座友の会」があり、前進座からも東京土建まつりの司会をつとめてもらうなどの親交が今も続いています。

祝辞 荻窪消防署・杉並民商

杉並支部創立70周年を祝して

東京消防庁 荻窪消防署長 鈴木 恭一

杉並支部70周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。平成28年3月11日に震災時における救助救急活動等の協力に関する協定の取り交わしを行いました。震災時、荻窪消防署管内において救助事象が多発した場合に、荻窪消防署の要請により、東京土建杉並支部に所属する「救助救急活動等の協力」に登録した組合員が救助、救護活動の支援活動を行うものであります。建築土木に関して専門的知識を有する当該組合員の活動は心強いものであり、大いに期待しております。平成29年4月には、東

京土建杉並支部の「まちの救助隊 ビーバーズ」は、東京防災隣組に認定されております。地域と手を組んでともに安全安心なまちづくりと銘打ち、地域の防災訓練を住民と一緒に実施、地域行事では、耐震改修や家具転倒防止器具などの設置相談と普及啓発、さらには、救命講習会の受講などご尽力いただいております。有事の際は、是非とも皆様のお力もお借りして、まちの安全安心を守りたいと考えております。70周年、誠におめでとうございました。



杉並支部創立70周年を祝して

杉並民主商工会 会長 山田 恭永

東京土建杉並支部創立70周年、おめでとうございます。

多くの仲間を迎え入れているその姿は貴支部が信頼され頼りになる存在であることを証明しています。様々な要求を実現してきた実績には、建設職人全体の地位向上に大きく貢献してきたことが示されています。

貴支部との協力共同の取り組みで多くの成果をかちとってきた歴史は私たちにとっても誇りです。消費税をなくす杉並の会の運動や3・13重税反対統一行動での共闘も税金闘争の礎となっています。消費税の10%増税は、インボイス制度の導入が含まれており、私たちの経営・仕事・暮らしに壊滅的打撃を及ぼすもので断じて許されないものです。厳しい情勢ではあります

が、貴支部の奮闘で公契約条例の実現の見通しを得たことは多くの市民を励ますものになっています。団結した力が必ず展望を切り開くものであることを確信にして、今後の益々のご活躍を祈念いたします。





70周年誌発行によせて

この冊子を手にしていただいたみなさんへ

70周年誌編集長・教育宣伝部長・石川 雅昭



この冊子は、古くからの仲間には懐かしい人々や懐かしい出来事に出会えるよう、新しい仲間には諸先輩の活動を少しでも追体験できるよう、多くの先輩たちが残してきた記録や記憶をたどりながら作ったものです。

「たたかいと総括を通じて組織は拡大強化される」

「たたかって生活を改善する」

「たたかって学び、学んでたたかう」

これは昭和39年（1964年）の東京土建本部大会で確認され、定式化された教訓です。

この冊子を通したささやかな歴史の旅が、未来へ歩むみなさんの道しるべとして少しでもお役に立つことを願います。

《本書の構成》

【口 絵】年代順の写真です。組合活動の雰囲気をお楽しみください。

【歴史編】3つの部分に分かれています。

①16ページから22ページは支部の70年の歴史を10年ごとにまとめたものです。

7ページで大まかな流れをおつかみください。

②23ページからは1年ずつの運動の歴史を36ページでまとめています。年表がわりにお使いくください。

③59ページから71ページに、12のテーマごとの歴史をまとめました。組合運動の理解へのきっかけになれば幸いです。

【資料編】かつて支部機関紙「すぎなみ」に掲載された「くみあい物語」を12回掲載分まで復刻・再録しました。組合創成期を経験した仲間の熱気あふれる姿を少しでも感じていただければ。

35周年誌をまとめた
組合の初期の運動を知る

仲間に聞く

この2人にお話を聞きました

杉並支部の歴史は70年を超えました。改めてその歩みを周年誌で振り返っていきますが、35周年誌の編集委員もつとめた飯島徳太郎元執行委員長と、最初の書記次長を務めた笹岡祥夫さんに、組合の歴史について振り返ってもらいました（聞き手・喜多正之書記）。



飯島 徳太郎さん

大正15年11月生まれ。永年組合員。昭和36年7月、組合の機関紙すぎなみの第3種郵便認可を取得。昭和60年、35周年誌「ねんりん」編集委員。平成13年～16年度支部執行委員長。左官。高和分会所属。



笹岡 祥夫さん

昭和3年9月生まれ。永年組合員。支部青年部創設等に関わったのち昭和38年、新設された書記次長職につく。40～41年度も同職。杉並支部初期の活動を知る一人。大工。中央分会所属。

質問 1957年からの二級建築士獲得運動の頃はどうか？

古くからの大工はあまり建築士の資格を取ろうとは考えないものでした。法律で急に町場でも必要になることになり、これはトンデモナイということで運動して、講習を受けて取るほか、年齢によっては実績だけで資格を取れることになりました。これで多くの大工が組合に加入してくれました。自分は正直に経験を書いて出しましたが若かったからか不合格になってしまいました。そこで一念発起して学習に励み普通に試験を受けて合格することができました。（笹岡）

質問 1958年の青年部の創設はどんな形でしたか？

私は20代で支部の執行委員をしていました。のちに神奈川県連で活躍する谷幸雄さんらを當摩さん宅に呼んで話し合いをして「青年が何とかしなきゃ組合も職人の生活もよくなる」と腹をくくった仲間たちと、一人ひとり青年層を訪問して勧誘し、杉並公民館

で結成大会を開きました。青年部では特にカタイことをいっても仕方ないので飲んだりしながらの活動でした。ちょうど二級建築士の運動もあり、若い人にも「資格を取りたい」という要求があって、青年部主催で杉並区の職員を呼んでの講習会などもしました。（笹岡）

質問 最初の頃の組合の会議はどんな形でしたか？

私が知っている最初の頃の執行委員会は當摩さん宅の座敷を借りてやっていました。会議行動費もありませんでした。そのうち300円の金券がもらえて後日支部事務所で換金できるようになって、ありがたかったです。（飯島）

質問 1961年頃から機関紙「すぎなみ」は毎月発行になったのでしょうか？

この年に第3種郵便認可を得るまで、金銭的な負担もあり不定期でした。「仲間にとって情報が大切だ」となって毎月発行になりました。当初は群会議がなされず郵送でした。その後、1971年から群会議で配布する現在の形になりました。（飯島）

あの頃の組合

質問 1962年からの協定賃金運動はどうでしたか？

私は東京土建に入る前に色々な組合運動に参加し、どこでも賃金運動はありましたが賃上げは実現しませんでした。でも東京土建では実現できました。電柱に宣伝ビラをノリで貼ったりして仲間が警察につかまると、組合事務所に警察から電話がきて、役員が身元引受人になって迎えにいったものでした。親方と職人両方が入っている組合なので葛藤はありましたが、よく話し合いをして乗り越えてともに運動し、受注単価と賃金両方を引き上げました。(笹岡)

質問 1968年11月に本部主導の支部再編(地域別再編)がありましたか？

再編で特に大きな影響を受けたのは馬橋でしょう。活動家が中野に移りました。同時に再編で他支部から来た仲間の影響で雰囲気が変わり、分会・群の確立につながった面もあると思います。(笹岡)

質問 1969年に33分会体制を確立して群はどうになりましたか？

33分会になるまで、分会体制はあまり整っていませんでした。再編前は群も仕事のつながりでの集まりで、群会議も確立していないところが多かったです。近くて通える「下駄ばきの群会議を」との掛け声で再編がすすめられました。再編後もしばらく群長が集めたお金を支部に持参していて、その後、夜間金庫に入れるようになりました。(飯島)

質問 1970年日雇健保擬制適用廃止後、区役所前に座り込んだ状況は？

執行委員会のあとで、何とかできないかと話しているうちに「座りこんじゃおう」という声が出て、青年が「よし」と腹を決めて組



仲間が築いた現支部会館(本館)で聞き取り

合からテントを持っていき、その晩から泊まり込みが始まりました。学校の友人が区役所で係長をしていて声をかけられたときは、チヨット気まずかったです。でも、昔はおおらかな時代で、区役所からも出ていけ!と言われて、向かいの杉並警察も追い出しにはきませんでした。(笹岡)

質問 1985年の35周年誌ねんりんをつくったときはどうでしたか？

「ねんりん」をつくった当時は、組合初期の資料があまりなくて苦労しました。メーデー事件の影響もあったのだらうと思います。編集委員が力を合わせて3カ月でつくりました。広告でお金を集めてつくったので、その面でも苦労はありました。(飯島)

質問 改めて振り返って組合運動への思いを一言お願いします

運動の初期は仕事そっちのけで組合活動をしていました。大工だった自分の父も貧乏をしていたのを見て「組合をよくしなきゃ職人は浮かばれない」と思っていたのです。

私の知る最初の事務所は一人入ればあとは雨でも外で傘をさして待つオンボロ。そこから馬橋へ移り、ろうきんや仲間からの借り入れで自分たちで新事務所を建てました。組合は仲間の家でありました。(笹岡)



2005年度～2008年度 支部執行委員長 野辺 秀男

仲間の努力で築いた砦 活用して組合の発展・生活向上を

1942年生まれ。1987～1994年度書記次長、1995～2004年度書記長、2005年～2008年度執行委員長を歴任。建具。中央分会所属。永年組合員。

◎楽しい活動の青年部に誘われて ビラとバケツの協定賃金運動から

私は青年部に誘われて、組合に顔を出すようになりました。協定賃金運動では青年部が先頭に立ちましたが、当時はビラと糊をいれたバケツを持って、二人一組を基本に街に出て、目立つ電柱などに貼って宣伝をしていました。警察にみつかって追いかけられたこともあります。仲間の中には豪傑がいて、つかまって警察署で「君たちも貼ったほうがいい」などと逆に説教する人もいました。

◎よし、座り込もう！ 日雇健保擬適廃止で区役所前座り込み

1970年、日雇健保の改悪を阻止した時に政府は日雇健保の擬制適用を廃止、私たちから医者に安心してかかる権利を奪いました。これに抗議した区役所前での座り込みには私も参加しました。

座り込みは昼は主婦やベテラン組合員、夜には青年部を中心に若者が参加しました。擬制適用廃止後の執行委員会を終えても熱気あふれる仲間が残り「何かできないか」と話し合うなか「よし、座り込もうか」と田中正水さんが発案。その夜のうちにテントを持って区役所へ。今の自転車置き場のあたり、杉並警察署の真ん前に座り込みました。翌朝、区役所の人も驚いたでしょうが、当時はおっとりしていたもので、出ていけとは言われず、向かいの杉並警察も追い出しには来ませんでした。

◎支部会館は仲間の砦・仲間の家 会館建設に奮闘した仲間たちの記憶

組合の人数が増え、書記局も増えて、組合の事務所は手狭になって、事務所の移転が必要になってきたなか、第44回支部大会で事務所移転の方向を決定し、第47回支部大会で、財政的な裏付けとなる会館建設資金の導入を決めました。日浦敏光さんが執行委員長のときでした。この大会は議論百出、ケンケンガクガクの論議の末、名誉中執でもあった小木勝三郎さんの「若い者がやりたいというんだからみんなで協力してくれ」との訴えで、全会一致で決着。仲間の砦、家である会館建設が軌道にのったのです。

その後、阿佐谷駅前の物件など案が出ては潰れるなか、青梅街道沿いに手頃な物件が見つかり、当時副委員長だった柿澤和美さんらの奮闘もあって高円寺南3-6-2の土地と建物（現在の別館）を購入できました。

当初からの課題、会議室と駐車場の確保についても、のちに笹本達郎さんらの奮闘で隣地を購入でき、現在の支部会館建設への道が開けました。

◎仲間の努力で築いた到達 これからも少しでも貢献したい

現会館などは多くの仲間の努力で築かれた運動の砦です。そして砦を活かすのは仲間の運動です。私もこれからも組合の発展、仲間の生活向上のために少しでも貢献できたらと思っています。



2009年度～2014年度 支部執行委員長 大平 義道

共済でも先進の杉並支部 会館拠点にさらなる発展を

1949年生まれ。2005年度～2008年度副執行委員長、2009年～2014年度執行委員長。大工。井荻分会所属。名誉中央執行委員。

◎火災・自動車共済で全都を牽引 新会館拠点に災害対策も前進を

東京土建はさまざまな仲間の助け合い活動があります。火災共済や自動車共済の推進もそのひとつです。これらの共済の加入が広がる中で、組合共済の給付の拡充もすすみました。杉並支部はその共済推進を全都の先頭集団に立ち、ひっばってきました。

これからも仲間の助け合いをいっそう広げていきたいと思っています。

前任の野辺さんから委員長の任とともに引き継いだ会館建設事業では、現会館を完成させることができました。会館は地域の協力団体も利用する、運動の砦となっています。多くの先輩方の努力の結晶を現在と未来の仲間たちが拠点としてさらに活用し、必ずくる首都直下型地震など災害への備えもすすめて、組合の発展、仲間の社会的・経済的地位の向上を目指す運動に、私も微力を尽くします。



2015年度～2016年度 支部執行委員長 松原 秀夫

防災が大きな課題になる現代 仲間の助け合いの力発揮を

1954年生まれ。2012年度～2014年度副執行委員長、2015年度～2016年度執行委員長。2017年度～副執行委員長。タイル工。井荻分会所属。永年組合員。

◎熱心な親方の背を見て組合へ 仲間の力で防災対策も前進を

私は15歳で北海道から東京にでてきてタイル工として建設業界に入りました。当時の親方が熱心な活動家で、よく家をあけて組合活動をしており、その背中を見て組合が発展することが自分たちの生活向上にも必要なことなんだと思うようになり、自分も活動に参加しだして、今に至ります。

歴史のなかで組合も変わってきた面がありま

すが、仲間の助け合いの力と運動の力で生活の向上をめざしている点は変わりません。近年は災害が多発・激化しており、その対策も欠かせなくなりました。

大平さんから委員長を引き継ぎ、まちの災害対策面では「まちの救助隊・ビーバーズ」を結成することができました。杉並区や消防との協力もすすんできています。これら諸先輩方と今の仲間の奮闘の成果をさらに充実できるようがんばります。

東京土建杉並支部10年の総括

組合員40人足らずの吹けば飛ぶような 小支部からのスタート

1945年8月14日に日本がポツダム宣言の受諾を打診し降伏(調印は9月2日)し、世界大戦が終わると労働組合が全国各地で結成されました。しかし労務供給や物資獲得の実権は、戦中に幅を利かせた産業報国会などが労組に看板替えて握ったため、戦前からの伝統を引き継ぐ労働者たちが産別の民主的労組の結成に向かったのは当然でした。1947年、東京土建の前身・東京土木建築労働組合が結成。その後1948年10月、西部建設自由労働組合と合同で大会を開き、東京土建一般労働組合に改称し今日に至ります。杉並支部は1949年秋、東京土建西部支部から独立。馬橋2丁目の小檜山林三氏宅に名ばかりの事務所を置き、当初36人で出発しました。

第一の試練 血のメーデー事件 役員が騒擾罪で不当逮捕…のちに無罪

当初の運動の中心は労務加配米と税金対策。平等な分配が好評で順調に仲間を増やしていましたが、1952年「血のメーデー事件」で支部長、書記長ら役員が不当逮捕。事件の影響で160人いた組合員は60人に激減し、杉並支部第一の試練となりました(騒擾罪は1972年全員無罪が確定)。残った仲間が団結し運動をすすめました。



血のメーデー事件

働く者の天下が明日にも来ると信じて

【日雇健保】

1953年に成立。「カラスが鳴かない日はあっても職人が国会へ行かない日はない」と言われる精力的な運動で、8月に法の成立を勝ち取り、12月には組合を事業所とみなし組合員に健康保険を適用する「擬制適用」を勝ち取りました。「労働者が運動によってつくらせた初めての社会保険(厚生省50年史)」。

【血のメーデー事件】

1952年5月1日の第23回メーデーは、明治神宮外苑に集合。デモ隊が移動し皇居前広場に入ったところで警官隊と衝突し流血の惨事に。1219人が騒擾罪容疑で逮捕。支部から10人が参加、翌日以降5人が不当逮捕されました。のち、全員無罪。



1954年初夏初のバス旅行で小河内ダムへ

日雇健保・けい肺法・二級建築士などの運動 青年部・野球部など創設

1953年に日雇健保を勝ち取り、ついで翌54年からは「けい肺法」の運動で石工の仲間が加わり、ビキニ水爆実験を契機に原水爆禁止運動など、住民運動が広がりました。翌55年にけい肺法が成立。支部初のバス旅行も催行。翌56年は石工の仲間が集団加入し、翌57年からは二級建築士資格取得の運動が盛り上がりしました。

じん肺法勝ち取り協定賃金運動も前進 馬橋1-54 (現在の旧事務所) に支部事務所を移転

1959年1月の国民健康保険法施行で国民皆保険が実現することになりました。日雇健保への加入促進、翌60年3月にはじん肺法を勝ち取り、仲間の命を守る運動も前進。1960年は960人と全都5位まで仲間も増え、自分たちの砦が欲しいとの声が高まり、5月に組合事務所の用地等を購入、6月に移転。翌61年には事務所建設へ仲間から資金を募りました。所得倍増計画の時勢下、物価が上昇。賃上げが急務となるなか、ビラまきやステッカー貼り、自転車宣伝等を通じ賃上げを勝ち取りました。

賃金運動はテレビでも報道 たたかいと総括を通じて組織は拡大強化される

賃金・坪単価引き上げ運動はテレビでも報道され、仲間は運動の成果を確信しました(1964年の本部大会で「俺たちの貼ったステッカーが日本を動かした」などの声から「たたかいと総括を通じて組織は拡大強化される」「たたかって学び、学んでたたかう」という教訓に)。1963年4月には13周年記念文化祭を杉並公会堂で1300人で盛大に開催。7月、地区で初めてのちょうちんデモは1500人。9月、組合事務所が落成。11月からは分会会議の徹底を図りました。



完成した支部事務所

働く者の天下が明日にも来ると信じて

【協定賃金】

組合で、この金額以下の賃金では働かないぞ、と決めて親方に払わせるように運動していました。高度経済成長もあり、賃金の引き上げを実現しました。

【砂川事件】

1957年7月にデモ隊7人が砂川町(現・立川市)の米軍基地に数m立ち入ったとして、日米行政協定違反で起訴された事件。1959年3月、東京地裁で伊達秋雄裁判長が米軍駐留は違憲とし無罪の判決。検察が跳躍上告し最高裁は12月に統治行為論で差し戻し、1961年3月に地裁が有罪判決。米国の圧力に屈した日本の行政、その行政に屈して司法が歪められ、憲法の上に日米安保(米軍による支配)があるという現在の日本を形成した事件です。



仲間の手で支部事務所建設中

厚生大臣から日雇健保廃止発言 地域ごと支部再編と分会・群確立

1964年3月、厚生大臣から日雇健保廃止発言が出て、これに対し、たたかう新たな組織づくりをすすめることに。1967年には17周年記念文化祭を700人余りで開催するなど家族ぐるみで楽しみながら運動をすすめ、1968年10月の全都の支部再編と、その後の33分会・群役員体制の確立に向かいました。

東京土建杉並支部10年の総括

第二の試練 日雇健保擬制適用廃止 マスコミも不当な報復と批判

1969年、日雇健保と建設業法、健保の改悪案が出されましたが、業法と日雇健保改悪は廃案に追い込みました。翌70年、政府は1月早々に改悪法案の上程を決定。審議入りは遅れて5月の連休明け。一定の修正を経たはずの最終修正案は事前の説明と異なる内容で衆院を通過。仲間が猛抗議して参議院で5月13日(14日未明)に廃案に追い込むと、その日のうちに政府・自民党は擬制適用の廃止を強行しました。この影響で仲間の2割近い228人が脱退し、支部の人数は1221人に激減。支部「第二の試練」です。

東京土建国保組合を設立 ひと息ついて創立25周年祝う

この横暴には全都的に抗議行動がひろがりました。杉並でも5月14日のその日から区役所前で座り込みの抗議(23日まで)。マスコミも不当な報復と報じ、政府を動かして8月1日に東京土建国保組合の設立を勝ち取り、その後、運動で給付内容を拡充していくことになりました。

1971年には機関紙を組織配布に。翌72年には作業主任者の講習、翌73年には資材高騰で商社に抗議するなどの運動を展開し、1975年9月に新泉小で25周年記念祭りを開催しました。



擬制適用廃止に抗議し区役所前座り込み

働く者の天下が明日にも来ると信じて

【設立当初の東京土建国保組合】

本人10割給付、家族は7割給付。傷病手当金は本人のみで330円×22日分まで。保険料2100円。(そば1杯80円、大工の手間一日3500円くらいの時代)。

【商社による買い占め】

1970年代初頭、米ドル=金兌換の停止(ニクソンショック)、田中角栄の列島改造計画などを経て物価の高騰が続くなか、商社による買い占めに市民が抗議。

【大手の町場進出】大和ハウスを例に。1959年に「3時間で建つ」ミゼットハウスを開発し百貨店でも販売。1963年に住宅展示場を全国展開。1965年、奈良に住宅専門工場。1970年にコンピュータ導入などし住宅市場で版図を拡大。



25周年記念祭り、浜田山分会の八木節

職域防衛・地域に根差すあらたなとりくみ 住宅デーはじまる…初回は区役所前で

仲間の運動で勝ち取った区の技能功労者表彰制度で1978年1月、第1回杉並区技能功労者として4人の仲間が表彰されました。

町場への大手の進出がいよいよ進むなか職域防衛、住民の住宅要求の汲み上げをめざし、1978年6月、区の後援も得て区役所前で第1回住宅デーを開催。25件の相談がありました。

一般消費税（大型間接税）とのたたかい 住宅デー軌道に乗り分会単位へ

1979年7月、第2回住宅デーを産業館（現・産業商工会館）でおこない400人来訪で73件の住宅相談を受け、住宅デーは軌道にのりました（翌80年は杉並第一小で開催）。大平正芳内閣のもと一般消費税の導入が狙われたのに対し10月に日本武道館で国民決起集会を開くなど、反対運動を展開しました。これは1981年3月発足の「臨調」とのたたかいにつながっていきました。1982年には職域防衛をめざし分会単位での活動にとりくみ3月に5分会が住宅相談、6月に9分会が住宅デーを実施し、以後も分会での開催となっていきました。

1983年1月には杉並清掃工場が本稼働。2月から持ち込み受け付けが始まりました。

健保法改悪で土建国保への攻撃強まる 2000人支部達成し35周年式典

仕事確保めざす運動は1984年3月の住宅センター発足で新たな局面を迎えました。一方、4月に健康保険が本人1割負担に改悪され、以後10割給付の国保組合等への攻撃が強まります。運動は活発で組織はのび、1985年9月の35周年式典は支部2021人で迎え、松田区長も臨席で、午前は式典、午後は文化祭をおこないました。

1987年1月、パース講習



働く者の天下が明日にも来ると信じて

【臨調（臨時行政調査会）】

池田内閣のもと第一次臨時行政調査会（政党からの代表中心）と鈴木、中曽根内閣のもと第二次臨時行政調査会があります。第二次臨調は、土光敏夫前経団連会長を会長に、提言で現実の政策を動かしました。増税なき財政再建が最大の課題だったが「活力ある福祉社会の建設」と称して民間の活力を強調、西欧型福祉国家と異なった「選択と負担」の仕組みを力説。

【大型間接税・消費税】

政府自民党は赤字を理由に幅広い売上税を狙った結果、国民の反発を受けました。大平内閣、中曽根内閣の失敗を見て、竹下内閣が名称を消費税に変えて実態を覆い隠し、事実上の売上課税を導入したのが消費税です。



1985年9月、35周年式典で主婦の会踊り

仲間のいのちを守る分会健康教室 東京土建は7万人を突破

1987年、東京土建は7万人を突破して40周年を迎えました。杉並では1月にパース学習会、3月に「球遊会」の第1回ゴルフ大会など、学び、遊び、10月には分会健康教室も開き、健康を守る活動も。1988年9月には杉並区議会でも消費税反対を決議。国民の抗議のなか12月に消費税は強行されました。

東京土建杉並支部10年の総括

昭和から平成へ…連合・全労連も誕生 33分会から13分会へ再編

1989年1月、昭和天皇の崩御に伴い、昭和から平成へ改元。街は自粛ムードに染まりました。この年は分会の仲間のつながりを広げようと旗びらきを分会ごとにおこない、支部旗びらきは執行部と分会長で開催しました。4月からの消費税の実施を阻止するための運動が全国で続き、3月26日には7万人が代々木で大集会。結局4月1日から消費税3%は導入されましたが、7月参院選で自民党は大敗。その後の増税路線に一定の歯止めがかかりました。労働運動でも11月に連合と全労連という2つのナショナルセンターができました。杉並支部は1990年に少人数の33分会体制から13分会への再編を実行。7月12日~14日、新分会結成総会をおこないました。

1991年春の月間で3000人支部実現 非自民連立内閣が国民の期待裏切る

1991年1月には梅里中央公園で初の新年行事もちつき大会。秋には東京土建10万人突破ビデオの上映運動や土曜休日デーを実施。翌92年の春の月間を終えて3000人支部を達成しました。8月に国民の期待を背に誕生した非自民の細川連立政権は、翌1994年、細川首相の国民福祉税構想で信頼を失い7月の総選挙で社会・自民連立の村山内閣に交代し、消費税増税の道へ。



阪神大震災の住宅相談

新支部会館



働く者の天下が明日にも来ると信じて

【自衛隊の海外派兵】

1990年8月、イラクがクウェートに侵攻。翌91年の湾岸戦争で日本は130億ドルの資金を多国籍軍に援助。それでも「血を流せといわれた」として、翌92年PKO協力を制定。生贖の文民警官をカンボジアへ送り込んで殉職者が出たのを口実に、ついに自衛隊員の海外派兵を強行。その後も、なし崩しに派兵の範囲を広げ法を改悪していくことになります。

【地下鉄サリン事件】

1995年3月、東京の地下鉄に猛毒のサリンが撒かれ死者13人、負傷者6300人以上のテロ事件。世界的にも大きな影響を与えました。前年6月の松本サリン事件をまともに捜査すれば防げたとも考えられています。



「天うらら」の制作に協力した仲間たち

阪神大震災発生・復興支援に仲間が参加 1997年支部会館を購入し青梅街道に進出

1995年は阪神淡路大震災や地下鉄サリン事件などが発生。震災復興支援に杉並からも仲間が参加しました。1997年に3月に支部会館を購入して青梅街道沿いの現在地に移転。4月に消費税は5%に。仲間の技術が評価され翌98年4月から放送のNHK朝ドラ「天うらら」で技術指導とエキストラで制作に加わりました。

授業支援…学校の正規の授業で教壇に 土建まつりが支部50周年記念で始まった

1999年2月12日、初めての授業支援。東田中学校の技術家庭の授業で5人の仲間が教壇に立ちました。5月には一次下請倒産の不払事件で初めて積水ハウスに元請責任での立替払いを認めさせました。9月に組合共済をどけん共済に変更し火災共済も始めるなど、仲間の助け合い制度を拡充。翌2000年2月からは区内6診療所で健康診断。4月に介護保険が開始、住宅品質確保法で10年保証が義務化。7月に自動車共済を開始。10月29日、50周年記念「東京土建まつり」を雨の中3000人の来場者を迎え、蚕糸の森公園で開催（のちに区の名物行事に発展）。

2003年・国会で建設国保育成強化の請願採択 2004年・家族も含む入院払い戻しを開始

明けて2001年の春の月間で、支部初の全分会拡大目標達成。この年、教科書問題が浮上。戦争を反省せず歴史を軽んじる教科書が検定を通過し、杉並でも2006年度から2011年度にかけこうした教科書が使われました。土建国保は2003年建設国保育成強化の請願を国会で採択させたのを力に、2004年4月からかつてどこにもなかった家族も含めた入院医療費払い戻しを実現し新たな生命力を得ました。同年、シニアの会も設立。全年代の仲間が力を合わせ、さらに仲間を増やす運動を展開し、組織の拡大も進みました。



2008年建設アスベスト訴訟提訴集会

働く者の天下が明日にも来ると信じて

【教科書問題と歴史修正主義者】

歴史を学ぶ意義は過去を顧みて未来に活かすことにあります。「現実にあったことをなかったことに修正」する歴史修正主義者たちが教育分野での生活を図って起きたのが教科書問題です。特異な歴史観も問題ですが単純な誤りの訂正さえしなかった点も問題です。

【杉並支部は共済活動で全都をけん引】

どけん共済会の設立以来さまざまな共済活動がすすんでいます。杉並支部は自主目標をかがけて推進している火災共済をはじめ、自動車共済、自転車共済で全都1の加入率を達成、全都をけん引しています。



荻西分会は3836人の峰到達に超過達成で貢献

「2007年決戦」また改憲阻んだ9条の会 2008年・最高の峰3836人支部

改憲を阻む運動は2005年4月、セッションでの澤地久枝さん講演が再出発点に。翌06年11月に支部9条の会を設立。護憲運動の高まりは当初政権が改憲を狙った「2007年決戦」を前に安倍首相を退陣に追い込みました。2008年5月にはアスベスト訴訟を提訴、11月、秋の月間明けには支部3836人の峰（現時点での最高到達）に到達しました。

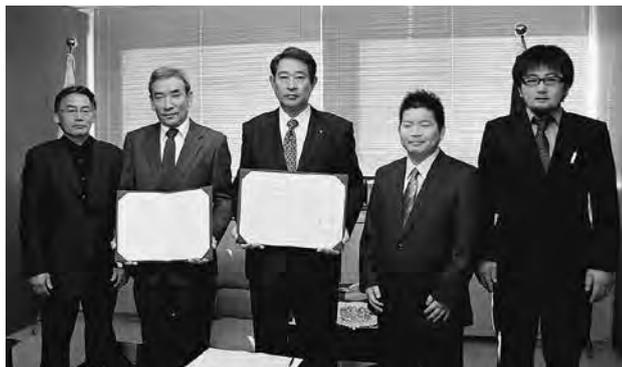
東京土建杉並支部10年の総括

空前の国保組合攻撃はねかえし 60年の歴史経て新会館を建設

年越し派遣村で明けた2009年は4月に住宅瑕疵担保保険の取り扱いを開始。支部大会で新会館建設を決め、8月には国民の大きな期待を受け民主党政権が誕生。9月に千葉県野田市で全国に先駆け公契約条例が制定されました。11月末から朝日新聞の国保組合叩きキャンペーンが始まり国保組合不要論まで飛び出しましたが、仲間の運動で跳ね返しました。2010年は1月に中野サンプラザで支部60周年旗開き。4月には杉並区から住宅用火災警報器取付事業を小規模建設業団体連絡会で受託。8月に新会館落成式。12月に公園ウォッチング、2011年2月に支部会館で初の集団健診など取り組みました。

3.11が浮き彫りにした隠れた問題 地域防災めざし杉並区と防災協定

2011年3月の東日本大震災と福島第一原発事故は、金銭や閥閥などで結ばれた財界と政治家・官僚・御用学者・メディアが利権で地域社会を分断してきたことと、人間の思考停止の問題を浮き彫りに。震災被害には5月に住宅再建支援で3人の仲間を岩手・大槌町へ送り、以後も南相馬等で復興支援活動を継続。12月に地域の防災強化をめざし杉並区と防災協定を結びました。



2011年杉並区と防災協定。中央は田中区長

働く者の天下が明日にも来ると信じて

【2009年からの国保組合叩き】

1995年にも同様の攻撃がありましたが2009年11月30日から朝日新聞が10回にわたり空前の国保組合攻撃（不当な補助金・異業種等）を展開。他社も追随し、事業仕分けなどあいまって、国保組合そのものの廃止の危機に。一部負担払い戻しなどの減額を余儀なくされましたが、仲間の運動で国保組合を守りぬぎました。

【劇映画・いのちの山河】

生命行政で名高い岩手県沢内村の深沢^{まさお}巖雄村長を俳優・長谷川初範が演じ、行脚と対話、住民自治、産業振興、健康増進等で村を明るくした実話がもとの劇映画。支部の仲間もエキストラで参加。



2012年8月31日杉並区民集会

8分会に再編し迎えた支部70周年 歴史に学び要求に団結して未来へ進む

2012年12月からの安倍政権下で、秘密保護法、戦争法、共謀罪法、TPP、2度で2倍の消費税増税などが強行され、メディアは広報と化し、不当な忖度が横行し、国のあり方全体がゆがむなか、支部は地域防災のためビーパーズを結成。2019年には8分会に再編。歴史を確信に団結した運動で未来へ進んでいきます。

1949年 (昭和24年)

西部支部から独立

1947年1月の東京土建の前身・東京土木建築労働組合の結成から2年を経た1949年10月、「杉並のことは杉並で」という仲間の意志と、「行政区ごとに支部を」との本部方針を背景に、西部支部の大会で、小檜山林三、青木万平、鈴木鶴吉、加藤兼吉、田代太郎、大井延一らを中心に分離を申し出て杉並支部は独立しました。36人からのスタートでした。最初、馬橋2丁目80番の小檜山林三宅の六帖間に机ひとつ、椅子ひとつ、謄写版ひとつの事務所を置いて、支部長は鈴木鶴吉。最初の運動は労務加配米の獲得と分配。「労務加配米受給者群」を通じ公平に分配し(現在の「群」の原型)信頼を得て、急速に組合員を増やしていきました。



組合誕生を紹介した機関紙

《労務加配米の獲得》
 当時は食料や労務物資は配給であり、重要産業で働く肉体労働者に食料品を優先的に上積み配分する制度。地下足袋なども組合を通じて分配しました。

《世相》
 4月 1ドル360円の単一為替レート
 7月 下山事件
 三鷹事件

1950年 (昭和25年)

失業者広がるなかでの新宿事件

「怪我と弁当は手前持ち」とされた建設業界、せめて安心して医者にかかりたいとの要求に3月から日雇健保獲得の運動が始まりました。5月には全支部で初めての塗装工部会を設置。6月に朝鮮戦争がはじまるとGHQは共産党幹部の公職追放、機関紙アカハタの発行停止を指令、日本労働組合総評議会(総評)が7月に結成され、8月には警察予備隊が創設されるなか9月、新宿職安での職よこせ行動のなかで一人の仲間が警官に拳銃で撃たれ、検挙者27人重軽傷113人。事件を報道した東京土建機関紙「じかたび」が発刊停止(新宿事件)。10月、矢田忠昭氏が最初の専従書記に。11月、税務署交渉開始「職人からは事業税をとるな」。組合員100人に。



誕生翌年の機関紙

《世相》
 1月 千円札が登場
 6月 朝鮮戦争はじまる
 7月 総評結成
 レッドパージはじまる
 8月 警察予備隊創設
 9月 杉並区で小学校の完全給食実施
 11月 自由労働者が東京土建から分離
 東京土建は建設職人だけに

1951年 (昭和26年)

組合員着々増える

朝鮮戦争の補給基地となった日本では特需が発生(53年までに24億ドル。当時の年間の貿易額10億ドル程度)。特に7月の休戦会談開始後は鋼材など復興用資材の調達が増大した。日本の戦後占領をどう終了するかが国民的議論をよぶなか、6月に東京土建は「平和宣言」を発表。

「単独講和は戦争への道です」と訴えた。しかし9月8日に講和条約と日米安保条約に吉田茂首相が調印。今に続くアメリカの支配体制を決定づけた。9月、失業対策委員会(会長有沢広己)が日雇健保制度創設の意見書を内閣に提出。杉並支部は5月時点で組合員192人、10月には港区白金三光町に本部が移転。11月には世田谷支部が結成。

当時の組合員名簿

《世相》

- 1月 第1回紅白歌合戦
- 3月 日本初の総天然色映画「カルメン故郷に帰る」(木下恵介監督・主演高峰秀子)
- 4月 マッカーサー元帥罷免
- 7月 朝鮮戦争休戦への会談
映画「どっこい生きてる」
- 9月 サンフランシスコ体制
講和条約と日米安保条約

1952年 (昭和27年)

組合第一の試練「血のメーデー事件」

1月に日雇健保獲得期成同盟を結成(結成大会は4月23日)、運動が本格化していく。占領終結後初となった5月1日の第23回メーデーは、明治神宮外苑に集合。デモ隊が移動し皇居前広場に入ったところで警官隊と衝突し、流血の惨事となった(血のメーデー事件)。支部から10人が参加したが、後日、騒擾罪の名目で、支部長、書記長ら5人が警察に逮捕された(騒擾罪については騒擾の成立認めず全員無罪が1972年確定)。この事件の影響で160人だった組合員が一挙に60人に激減。杉並支部は存亡の危機を迎えた。それでも残った仲間が団結して、日雇健保獲得の運動を中心に再び仲間を増やしていった。大工左官協定賃金700円。



メーデー事件

《世相》

- 2月 日米行政協定調印
- 4月 鉄腕アトム連載開始
GHQによる占領解除
- 7月 破壊活動防止法成立
東京国際空港(羽田)が業務開始
住民登録制度が実施
- 8月 日本、IMF加盟
- 10月 警察予備隊が保安隊に改組

1953年 (昭和28年)

日雇健保成立で 建設職人に初めて健康保険が

4月8日、メーデー事件で投獄されていた矢田忠昭書記が出所。阿佐谷3丁目、矢田氏宅庭に1坪の事務所を作り移転。組合員約60人。

8月7日、日雇労働者健康保険法が成立。日本で初めて労働者の要求でつくった健康保険。当初は従業員5人以上の事業所でしか使えなかったため、組合を事業所に見立てた「擬制適用」を求めて運動を続け12月に適用を勝ち取った(実施は翌年)。これと前後して労務加配米制度が廃止された。12月24日は奄美群島返還の日米協定も調印。

6月19日米国がローゼンバーグ夫妻を核兵器のスパイとして死刑執行。8月8日ソ連が水爆保有を発表し、核の脅威が広がった。



朝鮮戦争停戦協定の年

《日雇労働者健康保険法 (日雇健保)》
 10割給付ながら期間は3カ月限り。国庫負担は事実上ゼロなど、当初は劣悪な内容だったが、職人が医者にかかれるのは画期になった。

《世相》
 2月 NHKが日本初のテレビ放送
 3月 バカヤロー解散
 5月 ヒラリーとテンジンがエベレスト初登頂
 7月 朝鮮戦争休戦協定調印

1954年 (昭和29年)

けい肺法運動、原水禁運動はじまる

1月16日、馬橋会館で第5回支部大会を代議員38人で開催。小木勝三郎が支部長になり新執行部体制に。2月20日からの税金確定申告に備えて群会議が始まった。東京土建全体では1月に炭鉱労働者の組合などと協力して労働組合けい肺対策委員会を作り、けい肺法の制定などを求め労働省前座り込みなどの運動を重ねた(翌年にけい肺法制定)。3月のビキニ水爆事件で「放射能マグロ」の報道もあり魚は売れず。杉並の魚屋さんの訴えを皮切りに水爆反対の声が高まり、5月に原水爆禁止杉並協議会ができ、区議会も禁止の決議を採択。署名は人口39万人の杉並区で30万筆集まり、翌年の世界大会の原動力になった。第1回の阿佐谷七夕祭り。



けんせつにのった杉並の記事

《世相》
 1月 50銭以下の小銭廃止
 3月 ビキニ環礁水爆実験第五福竜丸他が被ばく
 5月 フランス=インドシナ戦争・ディエンビエンフー陥落
 7月 自衛隊発足、新警察法施行。警察庁と都道府県警察
 9月 ベネチア国際映画祭で「七人の侍」「山椒大夫」が銀獅子賞
 洞爺丸事故(台風で青函連絡船が沈没)

1955年(昭和30年)

けい肺法成立 當摩宅へ事務所移転

2月15日、馬橋会館で第6回支部大会を開催。前年の倍近い代議員73人が参加。250人支部をめざす、健保、仕事確保、滞納一掃などを討議。7月「納涼の夕べ・家族慰安会」を高円寺白木屋ホールで開催し、500人近い組合員・家族が参加。8月頃、組合員の協力で當摩氏宅の庭(東田町1-15)に新事務所が完成、移転。建坪は2坪だが電話も入った。7月27日けい肺法が制定。7時間にわたる労働省交渉や40日間に35回の国会行動など、粘り強いたたかいで、職業病に対する単独の保護法をはじめて勝ち取った。内容不十分な時限立法だったため、職業病対策委員会に発展改組して運動を続けていく。10月10日、初のバス旅行で45人が長瀨へ。



豊島公会堂での家族慰安会

《東京土建杉並支部》

初のバス旅行(長瀨)45人が参加
11月7日 東京土建4000人突破記念家族慰安会
豊島公会堂で開催

《世相》

- 2月 55年体制はじまる
- 3月 日本生産性本部創立
- 8月 原水爆禁止世界大会
- 9月 砂川基地闘争始まる

1956年(昭和31年)

石工の仲間が集団加入

けい肺法制定で石工の意識が大きく変化、権利意識がもてない状態から、たたかいのなかで目覚めていく。5月9日、組合未加入の石工たちに集団健診を呼びかける説明会を馬橋会館で開催し、説明会に参加した杉並、中野在住の石工たちが組合に集団加入した。

8月末で組織人員は221人(区内土木建築労働者は6365人…昭和25年国勢調査)。10月15日には相模湖、津久井溪谷へのバス旅行に40人が参加。会費450円。晴天に恵まれ、車中では歌合戦も飛び出し、安上がりだったと好評。

日雇健保の給付改善が進む(療養給付期間が6カ月から1年に伸びる、分娩費、埋葬料の創設など)。



当時の組織の現況

《世相》

- 5月 水俣病公式に発見
- 6月 区長選任制へ移行 初代は高木敏雄氏
- 7月 「もはや戦後ではない」の経済白書
- 10月 日ソ共同宣言、ソ連との国交回復
- 12月 石橋湛山内閣

1957年 (昭和32年)

二級建築士資格取得の運動

1月支部大会、馬橋会館に60人の代議員。

この年、日本建築士連合会の要求により、建築士の改革案が自民党から出た。資格がなくても設計監理ができる基準を45坪までから30坪に変えるもので、事実上設計監理の独占を狙ったもの。東京土建は撤回を申し入れて運動し、2級建築士には臨時先行で免許を与えるなど一部修正させ、その後も交渉の末、実務経験での資格取得などを勝ち取った。この成果をもとに拡大が進む。

7月30日、杉並法人会館で2級建築士資格取得決起大会。200人が参加。9月20日、資格取得のための最初の講習会。11月30日には組織人員470人。12月28日一次合格者が発表。



二級建築士獲得の決起大会

《世相》

- 2月 第一次岸内閣
- 8月 第1回高円寺阿波踊り
- 10月 五千円札が発行
世界初の人工衛星スプートニク打上
- 11月 風呂代16円に
- 12月 百円硬貨発行

1958年 (昭和33年)

136人が二級建築士に 青年部等創設

1月15日、中野温泉で支部大会 (293人)。

4月8日バス2台で鎌北湖にお花見。青年部が中心になって110人が参加。

4月に二級建築士最終合格者が発表。杉並支部からは136人が合格。5月末組織人員は544人。7月1日、杉並支部2級建築士事務所が発足。全都の先駆的な活動に。同日、職業訓練法が制定されたことをうけ、8月に事業内職業訓練所開設の要請を杉並区に提出。この年、青年部の他、支部野球部創立。8月15日には新宿社会保険出張所チームと親善試合。9月日雇健保印紙貼り付枚数引き上げ反対集会 (90人)。9月下旬の狩野川台風で杉並区も災害救助法適用 (適用床上浸水4110戸) となる大被害。



野球部創立当時のメンバー

《狩野川台風》

最低気圧は877hPa、最大風速75m。神奈川に上陸し秋雨前線を刺激し東日本に大雨。遡って公式に命名された。

《世相》

- 4月 売春防止法施行、赤線消える
- 11月 ミッチーブーム
- 12月 一万円札が発行
東京タワー竣工

1959年 (昭和34年)

日雇健保で組織拡大、砂川事件で重大判決

1月15日、高円寺会館で支部大会 (90人)。

この年の1月に国民健康保険制度が施行され、国民皆保険が実現することになり、10月に東京都の国民健康保険実施が狙われる中、社会保障推進協議会をつくり、日雇健保への加入促進の運動、国保をよくする運動を展開していく。

2月25日、青年部第2回大会。

1960年の安保改定にむけて3月28日、日米安保条約改定阻止国民会議が結成。3月30日には砂川事件で米軍駐留違憲の東京地裁判決 (伊達判決) 運動が盛り上がった。

10月27日、伊勢湾台風で被災した仲間への救援カンパが杉並支部で1万円。12月16日、砂川事件の跳躍上告審、最高裁が差し戻し。



日雇健保すすめる機関紙記事

《世相》

- 1月 国民健康保険制度施行 (国民皆保険)
- 3月 砂川事件、米軍駐留違憲の「伊達判決」
- 4月 最低賃金法施行
- 5月 東京都の人口900万人突破
- 8月 ハワイ、アメリカ50番目の州に
- 9月 伊勢湾台風、名古屋中心に全国で大被害
- 12月 北朝鮮への在日朝鮮人の帰還事業開始

1960年 (昭和35年)

じん肺法かちとる 協定賃金運動も前進

1月15日杉並公民館で支部大会 (130人)。1月末の組織人員は960人 (全都5位)。

5月9日、組合事務所の用地・建物を140万円で購入 (当時・馬橋1-54。現・梅里2-34-13) し、6月に支部事務所を移転した (建物は3年後に立て替え)。3月31日、じん肺法制定。

10月16日、世田谷公園で開催された東京土建全体の運動会に支部10周年記念行事として参加。

11月1日、国民年金法が成立。保険料徴収は翌年4月からだったが組合としては給付内容が改善されるまで加入を見合わせる方針。

1月に日米改定安保条約 (地位協定が付随) が調印され、空前の反対運動のなか6月に条約は発効した (60年安保闘争)。



本部13周年支部10周年行事を報じたすきなみ

《世相》

- 1月 社会党から民主社会党が分裂
日米改定安保条約調印
- 3月 じん肺法制定
- 6月 反安保運動うけアイゼンハワー米大統領の訪日中止。岸内閣退陣表明
- 9月 カラーテレビ放送開始
- 10月 浅沼稻次郎社会党委員長が刺殺される

1961年 (昭和36年)

新事務所建設と協定賃金運動にまい進

3月1日支部大会 (160人)。第2次事務所建設運動が始まった。組合員一人1000円の貸付(5年間無利子)と有志による大口貸付で目標300万円。5月末組織人員922人。

7月1日、基本職種1500円の新協定賃金実施。7月18日~19日、阿佐谷、高円寺駅等でビラ1万枚配布、翌週も工作隊を編成しビラまきやポスター貼り。7月17日、本部主催の富士登山に参加。7月24日~25日、協定賃金と拡大の宣伝行動。ビラまきやポスター貼り、自転車隊や宣伝カーも活躍。2月に新中野まで開業していた丸ノ内線の延長工事がさらにすすみ、11月には南阿佐ヶ谷まで開業。6月16日に善福寺公園が開園するなどまちなも変化。



本部主催富士登山に参加

《世相》

所得倍増計画

- 3月 東京都清掃局、路上のごみ箱撤去し曜日毎回収
名張毒ぶどう酒事件
- 4月 ガガーリンが初の有人宇宙飛行
- 5月 アラン・シェパードが米国初の有人宇宙飛行
- 8月 第一次西成暴動
- 9月 第1回非同盟諸国会議
- 10月 ソ連が水爆実験 (ツァーリ・ボンバ)

1962年 (昭和37年)

1000人を一気に突破 分会から群会議へ 婦人の会発足

1月15日、新宿の十二社温泉で支部大会 (240人)。4月5日、多摩動物公園へバス2台で花見。96人参加。4月25日、支部の婦人会が発足 (現在の主婦の会)、料理や民謡踊りの講習を週1回程度。7月31日、組織人員960人。8月5日から協定賃金1700円のステッカー貼り (3日間のべ74人)。10月3日、群長会議のなかで年内に1200人支部実現をめざし拡大に取り組むことを決定。11月には青年部の機関紙「躍動」が創刊。12月5日、阿佐ヶ谷天祖神社で活動者会議。1200人達成のめどがつき、翌年4月に1500人達成を新たな目標とした。賃金・坪単価引き上げ運動は内外に大きな反響を呼びテレビでも報道され、仲間は運動と成果を確信した。



第33回メーデーは土管とルンペン姿で住宅不足を風刺

《世相》

- 1月 丸の内線が荻窪まで開業 (青梅街道を走っていた都電杉並線は翌年廃止に)
- 2月 都の人口が1000万人に
- 6月 東海道新幹線試運転開始
- 8月 第8回原水禁大会が分裂 (ソ連の核実験への態度めぐり)
- 10月 キューバ危機

1963年 (昭和38年)

組合事務所が完成 初のちょうちんデモ

1月15日、杉並法人会館で支部大会(171人)。文化祭までに1500人の支部を目指す。

4月14日、支部創立13周年記念文化祭を杉並公会堂で開催(組合員・家族1300人)。4月30日、矢田忠昭氏が杉並区議会議員に当選。6月1日～3日青年部が尾瀬旅行(22人)。7月18日、土建共闘による杉並地区初めてのちょうちんデモ。雷雨の中、杉並公会堂で1500人(杉並支部800人)が賃金・工事単価引き上げ、減税、社会保障拡充などを求めて集会。菊地区長、鈴木区議会議長も出席。集会後、阿佐谷駅までデモ行進した。8月15日、組合事務所の上棟式。9月27日に事務所落成祝賀会。11月から分会会議を徹底。



組合事務所建築中

《世相》

- 3月 東京で戦後3番目の大雪
- 8月 部分的核実験禁止条約
料金値上げで東京の風呂屋スト。大人23円に
- 11月 新千円札発行
ケネディ暗殺
- 12月 都電杉並線廃止

1964年 (昭和39年)

1500人支部を実現 労働金庫との取引開始

1月16日杉並法人会館で支部大会。3月25日婦人部が初の旅行で湯河原すぎなみ荘へ(42人)。4月27日から28日中川温泉で群長会議。日雇健保をめぐる情勢を学習。5月5日、バス5台で新緑の名栗温泉に家族慰安旅行。3月の厚生大臣の日雇健保廃止発言に総決起して反撃し撤回に追い込んだ。5月19日第4区(選挙区)日雇健保危機突破大会を杉並公会堂で開催。会場内に1300人、場外にも1300人が結集した。

この年の本部大会で「俺たちの貼ったステッカーが日本を動かした」などの声から「たたかいと総括を通じて組織は拡大強化される」「たたかって生活を改善する」「たたかって学び、学んでたたかう」という教訓が定式化された。



第14回大会

《世相》

- 4月 OECDに加盟
- 6月 新潟地震(1971の建築基準法改正へ)
- 7月 米国・公民権法(黒人差別禁止)制定
- 10月 東海道新幹線開業
東京オリンピック
杉並初のアニメ制作会社東京ムービー設立

1965年 (昭和40年)

組織整備軌道にのる

1月16日、方南会館で支部大会(200人)。この年も日雇健保のたたかいが続く。2月26日、杉並公会堂で保険料値上げ粉碎決起集会。通常国会への上程を見送らせた。

5月12日~13日、群長会議を奥多摩「鳩ノ巣」で開催し、支部組織の整備への意志を統一。6月1日に中央分会(28人)が当摩定吉を分会長に発足、井草、井之頭西分会なども発足。7月2日、高円寺・馬橋分会主催のちょうちんデモで日雇健保改悪反対を訴えた(300人)。9月8日には土建共闘で反対集会(会場からあふれる1500人)。10月8日には日比谷野音で中央決起集会。秋の国会への上程も見送らせた。

11月3日、杉並第二小で運動会(1665人)。



日比谷での集会

《世相》

- 2月 米国、北爆開始(ベトナム戦争)
- 3月 都議会贈収賄事件へ
- 4月 杉並区中学校完全給食
- 6月 日韓基本条約
- 7月 名神高速道路開通
- 8月 杉並生まれアニメ第一作「おぼけのQ太郎」が放映
- 12月 区に初の電子計算機導入(徴税強化)

1966年 (昭和41年)

建設業の退職金制度始める

1月16日、杉並公会堂で支部大会(200人余)。

初めて分会別による比例代表制、専門部長の選挙もおこなった。2000人の組合めざす。日雇健保のほか建設業法改悪ともたたかった。4月1日には退職金制度を発足。中央分会が百草園へ花見。4月15日、成田分会が高円寺体育館で卓球大会など交流。6月16日は「音なしデー」一斉休業で都庁、日比谷で集会とデモ。杉並支部からは1015人(4月末の組織人数は1639人)が参加。東京土建で最高の動員数だった。

7月2日、杉並公会堂で組織拡大祈念文化祭(600人)。7月に事務所を改築。9月19日杉並社会保障連絡会議結成。10月、2級建築士受験準備講座を開始。11月8日ソフトボール大会。



音なしデー集会に支部から1015人が参加

《世相》

- 1月 小繋事件有罪確定(入会権を否認)
- 4月 メートル法実施
NHK TV「おはなはん」
- 6月 台風4号で災害救助法適用
ビートルズ来日
- 8月 中国文化大革命
- 9月 政界の黒い霧-共和製糖不正融資事件
- 11月 高井戸清掃工場の案発表

1967年 (昭和42年)

たたかいのなかで組織再編進む

3月20日、杉並公会堂で17周年記念文化祭を開催(700余人)。5月から組織再編始まる(分会100人、群10人の案)。仕事に必要な運転免許取得の取り組み、武蔵小金井教習所と協定。6月21日、東小金井浴恩館で支部大会(150人)。8月25日、西部ブロック野球大会で杉並完全優勝。10月、交通災害共済の取り組み、10月12日土建共闘賃金パレード。11月5日、松ノ木小学校で運動会(650人)。仮装行列も華を添えた。たたかいの分断狙う政府は4月に健保特例法案を国会に提出。これは自民・社会党の妥協と民社党の提案を経て8月に時限立法として強行成立。11月20日ちょうちんデモ(2000人)。建設業法や都市開発3法改悪の動きも。



組織再編すすむすぎなみ1967年10月号記事

《建設業法・都市三法(都市再開発法、都市計画法、土地収用法)》
東京へのさらなる資本、情報、人口集中を招き、地価高騰、都心部から住民を追い出すものとして組合は反対。

《世相》

- 4月 美濃部革新都政誕生
- 5月 イタイイタイ病
- 8月 公害対策基本法
- 12月 大阪タクシー汚職事件

1968年 (昭和43年)

日雇健保締め付け強化

2月1日~2日、伊豆稲取旅行。3月1日に医療保険制度全般を改悪する厚生省の試案が発表され、日雇健保の新規加入も一時ストップされる(その後交渉で撤回させた)など、たたかいは新たな局面に。3月28日杉並地区総決起集会をはじめ、集会や行動を重ねる。

5月7日、区立産業館で支部大会(129人)。

7月1日、生活と健康を守る杉並地区大集会。8月27日の中央総決起大会に246人が参加。運動の体制強化をめざし10月、第二次組織再編成計画をたてる。10月3日、青年部、本部野球大会で初優勝。10月12日、組織再編活動者会議。11月22日、区立産業館で臨時支部大会。11月23日、東田中学校で運動会。



第一次再編計画このあと第二次も

《世相》

- 中国文化大革命
- 4月 区の将来像「緑の豊かな福祉文化都市」
 - 5月 十勝沖地震(青森・北海道で地盤崩壊、津波等被害)
 - 6月 小笠原諸島返還
 - 7月 NPT核拡散防止条約
 - 8月 チェコ「プラハの春」とソ連ら軍事介入
 - 12月 三億円事件

1969年 (昭和44年)

土俵際に立つ日雇健保

1月7日、日雇健保改悪の厚生省案が発表(390円の保険料が1800円へ上がるなど)。3月に闘争資金分担金1000円を全組合員から募り3月28日都庁決起集会を皮切りに運動。4月25日、浜田山会館で支部大会(120人)。矢田書記長が本部へ異動、6月17日に区立産業館で壮行会(119人)。7月9~13日、連日の国会行動。翌14日未明衆議院本会議で記名投票中に突然起立採決に切り替えて灰皿とびかう混乱の中、健保特例法修正は強行可決。日雇健保と建設業法の改悪案は廃案に。

7月、組合・家庭共済を開始。7月23日には土建共闘で海水浴。暮れの総選挙で自民党が300議席を確保、日雇健保の闘争は新たな局面に。



起立採決の怒りの中で松本善明議員の報告を聞く仲間たち

《世相》

- 1月 東大安田講堂事件
- 3月 中ソ国境紛争
- 4月 杉並区科学教育センター開館
- 5月 東名高速道路全通
- 6月 初の公害白書
- 11月 住居表示完了
SALT戦略兵器削減交渉
佐藤・ニクソン会談

1970年 (昭和45年)

第二の試練…日雇健保擬制適廃止

政府は1月早々に日雇健保改悪法案の上程を決めた。1月28日、メーデー事件での東京地裁の不当判決。3月27日の都庁前集会で総決起の先陣に。5月連休明けに審議入りした法案は一定の修正をされたが、5月12日の最終修正案は事前の説明と異なり検討の余地のないものだった。そこで衆議院は通過させたが、13日に参院で廃案に追い込んだ。するとその日のうちに政府と自民党は報復措置として擬制適用を廃止。この擬制適用廃止で228人が脱退し1221人に。支部では即日5月14日から区役所前で座り込み(~23日)抗議。8月1日に東京土建国保組合設立を勝ち取った。6月、職業訓練指導員35時間講習の最後。9月、建設業者登録253人申請。



区役所前座り込み

《世相》

- 1月 メーデー事件に東京地裁で不当判決
- 3月 大阪万博
よど号ハイジャック
- 4月 下高井戸に初の区立幼稚園
- 5月 建築基準法「改正」
日本山岳会エベレスト初登頂
- 11月 三島由紀夫割腹事件

1971年 (昭和46年)

機関紙組織配布に

3月13日、重税反対行動(600人)。4月21日~22日、箱根湯本ホテルで支部大会(120人)。機関紙を組織配布体制に。6月に同好会「愛釣会」、7月に民謡の「建謡会」が発足するなど交流すすむ。7月27日中央決起大会(50人)、8月3日海水浴バス4台220人参加。行動券廃止決まる。10月、建築士会再建。10月3日、主婦の会ぶどう狩り勝沼47人、10月24日、杉並第九小学校で運動会(500人)。タバコ火つけ競争も。12月、付加価値税反対署名開始。カンパでベトナムに輪転機送る。4月に零細業者から仕事を奪う建設業法の「改正」案が可決。付帯決議も含め一定の修正を勝ち取った(許可不要な範囲を100㎡未満から150㎡未満になど)。



バス4台で海水浴に

《世相》

- 2月 杉並区緑化対策で苗木配布
- 4月 2期目美濃部都知事
- 6月 建設業法「改正」
26年間の空白ー沖縄返還協定の虚空
- 8月 金兌換停止でドル(ニクソン)ショック
- 10月 保利書簡
- 12月 地域地区改正で審議会発足

1972年 (昭和47年)

作業主任資格取得の取り組み

1月13日、大宮八幡で支部旗びらき(140人)。1月17日、拡大群長会議。5月1日メーデー、出し物は「へいごし」(25人)。5月5日、九十九里センターで支部大会(106人)、當摩長栄委員長に交代。5月11日、健保で厚生省中庭で集会。6月14日、大宮八幡清涼殿で小木元支部長慰労会(132人)。作業主任の取り組み(労働安全衛生法による)。7月19日、日比谷野で中央決起大会(139人)。8月2日支部海水浴、三浦半島(長浜海岸)バス2台。10月29日、杉二小で運動会(400人)。12月15日、拡大実績160人(目標200人)。

10月施行の労働安全衛生法に対応し8月から作業主任者免許取得を呼び掛けた。



中央決起大会

《世相》

- 2月 札幌冬季五輪
横井庄一さん帰国
- 5月 沖縄返還
テルアビブ空港襲撃事件
- 6月 ウォーターゲート事件
- 7月 田中角栄内閣誕生
- 9月 日中共同宣言で日中国交回復
- 11月 宮前図書館開館

1973年 (昭和48年)

資材高騰で商社に抗議

1月13日、大宮清涼殿で統一新年会。
 大手商社の買占めにより木材価格は5カ月で2.6倍、工事単価も坪当たり5万円もあがり、工事中止、契約取り消しが相次ぐなか3月22日、日比谷野外音楽堂に集合し、三菱商事、日商岩井、丸紅飯田など大手6商社へ直接抗議行動(5400人。支部94人)。この様子は新聞各紙のほかテレビニュースにもなり、6大商社代表がそろって記者会見で謝罪をするまで追い詰めた。
 4月24~25日、湯河原・紅葉館で支部大会(121人)。5月15日を皮切りに6月に杉並地区の決起集会、7月13日、8月28日、11月28日に中央集会。建設資材放出や値上げ反対を訴えた。杉並清掃工場建設推進区民大会にも参加。



通産省中庭で抗議

- 《世相》
- 1月 ベトナム和平協定
 - 5月 杉並区で障害児も保育する荻窪南保育園を開園
 - 7月 老人医療費助成65歳以上に引き下げ
 - 8月 金大中事件
 - 10月 第一次オイルショック (第四次中東戦争) 狂乱物価
 - 12月 労災保険法改正 (通勤災害の給付)

1974年 (昭和49年)

建設資材再確保で経団連へ抗議行動

1月26日、生活防衛のたたかい午前中通産省、午後明治公園 (支部50人)。2月18日、生活防衛・建設資材確保中央決起集会(1万4000人、支部376人)経団連と交渉。3月29日、阿佐ヶ谷中学校で春闘勝利杉並地区決起集会(支部150人)。4月23日~24日、箱根強羅「ドリームホテル」で支部大会(140人)組合費2500円。5月メーデーでユーモア賞。7月16日中央決起集会(支部58人)、8月23日全都建設労働者決起集会(支部49人)、12月6日中央決起集会(支部200人)、三菱銀行などへ抗議、1人10円預金。
 1970年に新設された土建国保への都費補助は23区国保と比べて6分の1程度だったが、粘り強い運動でこの年度に特別区並みの補助を獲得。



高円寺を通るデモ

- 《世相》
- 3月 超能力ブーム
小野田寛雄少尉帰国
 - 6月 区長公選制が復活
杉並清掃工場用地和解の方向へ
 - 9月 南伊豆健康学園開園
 - 11月 杉並清掃工場用地が和解調印で7年6カ月ぶりに解決

1975年(昭和50年)

支部創立25周年を祝う

2月18日、賃金統一行動(150人)。3月13日、区立産業館で重税反対行動(459人)。3月25日中央決起集会、4月21日~22日、所沢の湖畔荘で支部大会(111人)。5月20日、都庁前集会、7月23日、中央決起大会(43人)。7月、対区交渉(修築資金制度など要求)継続審議となる。9月14日、新泉小で創立25周年記念祭り(650人)。分会対抗演芸部門で西荻分会の大漁節が1位。他の地区へ移った元活動家も参加し和やかに。10月、付加価値税反対のとりくみ。秋の月間拡大37人にとどまる。12月5日、社会文化会館で中央決起集会。12月20日、住宅資金都融資説明会、区民60人が参加。



25周年祭り1位西荻分会の大漁節

《世相》

- 4月 杉並区で24年ぶりの公選区長に菊地喜一郎が就任
- 5月 稲葉法相の憲法発言
- 7月 沖縄海洋博
- 10月 ハノイに日本大使館
- 11月 先進国首脳会議サミットに初参加

1976年(昭和51年)

団体生命が発足

2月26日、都庁集会と通産省へ抗議(支部34人)。3月18日、賃金統一行動…22分会が自動車パレード、駅頭ビラまきなど。4月22日~23日、箱根湯本「おかだ」で支部大会(117人)。5月メーデーで3年連続ユーモア賞。公的融資説明会。5月11日、区議会区民委員会で技能功労者表彰制度採択。7月21日、都・中央決起大会(支部58人)。8月1日、全労済の「団体生命」発足(350人が参加)。8月5日、中川温泉でマスつかみどり(96人)。8月26日、対都交渉で座り込み(33人)。9月7日、天祖神社で組織強化拡大活動者会議(114人)。9月10日、修築資金で区長交渉(18人)。12月「ハウス55」の動き急。国民年金特別納付取り組み。



賃金ステッカー貼り 西荻分会

《世相》

- 2月 ロッキード事件発覚
- 3月 西保健所にがん検診機を導入
- 4月 天安門事件(一次)
松溪公園開園
- 5月 中央自動車道高井戸・調布間が開通
- 7月 田中角栄逮捕
- 10月 王貞治715号ホームラン
酒田市大火

1977年 (昭和52年)

修築資金制度が発足 群の確立話題に

1月14日、区長交渉・修築資金制度の実施を確約。2月、機関紙すぎなみ300号に。3月13日、天沼児童公園から重税反対行動(450人)。4月21日、塔ノ沢・観山苑で支部大会(133人)。6月3日、新宿、中野、杉並支部合同で要求実現決起集会(支部56人)。6月印紙税改正。6月20日、区で修築資金募集、21件の申し込み。7月20日、都・中央決起大会(54人)。7月26日、産業館で群確立のための活動者会議(92人)。8月25日、都庁集会・住宅局前座り込み(23人)。9月27日、3会場で組織拡大・ブロック活動者会議。11月組織人員1166人、11月9日、健保法案成立(国保補助40%)に。12月、「職人憲法」が毎日新聞で建築費が安く良心的と紹介。



分会長会議

《職人憲法》

軸組工法の施工と住宅建築業務の基準をまとめたもの。全建総連が発行。

《世相》

- 4月 移動図書館「たびびとくん」運行開始
- 7月 上井草地区居住環境整備がスタート
- 8月 杉並区第2回緑化基本調査(緑被率は21.56%)
- 12月 歯科休日診療を開始

1978年 (昭和53年)

住宅デーはじまる

1月16日、杉並区技能功労者表彰式、支部から4人(宇田川義夫・小林政則・酒井勇一、中村昇三郎)が受賞。3月13日、天沼南公園から重税反対行動。3月25日、賃金行動(120人)。4月23日、国民年金説明会(91人)。4月25日~26日、河口湖・丸栄ホテルで支部大会(143人)。5月メーデーでユーモア賞。

大手企業の町場進出が進み高度成長期後の不況もあいまって仲間の仕事は減少。そこで6月25日、地域の信頼確保で職域防衛、住民の住宅要求汲み上げなどめざし区の後援も得て区役所前で第1回住宅デーを開催。25件の住宅相談を相談員16人で。7月16日、国民年金「特例納付」受付開始。10月12日、ちょうちんデモ(142人)。



8.22都庁集会

《世相》

- 4月 ヴァンジャケット倒産
- 6月 宮城沖地震
- 8月 日中平和友好条約署名
- 9月 杉並区で個人情報の保護に関する条例
稲荷山古墳鉄剣の文字解読
- 10月 杉並区で休日の夜間急病診療所を開設

1979年 (昭和54年)

一般消費税反対の国民的運動

1月13日、産業館で新年旗びらき (127人)。3月25日、伊藤清東京土建執行委員長逝去。4月1日、土建共闘賃金行動。対区交渉と現場回り、協定賃金1万4000円。4月25日~26日、石和温泉「ホテルふじ」で支部大会 (140人)。5月、第50回メーデーでユーモア賞。7月1日、産業館で第2回住宅デー。来訪者400人で住宅相談73件。7月17日、都・中央決起集会 (支部114人)。8月22日、トヨタの住宅進出阻止で区内営業所へ要請。8月28日、全都・中央決起大会 (支部103人)。9月26日、阿佐谷中学校からちょうちんデモ。10月2日、日本武道館で一般消費税反対国民総決起集会 (支部108人)。



運動会たばこ付け競争

《世相》

- 1月 一般消費税導入騒動
- 2月 イラン革命・2次オイルショック
中越戦争
- 4月 杉並区立済美養護学校開校
- 6月 東京サミット開催
- 10月 上井草総合運動場が都から移管
- 12月 ソ連アフガン侵攻

1980年 (昭和55年)

健保改悪反対運動活発に

1月10日、産業館で旗びらき (126人)。2月26日、都・中央決起大会 (支部110人)。3月13日、高円寺中央公園から重税反対統一行動 (400人)。4月21日~22日、石和温泉「ホテルふじ」で支部大会 (155人)。4月23日、都・中央総決起大会 (支部71人)。5月、メーデー、アイデア賞。5月21日、高円寺第2分会で分会新聞発行。7月13日、杉並第一小で第3回住宅相談会。500人来訪で相談68件、係員120人。

7月22日、都・中央総決起大会 (支部132人)。8月10日、青年部、本部野球大会で優勝。10月10日、6会場で作業主任説明会 (210人)。

健康保険法・労災保険法の一部改正や税理士法改悪反対闘争などをたたかった。



第3回住宅無料相談会

《世相》

- 3月 セントヘレンズ山噴火
- 4月 弓ヶ浜学園開園
- 5月 国会が解散。大平首相急死の「重い選挙」で自民圧勝
韓国・光州事件
- 7月 モスクワ五輪 (日米不参加)
- 10月 「不燃化促進計画推進協議会」発足

1981年 (昭和56年)

会館建設問題もちあがる

1月14日、産業館で旗びらき (160人)。1月27日、対区交渉 (75人)。2月25日、対区交渉・中央総決起大会 (106人)。3月13日、重税反対申告行動 (513人)。3月25日、都・中央総決起集会 (支部98人)。4月21日~22日、石和温泉・「ホテルふじ」で支部大会 (173人)。6月、老人医療改悪案出る。6月17日、産業館で住宅デー学習会・土建共闘 (27人)。7月19日、若杉小で第4回住宅無料相談。木工教室もひらき、来訪者300人、相談51件。8月から建退共加入運動。9月3日、建退共受付、10人が最初に参加。10月26日、支部事務所移転計画案で。11月30日、老人保険法案に区議会でも反対の採決。3月発足の臨調とのたたかいの年に。



賃金討論

《世相》

- 1月 共産党レーガン就任
- 3月~ 神戸・ポートピア81
杉並区中杉通り開通式
- 6月 耐震基準大改正 (木造の基準大改定…以後「新耐震基準」)
- 9月 「蚕糸跡地周辺まちづくり協議会」発足、荻窪駅北口再開発ビル完成
- 12月 杉並区職員の給与実態を公表 (以後毎年12月に公表)

1982年 (昭和57年)

住宅デー分会単位で

1月16日、産業館で旗びらき (120人)。3月13日、高円寺中央公園から重税反対行動 (481人)。3月25日、仕事よこせ都、中央決起集会98人、5分会で住宅相談を実施。以後、各分会でおこなわれる。4月20日~21日、石和「石亭」で支部大会 (169人)。6月27日、分会住宅デーが9分会で開催。7月4日、産業館で主婦の会総会 (60人)。7月7日、都・中央決起大会 (老人医療費予算要求) 支部108人。8月1日、自動車共済発足 (全労済)、8月26日、土建共闘で対区交渉 (支部12人)。9月、第5回住宅相談 (現場診断も取り入れる。支部36人)。10月24日、支部高齢者集会 (13人)。



青年討論会

《世相》

- 1月 杉並区で修繕資金請願採択
- 2月 ホテルニュージャパン火災
日航機羽田沖墜落事故
- 4月 杉並区で文化財保護条例を制定
フォークランド紛争
- 6月 IBMスパイ事件
- 8月 老人保健法成立
杉並区歌・杉並音頭を制定

1983年 (昭和58年)

臨調行革路線とのたたかい

1月13日、産業館で支部旗びらき。2月15日、ナショナル住宅交渉、2月26日、杉並区清掃工場稼働、残材等の持ち込み受け付け。3月6日、代々木公園で2万人参加の生活危機突破・全建総連中央決起大会(支部414人)。3月14日、高円寺中央公園から重税反対デモ(503人)。4月20日、大宮八幡清涼殿で支部大会(211人)。6月30日、組合事務所一部改造。7月10日、浜田山と産業館の2会場で「第6回住宅デー」来訪者220人、相談89人、組合員35人。7月29日、支部学習会のべ3回、7月、大型間接税反対署名運動。8月20日、住宅性能保障制度説明会、梅里町内会と共催の盆踊り(～21日)。中曽根内閣の臨調行革路線とのたたかひの一年に。



運動会のノコギリ競争

《世相》

- 1月 杉並清掃工場が本稼働
- 4月 東京ディズニーランド開業
おしんブーム
区議・区長選(松田良吉が区長)
高井戸地域区民センター・温水プール、梅里区民集会所開設
- 7月 ファミコン発売
- 10月 三宅島21年ぶり噴火

1984年 (昭和59年)

仕事確保めざし住宅センター発足

1月9日、社会文化会館で予算要求中央決起大会(支部25人)。3月より国会行動続く。3月13日、高円寺会館で湖東税理士を講師に重税反対行動講演(455人)。3月20日、住宅センター発足。4月3日、若杉小で杉並地区決起集会(500人中、支部119人)。4月11日、中央決起集会(96人)、4月20日、大宮清涼殿で支部大会(220人)。6月13日、中央決起大会、第7回住宅デー(若杉小と蚕糸試験場跡地の2会場)。6月20日、青年部地元国会議員へ要請。8月、二級建築施工管理技士のとりくみ、記帳講習会始まる。9月9日～10日、河口湖で支部活動者会議。9月26日、住宅資本交渉。11月末で1994人支部。健保・年金改悪に揺れた一年。



拡大超過した成田東分会

《世相》

- 3月～グリコ森永事件
所得税法改正で記帳義務
- 4月 健保法(9割給付に)改悪可決
- 7月 ロサンゼルス五輪
- 9月 杉並区の自転車条例を制定
- 12月 勤労福祉会館・西荻地域区民センター開設

1985年 (昭和60年)

2000人達成し35周年行事

1月12日、新築の勤労福祉会館で旗びらき(120人)。全労済「ねんきん共済」のとりくみ。3月13日、杉並公民館から重税反対行動518人。新協定賃金1万8500円。3月23日、2000人支部達成。4月21日、勤労福祉会館で支部大会(209人)。6月、機関紙すぎなみ400号に。7月14日、若杉小と馬橋公園で第8回住宅デー相談31人、来訪者200人。7月17日~18日、河口湖で支部活動者会議(107人)。7月24日、都・中央総決起大会、全体1万人超え、支部158人。9月29日、勤労福祉会館で創立35周年行事。午前には式典、午後は文化祭。松田区長も来場。10月1日、2021人。35周年誌も発行。成長した組合に仲間は無量。10月から分会住宅デー。



重税反対統一行動

《世相》

- 3月~つくば科学万博
馬橋公園開園
- 4月 四宮区民集会所開設
- 6月 阿佐谷地域区民センター開設
- 7月 都議選
- 8月 日航機墜落事故
- 9月 プラザ合意から円高不況に240円台~
翌年160円台

1986年 (昭和61年)

業者選別淘汰に対抗し住宅デー広げる

1月16日、産業館で旗びらき(160人)。3月13日、高円寺会館から重税反対行動500人。新協定賃金1万9000円。3月30日、代々木公園の春闘決起集会8万人(支部62人)。4月から5人未満の法人事業所が健保強制適用。4月24日、勤労福祉会館で支部大会(200人)。5月7日~8日、初の支部役員学習会を箱根湯本ホテルで開催(200人)。欠席役員は5月18日に組合事務所で同じ学習会(30人)。5月27日には産業館から改称した産業商工会館で分会役員学習会(101人)。7月に国民年金の学習会。6月に10分会が住宅デー。7月6日、土建共闘3組合の住宅デーで相談34件ほか。9月、支部初の大手資本従事者会議。11月、分会住宅デー。



旗びらきの鏡開き

《世相》

- 3月 住民基本台帳オンラインシステム稼働
- 4月 チェルノブイリ事故
国民年金大改正、健保法改正
杉並第十小学校移転
いじめ電話相談開設
- 6月 勤労者共済会発足
- 8月 蚕糸の森公園開園
- 11月 区議会定数削減(56→52)

1987年 (昭和62年)

|| 売上税廃案も火種 大手の町場進出

1月15日、本部が7万人突破し40周年式典。19日、高円寺・根津会館で旗びらき(150人)。28日、パース学習会(15人)。3月、区議会で売上税反対の意見書。3月5日、第1回ゴルフ大会(球遊会)30人。4月19日~20日、箱根湯本ホテルで支部大会(197人)。5月28日、中国建築工会代表団が杉並を訪問。6月28日、統一住宅デー24分会が21会場で。9月25日、資材よこせ大集会。10月、分会健康教室を始め12年上旬までに23分会で終了。11月にも5分会が住宅デー。売上税は反対運動で廃案に追い込んだが、火種が残った。11月に首相が交代。建設ブームの一方、大手が町場に進出。建設省も中小業者を減らす方針に、町場職人の状況は悪化。



パース学習会

《世相》

- 1月 環状7号線沿道整備計画スタート
- 4月 区長・区議選挙(松田良吉区長再選)
荻窪・西荻・高井戸地域区民センター
などが住民による管理・運営に
JRが誕生
- 6月 情報公開・個人情報保護制度
- 7月 蚕糸の森公園にデイキャンプ場
- 12月 INF中距離核戦力全廃条約

1988年 (昭和63年)

|| リクルート事件と消費税

1月14日、高円寺・根津会館で旗びらき(127人)。2月1日から国会で大型間接税が討議されるなか、2月に分会税金説明会(33分会中32分会が実施、のべ360人参加)。3月、協定賃金2万1000円。3月27日、代々木公園での春闘大集会が8万人(支部91人)。6月、大型間接税に対し支部闘争委員会を設置。7月26日、予算要求集会(支部136人)。8月、青年部が富士登山25人中14人が登頂。分会健康教室。9月には杉並区も消費税反対を決議。しかし11月16日、自民・民社・公明党の出席で消費税法が衆院通過。12月21日、日比谷野音で1万2000人が国民大集会。国民の8割が反対するなか12月24日参院本会議で成立した。12月、事務所改装工事。



国民の抗議の中、消費税が強行

《世相》

- 3月 杉並区平和都市宣言
- 4月 塚山公園開園
- 5月 精神薄弱者授産施設「あけぼの作業所」開所
- 6月 リクルート事件
- 9月 和田堀公園にカワセミ再現
「杉並区基本構想」議決
- 12月 杉並区長期計画を策定

1989年 (平成元年)

|| 昭和から平成へ 連合・全労連も誕生

1月、旗びらきを分会ごとに開催。支部旗びらきは執行部と分会長で1月20日。3月3日ひなまつり首都圏大行動。女性ばかりの集会。14日には集団申告(496人)。26日には7万人が代々木公園で大集会。消費税廃止を訴え続ける。4月上旬、事務所改修が完了。4月20日、勤労福祉会館で支部大会(224人)。組合費3900円に変更。6月、第12回住宅デー、のべ19会場で25分会が開催(来訪者600人)。9月21日、2万円以下の賃金なくす大決起集会(協定賃金は2万4000円)。10月1日に区役所前庭で住宅フェアを開催し木工教室に300人。

改元、冷戦の終結宣言、消費税の導入など、激動の1年となった。



消費税反対集会

《世相》

- 1月 昭和天皇崩御、改元
- 4月 消費税3%導入
- 6月 天安門事件(二次)
セシオン杉並オープン
- 7月 参院選で自民大敗
- 11月 東欧革命(ベルリンの壁崩壊)
連合と全労連が結成
- 12月 マルタ会談(冷戦終結宣言)

1990年 (平成2年)

|| 33分会から13分会に組織再編

1月16日、荻窪・東信閣で旗びらき(96人)。分会ごとに新年会も。3月まで法人事業所の健保適用除外(のちに延長)。3月、協定賃金2万6000円。4月8日~9日、箱根湯本ホテルで支部大会(186人)。組織再編が焦点に。5月から組合費4000円に改訂。6月3日、第13回住宅デーを13会場で開催。木工、竹細工なども好評。賃金アンケートの平均は1万8100円。7月12日~14日、33分会から13分会への再編に伴う新分会結成総会。参加者730人。7月、建退共加入者190人。主婦の会が簿記講座。

人手不足のなか、ようやく一定の賃金上昇を見た。他業種では土曜休日が広がり出したが建設業では運動が進まなかった。



秋の拡大月間終えた成浜分会

《世相》

- 2月 区役所新庁舎西棟完成
- 3月 平和都市宣言記念像「ジーンズ」建立
まちづくり基本方針策定
- 8月 イラクがクウェート侵攻
東京土建国保組合20周年
- 10月 東西ドイツ統一
- 11月~ 雲仙普賢岳噴火・溶岩ドームと火砕流
スーパーファミコン発売

1991年 (平成3年)

組織再編仕上げの年

1月11日、東京土建青年部が88人でスキーツアー(支部18人)。1月20日、梅里中央公園で初の新年行事、もちつき・カラオケ大会。来場者821人。タル酒の振る舞いも。1月21日、大宮清涼殿で支部旗びらき(73人)。13分会中8分会が初の新年行事。七福神めぐりやホテルでの一泊など。2月24日、主婦の会がフォークダンス講習。3月、協定賃金2万8000円。4月9日、勤労福祉会館で支部大会(204人)。3000人支部めざす方針。4月25日、建設業協会と土建共闘、杉並区の三者会談。5月、全建総連で国民年金基金を設立。6月4日、荻西分会長山田さんが転落死。秋に東京土建10万人突破ビデオを活用し上映運動。10月12日、土曜休日デー実施。



拡大達成の井草分会

《世相》

- 1月 湾岸戦争
- 3月 バブル崩壊
- 4月 区議・区長選(松田良吉区長三選)
公民館跡地に記念碑「オーロラ」建立
- 7月 戦略兵器削減条約
- 8月 永福和泉地域区民センターが開設
- 9月 南北朝鮮が国連に加盟
- 12月 ソ連崩壊

1992年 (平成4年)

3000人支部を達成

1月12日、梅里中央公園でもちつき&子ども遊び大会。1月24日大宮清涼殿で支部旗びらき(84人)。小木勝三郎さん、名誉中執に。3月、新協定賃金3万円(見習工最低賃金1万3000円)。昨年8月に出されたバス路線削減案を町会、商店会、寺院などととも運動し、基本的に撤回させた。4月6日、勤労福祉会館で支部大会(221人)、組合費4290円へ。春の旬間を終え初めて3000人突破し6月当初3029人。同じく6月にPKO協力法が成立。その後消費税率引き上げ案も浮上し臨調路線のなかで8割給付の健保に合わせる一元化攻撃も。8月の日本母親大会、杉並公会堂に支部の主婦70人が参加。10月25日、東京土建45周年の土建まつり1万5000人。



春の月間終えて3000人支部、富士見住宅デー

《世相》

- 2月 区役所新庁舎中棟・地下駐車場完成
- 4月 ボスニア内戦
- 5月 住宅マスタープラン
- 6月 リオで地球サミット(環境問題)
PKO協力法公布
- 7月 完全週休2日制による土曜閉庁開始
- 10月 区制施行60周年記念式典

1993年 (平成5年)

小選挙区制反対のたたかい

1月7日、もちつき大会 (300人)。24日、大宮清涼殿で支部旗びらき。同日、本部将棋大会で団体優勝。分会が新年会。群会議徹底のよびかけ。新協定賃金3万2000円。4月3日、井草で分会主婦の会が初会合。4月4日~5日、箱根のホテルおかだで支部大会 (200人)。組合費4640円に。メーデーで実行委員長賞。5月27日、若杉小での区民決起集会で小選挙区制反対訴える (180人)。7月の都議選にむけ臨海副都心開発問題が焦点に。新組合会館購入問題、見送りに。7月11日、支部独立時から活躍した小檜山林三さんが逝去。9月で機関紙が500号。11月にも区民集会で政治改悪に反対。各分会が秋の住宅デーも。11月29日、救急手当で学習会。



餅つき大会

《世相》

冷夏で大凶作・平成米騒動 (タイ米輸入)

3月 杉並区で住宅基本条例制定
区役所新庁舎完成

5月 カンボジアで文民警官殺害される

6月 皇太子徳仁親王が雅子さんと結婚

8月 レインボーブリッジ開通

細川内閣 (非自民連立)

9月 オスロ合意 (イスラエルとPLO)

1994年 (平成6年)

政治改革と 消費税5%化阻止のたたかい

2月3日、細川首相が国民福祉税構想を打ち上げた。国民は猛反発。前年から取り組んでいた医療・年金・福祉の改善を求める署名 (100万人署名) を2月6日、主要駅やスーパーなど17カ所で宣伝・署名。138人の参加で2413筆集めた。2月13日、梅里中央公園で「春まつり」は前夜の大雪にも関わらず700人近い来場者。3月17日、土建共闘で区議会に不況打開と振興政策を求め請願書提出。4月5日、勤労福祉会館で支部大会 (188人) 組合費4890円に。7月の総選挙で社・自連立の村山富市政権が誕生。8月25日と26日で職人、親方集会。9月11日、産業商工会館で活動者会議 (200人)。11月25日、消費税率引き上げ法が国会で成立。



年金医療100万署名 阿佐谷

《世相》

1月 NAFTA発効

4月 ルワンダでジェノサイド

5月 ネルソン・マンデラが南ア初の黒人大統領に

6月 松本サリン事件

7月 産業商工会館改装オープン

9月 関西国際空港開港

12月 プレイステーション発売

1995年 (平成7年)

阪神淡路大震災・地下鉄サリン事件

1月11日、大宮清涼殿で旗びらき。17日、阪神淡路大震災。23日、区議会で緊急運転資金の限度額引き上げの請願採択。2月5日、梅里中央公園で春まつり。3月、全建総連の阪神大震災ボランティアに柿沢和美・大山久治を派遣。4月6日、勤労福祉会館で支部大会(195人)、組合費4910円に。6月4日、春の住宅デー12分会が統一開催。1分会は25日。8月号機関紙はページ増やし戦後50年の特集号、9月24日、和泉小学校で運動会(721人)。10月2日、土建共闘で区長交渉。11月当初3100人支部を突破。11月10日、東京土建技術研修センター設置。11月16日、阿佐ヶ谷地域区民センターで社保対部と主婦の会がヘルシークッキング(27人)。



メーデー

《世相》

- 1月 世界貿易機関WTOが発足
阪神淡路大震災
- 3月 地下鉄サリン事件
- 4月 区議・区長選(本橋保正区長選出)
- 5月 フランスでシラク大統領当選
- 8月 村山談話
- 9月 沖縄米兵少女暴行事件

1996年 (平成8年)

50周年へ会館建設などをめざす

1月27日、大宮清涼殿で旗びらき(129人)。戦後最大の不況のなか、東京土建・区職労・全厚生・福祉保育労らで杉並区労働組合中立協議会を結成し3月5日の春闘学習決起集会に144人が参加。4月、建築カレッジが開校。4月7日~8日、ホテルおかだで支部大会(193人)。創立50周年までに3500人の組織建設、運動の砦となる会館建設の実現を決め、組合費5410円に。6月、住宅デー。7月21日、青年部が区職労と共催で「沖縄・安保・平和問題学習会」を開催。日米安保条約が日本経済をも支配していることを学ぶ。9月29日、和泉小学校で運動会(793人)。10月8日、消費税増税に反対する杉並大集会(296人)。12月当初人員3207人。



メーデーのデコ「おもしろ」

《世相》

- 1月 杉並区で行政手続条例施行
- 2月 杉並区環境基本計画策定
- 4月 井草森公園開園
- 6月 中国が核実験
- 9月 国連総会で包括的核実験禁止条約CTBTが採択
- 12月 原爆ドームが世界遺産登録
在ペルー日本大使公邸占拠事件発生

1997年 (平成9年)

支部会館を現在地に移転

1月15日、本部の50周年記念式典。1月25日、大宮清涼殿で旗びらき(128人)。3月19日、区内春闘決起集会。支部会館(高円寺南3-6-2)を購入して取得。4月1日、消費税増税が強行された。阿佐ヶ谷駅で反対の宣伝行動。4月6日、勤労福祉会館で支部大会。4月20日、新会館のお披露目式。移転は6月2日。6月8日を中心に第20回住宅デー。全分会が開催。適用事業所問題の期限、7月中に。7月の都議選にむけ、6月24日に要求チラシの配布行動。建設国保の育成強化や消費税増税撤回の宣伝をした。7月から主婦の会が支部会館で社交ダンス。8月、支部まちづくりセンター新設。医療改悪法の影響で10割給付見直せの動きが強まる。



支部会館実現

《世相》

- 2月 クローン羊「ドリー」
- 3月 堀之内みどりの里オープン
- 4月 アジア通貨危機(タイのバーツ暴落から)
- 7月 香港が中国に返還
- 9月 北野武「HANA-BI」が金獅子賞
対人地雷禁止条約が採択
- 12月 地球温暖化防止京都会議、京都議定書採択

1998年 (平成10年)

10割給付の土建国保にペナルティ

政府が「2000年に全ての医療保険を7割給付に」する構想で攻撃を強化。補助金削減により10割給付は維持するも国保料の引き上げ不可避に。4月からのNHK朝ドラ「天うらら」の技術指導とエキストラに大淵修・中村隆幸・吉田康典が参加。4月3日、勤労福祉会館で支部大会(217人)。5月22日、対区交渉で6月1日から産業融資制度の改善の回答(10月1日から信用保証料の2分の1の補助など実現)。5月31日中心に住宅デー。9月6日、神戸大学の二宮厚美教授を講師に大学生協会館で学習決起集会(235人)。10月4日、和泉小で秋の運動会(800人)。テレビデオと自転車が目玉景品。11月26日、全建総連総決起大会(120人)。



低層住宅安全衛生講習会

《世相》

- 2月 上井草スポーツセンター開設
長野五輪ジャンプ活躍
- 4月 明石海峡大橋が開通
- 5月 インドが核実験
パキスタンが初の核実験
- 8月 北朝鮮がテポドン発射
- 9月 Google設立
- 10月 日韓共同宣言

1999年 (平成11年)

授業支援活動はじまる

2月12日、初めての授業支援。東田中学校の技術家庭科の授業で仲間5人が教壇に立った。
 2月25日、産業商工会館で区民集会(212人)。
 4月1日、荻窪駅で消費税導入10年怒りの行動。
 5月末、一次下請倒産での不払い事件で初めて積水ハウスに元請責任での立て替え払いを認めさせた。6月にかけて第22回住宅デー13分会が開催。8月3日、土建共闘で山田宏区長と初の交渉。住宅リフォーム助成と、簡易工事受注資格審査制度の導入を求める。9月、組合共済を「どけん共済」に変更し火災共済も開始。9月27日、支部会館で介護保険学習会(57人)。10月3日、和泉小学校で運動会。10月18日から3日間、杉二小の図工授業を成浜分会が支援(のべ21人)。



東田中で授業支援(初)

《世相》

- 1月 通貨ユーロ導入
- 3月 NATOがユーゴスラビア空爆
- 4月 都知事に石原慎太郎
米コロンバイン高銃乱射事件
区議・区長選挙(山田宏区長)
- 9月 JCO事故
- 10月 介護保険要介護認定開始
- 12月 DVDレコーダー発売

2000年 (平成12年)

介護保険はじまる

1月22日、京王プラザホテルで新春旗びらき(143人)。2月、区内6診療所での健康診断開始。19日、杉並住民集会(支部63人)、3月8日、杉並区民集会(支部93人)。4月1日、介護保険開始。住宅品質確保法での10年保証義務化。4月9日、勤労福祉会館で支部大会220人。5月本部大会で10割から8割給付&償還払いへの変更決定。6月にかけて第23回住宅デー13分会で。6月13日~15日、成浜分会が杉二小の授業で4年生85人に小刀とぎと箸づくりを指導。6月、支部会館で住宅品質確保法(品確法)研修会(63人)。7月、自動車共済開始、10月29日、創立50周年記念「土建まつり」3000人が来場。11月、東分会が杉十小にうさぎ小屋贈呈。



東分会がうさぎ小屋を贈呈

《世相》

- 3月 プレステーション2発売
- 5月 森喜朗「天皇中心の神の国」発言
- 6月 朝鮮南北会談(分断後初)
ダイオキシン条例制定
- 7月 沖縄サミット・二千円札発行
- 11月 イチローがメジャーリーガーに
杉並区南北バス「すぎ丸」浜田山駅から阿佐ヶ谷駅間の開通式

2001年 (平成13年)

21世紀の幕開けの9.11

2月23日、東分会中心に14人の仲間が杉十小の授業支援。6年生83人の卒業記念巣箱づくり。4月、土建国保が10割給付から撤退。本人8割&償還払い等がはじまる。4月8日、勤労福祉会館で支部大会(214人)。飯島徳太郎委員長に。日浦敏光が名誉中執に。5月~6月、第24回住宅デー。春の月間で全分会目標達成、支部初。5月26日、産業商工会館で廃棄物処理学習会70人。6月、支部会館5階に厨房設備を設置。最初の活用は主婦の会の拡大慰労会。成浜分会が杉二小で、井草分会が沓掛小で授業支援。7月25日、「つくる会教科書」不採択。9月30日、蚕糸の森公園で土建まつり6000人来場。11月22日、井草分会が三谷小で授業支援。



第2回土建まつり

《世相》

- 1月 省庁再編
- 2月 えひめ丸事故
- 3月 ユニバーサル・スタジオ・ジャパンが大阪に
- 9月 東京ディズニーシー開園
9.11 (米同時多発テロ)
- 10月 米軍がアフガン侵攻
- 12月 中国がWTO加盟

2002年 (平成14年)

授業支援広がる

2月28日、東分会中心に杉十小で授業支援。4月、土建国保、保険事業でディズニーリゾートの利用開始。日本産業衛生学会で「今後40年で10万人がアスベストで死亡」の予測が発表。4月14日、勤労福祉会館で支部大会。6月6日、杉並第一小から、有事法制反対の杉並区民集会、600人を超える参加。6月5日、成浜分会が杉二小の授業支援。6月~7月、第25回住宅デー。7月5日、予算要求集会(支部110人)。7月25日、雨の中120人が平和行進。9月18日、井草分会が沓掛小で授業支援。9月29日、杉並第十小で運動会(834人)成浜分会が総合優勝。10月11日、土建共闘で細田工務店と交渉。11月12日、高井戸第四小で荻西分会が授業支援。



有事法制

《世相》

- 4月 和田中学校に都内初の民間人校長
- 5月~サッカー日韓W杯
- 9月 小泉訪朝。金正日が拉致問題認める
- 10月 拉致被害者5人が帰国
区制70周年式典
- 11月 自治基本条例
- 12月 小柴昌俊さん(杉並在住)がノーベル賞

2003年 (平成15年)

初めて秋の拡大目標を達成

4月13日、勤労福祉会館で支部大会。6月12日、成浜分会の仲間6人が杉二小で授業支援。6月22日、改正建築基準法に備えた学習会。7月10日、免税点1000万円以下等の消費税改悪に備えた学習会。7月12日、中央分会が松ノ木小学校のサタデースクール。7月28日、建設国保育成の請願が国会採択。9月7日、大学生協会館で活動者会議。寸劇「谷底からのこぶし」。9月28日、杉並第十小で住宅デースペシャル第3回土建まつり6000人を超える来場者。10月31日、秋の拡大打ち上げ。190人の加入で支部史上初の秋の支部目標達成、全分会達成、3365人で過去最高の人員。11月4日、井草、荻西分会がそれぞれ授業支援など、5年目の授業支援が大きく広がった。



介護保険申し入れ

《世相》

- 3月 イラク戦争
- 4月 アニメ資料館開館 (杉並会館内)
区議・区長選 (山田宏区長)
- 5月 個人情報保護法
- 7月 建築基準法改正
医療保険制度改悪強行
イラク特措法強行採決
- 10月 ディーゼル車規制

2004年 (平成16年)

土建国保家族入院払い戻し開始

1月10日、中野サンプラザで旗びらき(234人)。3月21日、杉並シニアの会結成、川鱈浪七会長。4月から土建国保新制度。本人7割給付に。通院3000円払い戻しを堅持。家族入院の全額払い戻しを新設。4月11日、支部大会(222人)。5月19日、堀ノ内・中央分会が堀ノ内児童館で工作进行指導。6月28日、成浜分会5人が杉二小で授業支援。7月1日から自転車保険開始。7月21日、荻西分会が神明中で校舎補修を補助。9月26日、第4回土建まつり4000人の来場者。秋の月間、2年連続で全分会達成。11月5日、高井戸中のキャリアガイダンスで縫村信秋が説明。11月、善福寺分会が桃一小で、井草分会が沓掛小で授業等支援。12月、十日町で震災復興ボランティア。



荻西分会授業支援

《世相》

- 1月 自衛隊イラク派兵承認案が自民・公明の強行採決
- 4月 あんさんぶる荻窪開設
- 6月 有事関連法7法を自公民で強行
- 7月 防犯カメラ条例(全国初)
- 10月 新潟中越地震
南北バスすぎ丸「さくら路線」開通
- 12月 スマトラ沖地震M9.3

2005年 (平成17年)

戦後60年経済振興と右傾化

1月9日、中野サンプラザで旗びらき(246人)。1月10日、映画「草の乱」607人が鑑賞。2月25日、井草分会8人が八小で授業支援。4月1日、セシオン杉並で「9条の会」澤地久枝さん講演(支部110人)。4月1日、長年の要望実り、杉並区小規模工事受注希望事業者登録制度が開始。10日、大学生協会館で支部大会。組合費40円引き下げ。6月、春の月間で3500人支部を突破。6月17日、杉並区議会、公契約法制定の意見書採択、6月の第28回住宅デーを熊本県労が視察。7月16日、中央分会が松ノ木の土曜日学校。9月、豪雨水害組合員にも被害。第5回土建まつり、8000人が来場。JCOMも取材に。秋の月間終えて3600人支部を実現。



拡大5部門でトップの成果あげた荻西分会

《世相》

- 3月 愛知万博
- 4月 ペイオフ制度が解禁
福知山線尼崎事故
- 6月 クボタ・アスベストショック
- 8月 つくる会教科書採択
- 9月 集中豪雨で水害
- 10月 ディープインパクトが無敗三冠
辺野古移転に日米が基本合意

2006年 (平成18年)

3700人支部うかがう勢い

1月14日、ワシントンホテルで旗びらき(223人)。3月26日、石綿被害者救済法が施行。4月9日~10日、ホテルニューアカオで第57回支部大会(212人)。4月14日、アイフルが全店業務停止処分、グレーゾーン金利話題に。7月16日、小松沢レジャー農園で支部大型レク、519人が参加も施設の不備でバーベキューができず。9月14日、成浜分会9人が杉二小で授業支援。11月1日、秋の月間終えて202人の加入。3693人支部。11月7日、東京土建杉並支部・9条の会が発足。12日、第6回東京土建まつりに1万人。17日、杉並公会堂で「9条の会・杉並」2周年記念「ピーストーク&コンサート」に1000人。28日、杉並第一小から杉並区民集会。



どけんまつり餅投げ

《世相》

- 1月 防衛施設庁談合事件発覚
- 3月 第1回ワールドベースボールクラシックで日本が優勝
- 6月 杉並公会堂改装開館(全国初の公共ホールPFI)
- 9月 安倍晋三、自民党総裁に
- 11月 任天堂Wii発売
- 12月 教育基本法改悪を自公が強行

2007年 (平成19年)

本部60周年迎える

1月6日、中野サンプラザで新春旗びらき(246人)。2月、堀ノ内分会が堀之内小で授業支援。3月、三谷小「12歳のハローワーク」で中村文彦建築士が講演。4月、新入学と資格取得祝金制度を創設。4月8日、大学生協会館で支部大会226人。6月、春の月間を終えて3719人。7月、家具転倒防止器具助成が開始。27日に下高永福分会、8月29日に荻西分会が常設センターの開設祝い。9月、安倍首相退陣。2007年決戦で一定の勝利。10月21日、第5回子育て学習会。9月、第7回東京土建まつり台風中止。11月、秋の月間あけ3829人。11日、東京ビッグサイトで60周年土建まつり。22日、井草分会が三谷小授業支援。テレ東が後日放送。12月20日、映画「日本の青空」。



住宅相談員集合

《世相》

- 1月 防衛庁が省に
杉並区でレジ袋有料化モデル事業開始
- 2月 第1回東京マラソン
- 6月 「杉並子育て応援券」事業開始
- 7月 新潟中越沖地震
参院選で自民惨敗でねじれ国会に
- 10月 郵政公社が日本郵便へ
- 11月 イラク派兵の新テロ特措法が衆院可決

2008年 (平成20年)

3836人の峰築く

1月19日、明治記念館で新春旗びらき273人。1月29日、主婦の会・新年会&映画「母べえ」観賞会。2月15日、下高永福5人が向陽中の食育授業を支援。4月、後期高齢者医療制度開始。4月12日、大学生協会館で支部大会(229人)。5月16日、建設アスベスト訴訟提訴支部原告5人。5月25日、支部PAL「野丁倶楽部」第1期総会。第31回住宅デーでトイレの手すりボランティア開始。7月、支部新会館の設計者を募集。7月11日、セシオン杉並で映画「シッコ」上映会(支部107人)。21日、第6回子育てフェスタに211人。秋の月間214人の加入で11月3836人。11月16日、第8回東京土建まつり雨の中4000人の来場者。12月、杉並・憲法の夕べ1200人。



高円寺センター再オープン

《世相》

- 4月 後期高齢者医療制度開始
杉並区内初の統合校・天沼小学校開校
- 6月 秋葉原通り魔事件
メトロ副都心線開業
- 7月 住基ネット参加表明
iPhone発売
- 9月 リーマンショック
- 12月 区緊急経済対策融資創設。

2009年 (平成21年)

民主党政権誕生と裏切り

1月15日、西荻学園幼稚園で青年部3人がけん玉づくり。17日、明治記念館で支部旗びらき(225人)。4月、住宅瑕疵担保保険の取り扱い開始。12日~13日、水上温泉・松乃井にて支部大会(215人)。野辺秀男から大平義道に委員長交代、新会館建設案を承認。27日、成浜分会が常設センター使用開始。6月6日~、青年部平和沖縄ツアー。26日、杉並第一小から杉並区民集会。257人(支部147人)。歴史教科書問題、後期高齢者医療制度問題など訴える。7月、夏休み宿題お助け塾を初開催。8月、矢田忠昭さん死去。8月末、衆院選で民主党に政権交代。9月末から国保組合へのマスメディアの不当な攻撃が始まった。10月、公契約学習会。



新会館建設開始

《世相》

- 3月 杉並中継所廃止
- 4月 オバマ米大統領プラハ演説
- 5月 裁判員制度開始
「座・高円寺」開館
- 8月 政権交代
つくる会教科書を再び採択
- 9月 千葉県野田市で全国初の公契約条例
- 10月 路上禁煙の過料徴収開始

2010年 (平成22年)

国保組合攻撃とのたたかいの一年

1月17日、中野サンプラザで創立60周年旗びらき(218人)。3月、住宅エコポイント開始。4月、住宅用火災警報器事業を杉並区から小規模建設業団体連絡会が受託。4月11日~12日、水上温泉・松乃井で支部大会(202人)。5月末、省庁版事業仕分けで国保組合攻撃本格化。6月、セッション杉並で「いのちの山河」上映会1100人。7月、参院選と区長選。田中良区長に。8月、新会館竣工。9月16日、杉並建築協議会が田中良区長と懇談・学校へのエアコン設置、公契約条例など要望。エアコンは早速翌月実現へ。10月1日、杉並建設業協会と懇談。10月3日、土建まつり1万人。秋の月間も達成。12月、公園ウォッチング。国保組合攻撃に対応した一年。



新会館が完成

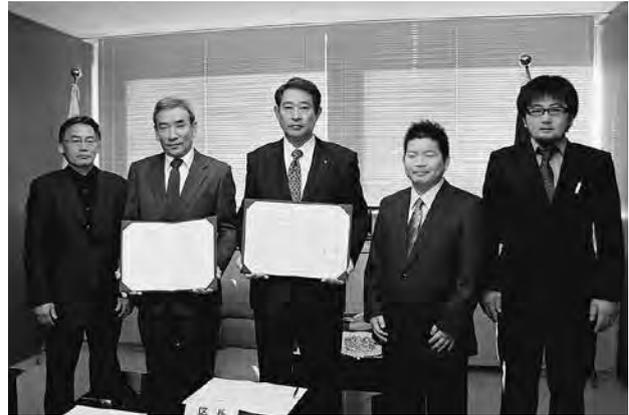
《世相》

- 1月 日本年金機構発足
ハイチでM7の地震。死者31万人超
- 6月 高速道一部無料化
- 7月 参院選で民主党惨敗
杉並区長選で田中良区長誕生
- 9月 尖閣沖で巡視船と中国船衝突
- 10月 区立小中学校へのエアコン設置を決定
- 12月 アラブの春

2011年 (平成23年)

3.11地震・津波・原発事故

1月22日、支部会館で旗びらき115人。30日、蚕糸の森公園で青年部住宅デー。2月27日、支部会館で初の集団健診。3月11日、東日本大震災。4月1日、国保攻撃に対応し、入院共済を新設。22日、杉並区の紹介で井草中の建築現場を訪問し所長らと懇談。5月13日~16日、住宅再建支援で3人が岩手県大槌町へ。8月10日、中学校の教科書採択で帝国書院版を採択。9月19日、明治公園でさようなら原発集会。10月2日、第11回東京土建まつり1万人。11月2日、17期連続の全分会目標達成で3487人。11月27日、後継者主催ボウリング大会、初めて全13分会が参加。11月28日~30日、岩手県へ支援物資を配達。12月27日、区と防災協定を締結。



杉並区と防災協定

《世相》

- 3月 東日本大震災・福島原発事故
杉並区で南相馬市への義援金募集開始
杉並区で被災者受入開始
- 4月 桃井原っぱ公園オープン
杉並区から南相馬市へ職員派遣
- 7月 女子サッカーなでしこジャパンがW杯優勝
アナログ放送終了

2012年 (平成24年)

本部65周年まつり井の頭公園で

1月22日、支部会館で新春旗びらき(165人)。2月19日、脱原発杉並パレード5000人。3月12日、富士見分会が高井戸第二小の授業支援。4月1日、土建国保の通院費払い戻し1万円からに。8日、支部会館で支部大会(191人)。5月9日、区議向け公契約学習会。5月~7月の住宅デー、放射線測定に13件の相談。この年、社会保険未加入問題学習会を多数。9月15日~16日、復興支援。石巻で本部と活動。翌日は南相馬。9月30日、第12回土建まつりに8000人。秋の月間は全分会達成で3461人。11月4日、初の女性健診「女性デー」62人。11日、井の頭公園の本部65周年まつりに出店。12月16日、衆院&都知事選。自民に政権交代。猪瀬直樹が知事に。



本部65周年まつりに参加

《世相》

- 3月 杉並区基本構想(10年ビジョン)
- 5月 東京スカイツリー開業
- 6月 渋谷で23区初の公契約条例
足立・池内石綿肺がん裁判勝訴
民主・自民・公明が消費税増税三党合意
- 8月 平和市長会議に加盟
- 9月 尖閣諸島国有化
- 12月 笹子トンネル事故

2013年 (平成25年)

不況つづくなか5年ぶり組織増勢

1月20日、支部会館で新春旗びらき。181人。田中良区長も来場。2月3日、本部将棋大会と17日、本部囲碁大会でW団体優勝。3月9日、中央・鉢嶺秋男が支援続けた新渡戸文化小での児童による守衛室づくりの上棟式。3月13日、重税反対統一行動220人(支部175人)。4月21日、U50組合若手交流会(91人)。5月19日、被災地支援行動。計画区域の小高区で木材ゴミの解体等(18人)。6月21日、T P P学習会(44人)。7月、成浜分会が杉二で授業支援。9月14日~15日、杉並・葛飾・中野共同で被災地支援活動。海岸清掃と中学校で住宅デー。9月29日、土建まつり1万人。11月、秋の月間終えて21期連続全分会達成。翌年を5年ぶり組織増勢で迎える。



南相馬被災地支援活動

《世相》

- 1月 ボーイング787トラブルで世界で運航停止
- 3月 安倍首相がT P P正式参加を表明
- 8月 四万十市で41.0℃
福知山花火大会露店爆発事故(ガソリン携行缶)
- 11月 国家安全保障会議創設
- 12月 特定秘密保護法

2014年 (平成26年)

4月から消費税が8%になり景気悪化

1月19日、支部会館で旗びらき(189人)。2月12日、杉並建築協議会で田中区長と懇談。3月13日、重税反対統一行動210人(支部175人)。5月31日~6月1日、南相馬で復興支援活動。5月末、春の月間で132人加入。3404人支部。全分会達成はならず。6月11日、杉並区民集会、雨の中112人。8月24日、秋の組合員交流会&出陣式162人。9月11日、成浜分会が杉二小授業支援。24日、P A L主催、標準見積書学習会に26人。27日~28日、気仙沼で被災地支援活動。31人。津波被害うけた小泉海岸の清掃。10月2日、荻西分会中心に10人が、西田小の授業支援。11月、秋の月間終えて152人加入。3428人。11月16日、第14回東京土建まつり1万人の来場で盛大に。



後継者対策部としまえんBBQ

《世相》

- 2月 都知事選で舛添要一が当選
- 4月 消費税17年ぶりの引上8%に
防衛装備移転三原則で輸出解禁
- 6月 田中良区長再選
- 9月 世田谷区で公契約条例
- 12月 RECACO(住宅リフォームパートナー協議会)設立

2015年 (平成27年)

戦争法強行のもとで

2月24日・26日、荻西分会中心に桃二小で授業支援。3月1日、石綿教育の補講開催(15人)。3月14日、阿佐谷分会が杉一小で授業支援。4月5日、支部大会、選挙看板受注など報告、松原秀夫委員長に(192人)。5月10日、田植え体験ツアー、41人。5月30日、31日、南相馬被災地支援活動、25人。6月20日、ボーイミーツガール5thで7組がカップルに。9月1日、国保「随時加入」可能に。12日、常総水害視察。13日、稲刈りツアー。10月25日、足場組み立て特別教育。36人。10月31日・11月1日、南相馬で復興支援サムライフエス等(49人)。秋の月間135人で目標達成。8日、杉並フェスタに後継者が出店。29日、第15回東京土建まつり1万2000人が来場。



南相馬サムライフエス

《世相》

- 4月 杉並区で生活自立支援窓口「くらしのサポートステーション」開設
- 7月 なみすけナンバー(原付用)交付開始
アメリカとキューバ国交正常化
- 9月 常総市水害
戦争法強行
- 10月 個人番号(マイナンバー)通知
- 12月 温暖化防止パリ協定

2016年 (平成28年)

感震ブレイカー事業開始、荻窪消防署と防災協定結ぶ

1月17日、支部会館で旗びらき(200人)。3月11日、荻窪消防署と防災協定を締結。22日、杉並区と感震ブレイカー設置事業の協定。4月3日、支部大会(197人)。分会3専門部に70歳定年。5月20日、太平洋セメント包囲行動3000人(支部57人)。7月10日、参院選。7月16日~17日、大キャンプ交流会に50人。7月26日~30日、熊本の応急仮設木造住宅建設に小野俊英と三輪邦雄が参加。7月31日、U50夏休み無人島ツアー115人。8月7日、まちづくりセンター登録施行者交流会28人。10月1日~2日、19人が南相馬被災地支援。視察と立木伐採等。10月23日土建まつり、1万5000人の来場者。11月秋の月間137人の加入で支部目標達成し3401人。



協定書調印

《世相》

- 3月 杉並区の荻外荘が国史跡に指定
- 4月 熊本大地震、二度の震度7
- 5月 パナマ文書公開、租税回避地
オバマが現役米大統領として史上初の
広島訪問
- 6月 英国の国民投票でEU離脱が上回る
- 8月 小池百合子都知事に
- 12月 糸魚川市大火

2017年 (平成29年)

新国立現場で宣伝

1月22日、支部会館で旗びらき(180人)。3月17日、土建共闘で田中良区長と懇談。現場に賃金回るようにしたいとの回答。4月9日、支部大会189人。大戸龍雄委員長に。4月~5月、南相馬&杉並トモダチプロジェクト音楽劇に協力。6月、春の月間で205人の加入で全分会達成。23日、都議選。6月中心に第40回住宅デー。6月15日未明の共謀罪強行に区民集会で抗議(158人)。新国立競技場現場での宣伝多数。8月27日、としまえんで初の組合員交流会(200人超)。9月24日、土建まつり1万人。10月衆院選。21日、22日新宿支部と共同で南相馬復興支援27人。11月12日、本部70周年まつりに3分会出店。秋の月間達成で3399人



本部70周年土建まつり

《世相》

- 1月 雇用保険適用拡大
トランプが米大統領に
- 2月 Jアラート運用開始
- 5月 文在寅が韓国大統領に
- 6月 共謀罪法成立
- 7月 九州北部豪雨災害
- 8月 老齢年金資格10年に短縮
- 9月 首都直下地震被害想定を公開

2018年 (平成30年)

分会再編を決定

1月21日、支部会館で旗びらき(201人)、区長も参加。2月11日、青年部餅つき大会。22日、日出町視察。3月14日、アスベスト訴訟東京高裁で杉並原告7人全員勝訴判決。15日、区長懇談で公契約条例制定の兆し。4月8日、支部大会組合費50円値上げ。分会再編を決定。6月26日、成浜分会が杉二小支援。7月24日を皮切りに劣悪労働の丸の内3-2現場前の宣伝に毎回参加。9月2日、としまえんで組合員交流会(200人超え)、29日~30日、南相馬で復興支援。10月20日~21日、チェンソー特別教育。23日、公契約条例学習会。11月、秋の月間は153人加入、全分会達成で有終を飾る。11月11日、土建まつり1万人。12月23日、フルハーネス特別教育。



土建まつり 初のショベルカー体験

《世相》

- 6月 トランプと金正恩が首脳会談
区長、区議補選。田中良区長が再選果たす
- 7月 沖縄・翁長知事が辺野古埋立承認を撤回
西日本豪雨と赤坂自民亭
猛暑、熊谷で41.1℃の日本最高記録
- 8月 大学医学部で得点操作発覚
- 9月 沖縄知事選で玉城デニーが当選
- 10月 築地から豊洲への市場移転強行

2019年 (平成31年・令和元年)

8分会への組織再編と改元

1月20日、支部会館で旗びらき (196人)。2月1日、13分会から8分会に組織再編。3月20日、杉並建築協議会で区長懇談、「11月議会を目標に条例案」との回答。4月1日、建設キャリアアップシステム本格稼働。7日、支部会館で支部大会 (184人)。5月1日、改元と重なったメーデーで、コンクール最優秀賞 (85人)。6月4日、春の月間、初めてQRコードチラシを活用。172人の加入で全分会目標達成。6月中心に8分会が住宅デー。9月21日~22日、南相馬復興支援活動 (杉並14、葛飾9、新宿4人)。23日、千葉の台風被害にボランティア派遣。9月、10月、消費税反対4駅宣伝。11月、秋の月間も全分会達成で、超過達成で3373人支部。



分会再編知らせる記事

《世相》

- 4月 働き方改革・有休付与義務化等
- 5月 生前退位で改元
- 9月 台風15号で千葉等、19号で福島、長野等大被害
- 10月 消費税率10%へ引き上げ
ラグビーW杯日本開催
- 11月 桜を見る会問題
日米貿易協定

2020年 (令和2年) そして未来へ



創立70周年を祝い 要求に基づく運動の発展を

杉並支部は仲間の要求に基づく運動をしながら仲間を増やし制度を拡充してきました。この間、賃金面では、国交省は2013年から公共工事設計労務単価を連続で引き上げてきました (2012年比約48%上昇) が、現場の賃金上昇はわずか。賃金下限額等を決める公契約条例の制定が必要です。長年の願いが運動によって実を結ぼうとしています。公契約条例は、2020年3月の区議会で制定の目途が立ちました。事業者・組合の代表を交えた審議会を立ち上げ1年かけて議論し、2021年1月から現場適用の見込みです。また、「職人は二度と戦争に協力しない」を合言葉に平和・憲法を守る運動も続けてきましたが、長年、日本の政権は米軍とともに戦争

する国へ9条改憲の策動を繰り返してきました。攻撃型兵器の購入や新基地建設、軍事費調達の色合いの強い消費税にも反対していきます。就業履歴を蓄積して技能・技術評価の基礎にできる建設キャリアアップシステム (CCUS) の普及もすすめ、これからも杉並支部は、仲間同士が力を合わせ、要求に基づく運動で、更なる発展をめざしていきます。

《予定》

- 1月19日 ヒルトン東京 (新宿) で70周年記念旗びらき
- 3月29日 全8分会が分会総会 (保険証交付会)
- 4月5日~6日
第71回定期大会を9年ぶり一泊で開催 (山梨県石和温泉・慶山)

日雇健保と東京土建国保

初めて労働者の運動で勝ち取った社会保険

戦後も建設職人は「怪我と弁当は手前もち」で、病気や怪我で働けなくなればすぐに生活が困窮していました。「他の産業では健康保険があるのになぜ職人だけ」との仲間の声が広がり、1952年に、建設のほか港湾労働者などの自由労働者も一堂に会し「健康保険適用獲得期成同盟」を結成。「カラスが鳴かない日はあっても職人が国会へ行かない日はない」精力的な運動で、1953年8月、日雇健保法の成立を勝ち取り、12月には組合を事業所とみなし組合員に健康保険を適用する「擬制適用」を勝ち取りました。

廃止言明から6年たたかった日雇健保

「労働者が運動によってつくらせた初めての社会保険（厚生省50年史）」である日雇健保。その後、運動で給付の改善などが進みましたが、1964年3月に厚生省が赤字を理由に廃止を言明。これに仲間は猛抗議。区役所前座り込みや大集会、要請行動を展開。厚生省に「廃止しない」と前言を撤回させました。しかし厚生省側は日雇健保「改正」（保険料の大幅引き上げなど）を以後6年も狙い続け、最後は報復的に擬制適用を廃止するという暴挙にでました。

東京土建国保組合となって今に

1970年5月13日、日雇健保法「改正」案が国会で廃案となり、政府は運動の中心であった建設労働者の力を削ぐため擬制適用の廃止を強行。これに対し、区・市役所や社会保険事務所での座り込み・交渉を全国各地で（杉並で区役所前に座り込み）おこない、マスコミからも「おかしな報復だ」との声が上がり、やむなく厚労省も国保組合の設立を認めました。同年8月1日に東京土建国保組合は、何度も補助削減や制度廃止への圧力・攻撃を受けながら、仲間の運動で磨きあげられ、現在に至ります。



日雇健保擬制廃止で区長に申し入れ



区役所前座り込み



今も国保を守る運動は続く

日雇健保最初の給付は、本人10割給付ながら、3カ月間しか治療は受けられず、入れ歯もだめ。国庫負担は事務費だけでした。仲間の運動で改善をすすめてきて、現在の東京土建国保組合は、本人も家族も7割給付ですが、入院には払い戻し制度もあり、疾病入金給付や出産休業の給付や保険料免除など、給付内容の改善を仲間の運動で勝ち取っています。

助け合いの制度広げて組合総合共済へ

1970年に共済開始、1999年共済会設立

「どけん共済」は東京土建の自主的な助け合い制度として1970年9月に発足（組織人員は約2万5000人）。一日2000円の傷病見舞金は（当時の協定賃金4000円）大きな評判に。その後組合員が増えるなか、物価上昇もあり掛金も引き上げましたが、それに増して給付を充実させてきました。1998年の第51回本部大会で東京土建は共済事業の運営組織の設立を決定。翌1999年6月にどけん共済会を設立、9月には掛け金を855円に据え置き病気を入院を1日5000円に増額し、どけん火災共済もスタートしました。

火災共済推進の先頭に立つ杉並支部

翌2000年、事業用・法人名義の車両加入の要望に応え7月から関東自動車共済の「自動車共済」を開始。杉並支部は仲間の助け合いを進めるこれらの制度の推進の先頭に立ち、今でも全都屈指の加入率となっています。さらに翌2001年には事業用財産を対象にした「事業用火災共済」の案内や、常備薬のあっせんを開始。病気になる入院6000円への改善、事業主向けに工事に伴う総合賠償保険と労働災害総合保険（引受会社・日本興亜損保）も開始しました。

自転車・地震など…助け合い広げ今に

2004年に自転車保険を開始。2007年の①新入学祝い、②資格取得祝い創設などを経て2010年にどけん共済を「組合総合共済」に名称変更。

2011年に5日以上入院は1日目から給付を改善、建築士賠償責任保険を実施。2012年4月に火災共済に地震見舞金を創設。2015年10月から若者の資格取得支援のライカ34などを開始。2016年6月にどけん生命共済、9月から地震共済を開始。2019年3月に長期障害所得補償保険を開始。自主共済への米国の圧力をはねのけ助け合いを広げています。



1999年9月からの制度改定を知らせた支部機関紙



今ではさまざまな共済が

熊本震災の年に地震共済を開始



土建国保とともに暮らし支える共済

2008年には後期高齢者医療制度の開始に対抗し、高齢組合員を応援する制度（①宿泊旅行補助制度、②長寿お祝い金）を開始。2011年4月には国保の入院全額払い戻しからの撤退に伴い、入院負担を抑える国保入院共済を始めるなど、土建国保と協力し万一の病気などのときの暮らしを支えてきました。

支部会館建設の歴史

①小檜山林三宅の6帖間に最初の事務所

杉並支部は1949年に西部支部から独立し発足。最初は小檜山林三（馬橋2丁目80）宅の奥6帖間が「支部事務所」でした。机、椅子、そして謄写版がひとつでした。この謄写版と仲間の情熱を武器に組合の運動が広がっていきました。

②矢田忠昭宅の庭に1坪事務所

1952年のメーデー事件の影響で160人から60人まで仲間が激減するなか、1953年4月、出所を機に矢田忠昭宅（阿佐谷3丁目）の庭に1坪の小屋を作り事務所機能を移転しました。

③當摩氏宅の庭に2坪事務所

1955年に組織は181人まで回復し、8月に當摩氏宅（東田町1-15）の庭に建てた小屋に事務所機能を移転しました（建坪2坪）。

④2階建て事務所馬橋1-54（現・梅里2-34-13）

その後、日雇健保を中心に仲間の運動で組合員が急増（1960年1月末960人）。事務機能発揮のためにも広い事務所が必要になり1960年5月に購入し6月に馬橋1-54（現在の梅里2-34-13）に移転。2階建てで、1階を事務所とし、2階は会議や文化行事などで活用。1963年に改築。30年以上ここが仲間の砦となりました。

⑤青梅街道沿いに支部会館を実現

3000人規模の支部になり、新たな砦の必要性が高まるなか、1993年の大会で方向を決め、1996年4月の第47回支部大会で会館建設資金の徴収を決定。翌1997年3月に高円寺南3-6-2のビルと土地をバブル後の底値で購入し、青梅街道沿いにみんなの支部会館を実現しました。2006年2月隣地を一部購入、さらに2009年の隣地購入で200人の会議ができる建物を作れる土地を確保。2010年8月に現会館を竣工し今に至ります。



1960年から97年まで梅里2丁目の事務所



1997年に青梅街道へ



2010年に現会館が竣工

「支部会館は俺たちの家」…小木勝三郎
会館建設の財源となる建設資金の徴収を決めた1996年の第47回支部大会は激論の末、全会一致で決定。これが今に至る財政的基礎になっています。

「金ではない、やる気だよ。会館は俺たちの家なんだよ」との小木勝三郎代議員（元支部長・名誉中央執行委員）の一言が大会の記録に残っています。

職業病認定・アスベスト闘争の歴史

職業病対策は石工の仲間のけい肺から

杉並支部設立から5年目の1954年1月、東京土建本部に労働組合けい肺対策委員会がつけられました。建設業や炭鉱で働く労働者にひろがる粉じん被害への救済措置の獲得を目指した運動のはじまりでした。この運動は翌1954年のけい肺法成立に結実しました。けい肺法の制定運動で石工の意識が変化し、ヨロケは宿命という意識から労働者の権利としての職業病対策を求める声が強まり、労働組合へ結集が進み、杉並支部でも多くの仲間が石工のグループとして加入。その後も運動は続き、1960年のじん肺法成立を勝ち取りました。

国策でつかわれたアスベスト

欧米で危険性が指摘されるなか（日本でも戦前に研究者が発病リスクを指摘）、高度経済成長期に、不燃・難燃を口実にアスベスト（石綿）含有建材が国策により大量に使用されはじめました。1975年に青石綿の吹付は禁止されましたが、以後も白石綿等の使用は続き、2005年のクボタ・アスベストショックを経て、翌年9月によりやく原則禁止になりました。東京土建では国保のレセプト点検、レントゲン写真の再読影、共済申請の点検などで被害者の発見と労災申請につとめてきました。

被害の根絶めざす建設アスベスト訴訟

危険性を知りつつ、対策もできたのに怠ってきた国と建材メーカーを相手に2008年5月26日、建設アスベスト訴訟を提訴。国は11連敗、企業の責任も認められつつあります。

杉並支部からも8人が原告になりましたが、既に6人が亡くなっています。アスベストは建設業で働く誰もが被害者になり得ます。早期の全面的な解決と「石綿被害者補償基金制度」の創設の運動をすすめています。



2008年5月に建設アスベスト訴訟を提訴



被害者の話すら聞かない製造企業に抗議
(2016年5月・太平洋セメント)

建設アスベスト訴訟の判決一覧(2019.12現在)

判決	国の責任		企業の責任
	勝敗	一人親方の救済	勝敗
神奈川1 陣横浜地裁 2012/5/25	×	—	×
東京1 陣東京地裁 2012/12/5	○	—	×
九州1 陣福岡地裁 2014/11/7	○	—	×
大阪1 陣大阪地裁 2016/1/22	○	—	×
京都1 陣京都地裁 2016/1/29	○	—	○
北海道1 陣札幌地裁 2017/2/14	○	—	×
神奈川2 陣横浜地裁 2017/10/24	○	—	○
神奈川1 陣東京高裁 2017/10/27	○	—	○
東京1 陣東京高裁 2018/3/14	○	○	×
京都1 陣大阪高裁 2018/8/31	○	○	○
大阪1 陣大阪高裁 2018/9/20	○	○	○
九州1 陣福岡高裁 2019/11/11	○	○	○

仕事確保・賃金引き上げの運動の歴史

1957年二級建築士の資格取得運動から

東京土建は仲間の仕事確保のために様々な活動をすすめてきました。1957年、従来45坪までは建築士の資格が不要だった設計監理の基準を30坪に変更する案が自民党から出され、撤回を求めて運動。2級建築士には臨時先行で免許を与えるなど一部修正させ、さらに実務経験での資格取得を認めさせました。この成果をもとに9月に最初の講習会を開催。翌年4月に136人が合格しました。



1957年7月に二級建築士獲得大会を杉並法人会館で開催

1960年代協定賃金運動で賃上げに成功

1960年に最初の協定賃金1100円を決定し、翌1961年に1500円の協定賃金を決めて日比谷で全国集会。この年から運動が本格化しました。杉並支部の内部にも職人と親方両方がいて立場の違いはありながら、腹を割って話し合い、まず住民の理解を得るために電柱へのビラ貼りなどに協力して取り組み、その結果賃上げを勝ち取っていきました。



協定賃金運動を報じた「すぎなみ」

大手の町場進出に対抗し住宅デーや住宅センター

町場への大手の進出が進む中、区民の住宅への要求をくみ取り地域に貢献するため、住宅デーを開催。1978年に区役所前で開催したのを皮切りに次第に規模を広げ、1982年からの分会単位での開催に移行していきました。1984年には住宅センターを発足しました。



区役所前でおこなった第1回住宅デー

1997年まちづくりセンター設立、そして…

住宅センターの後身が、1997年の支部会館移転後に設立したまちづくりセンターです。2014年12月には本部を中心に、国の認定を受けた住宅リフォーム団体として住宅リフォームパートナー協議会（RECACO）が設立され、杉並支部からも25社が加入。仕事確保の運動が日々続いています。

地域に根差した組合として

大手企業が町場に進出し、建てずに買う住宅が増えました。しかし現場で働く人々こそが建物を作り、地域の住民とふれあう構造はかわりません。地域の信頼を得られるよう、杉並支部では学校での授業支援や児童館での木工教室などにも取り組んでいます。こうした活動は産業の後継者育成を目指したものであります。

分会体制確立の歴史

1968年 全都の再編受け33分会へ

1949年の支部設立のあとしばらくは分会体制が確立できていませんでした。青年部ができた頃からは、運動は役員と青年部・主婦の会が中心になっておこない、群長が集金してまわっていたようです。その後組織体制の確立が不可欠となり、まず東京土建全体が1968年11月に居住地ごとの支部に組合員を再編。多くの活動家が杉並を離れ、同時に他支部から杉並に入りました。これを機に分会・群の体制確立をめざし2段階に分けて組織を再編。激論がかわされましたが1969年11月の一泊群長・活動者会議、12月の群三役会議で意志を統一し、1970年には33分会体制、群長に副群長と群会計を加えた三役体制が確立しました。

1990年 13分会に再編

その後、時間の経過とともに分会の構成人数に偏りが生じ（最少32人～最大213人）分会地域内居住率も最少22%、平均49%と低くなりました。組合の運動の重点を分会に置くべきとの理解が広がるなか、活力ある分会をめざして、①構成人数は150人前後、②地域内居住率を70%以上、③分会数は15分会前後、を目標に検討を重ねた末に、1990年に13分会への再編をおこないました。その後10年を経ずして3000人支部を実現しました。

2019年 8分会へ再編

しかし再編から年月を経ると再び分会の人数や居住率に大きな差が生じました。そこで再び分会の活力向上をめざし、①300人規模、②10分会程度、③群はそのまま引き継ぎ、を基礎に議論を重ねた末、2019年2月に、400人規模、8分会への再編をおこないました。同年は春・秋の月間で全分会が目標を達成し、これからの飛躍が期待されます。

33分会体制のもととなった再編案



1990年から2019年1月の13分会



2019年2月からの8分会



杉並支部青年部の歴史

1958年 支部青年部設立

東京土建青年部は1958年3月に結成。全支部に青年部を結成すること、労働者としての自覚を養い社会的地位の向上をはかるために講習会や技術講習会をひらく、平和運動、他の産業の組合との交流などを当初の方針にしました。杉並支部でも二級建築士の資格取得運動で同年に青年部を結成。1959年の第2回青年部大会は20人の参加で馬橋会館でおこないました。

1960年代 協定賃金運動の先頭に立つ

青年部は当初、野球を中心とした集まりとして出発しましたが、その後、山岳部、ダンス部など若者が青春を謳歌するサークル活動や、弁護士を講師にやさしい法律知識、建築士を講師に二級建築士の講習会など、幅広い学習活動もおこない、1960年代の協定賃金運動では支部の先頭にたって行動しました。

以後も杉並支部の青年部は全都的にみても活発な活動を続け、1990年代にはメーデーのデコレーション制作を青年部だけでおこなうようになり、本部の青年部長に中村隆幸氏を送り出しました（1992～1997年度）。

青年部活動は未来の活動家づくり

その後、活動参加者が減少した時期もありましたが、メーデーのデコレーション制作も続けており、2009年には海賊船のデコで最優秀賞を獲得。その秋には青年部独自に住宅デーを柏の宮公園で青年9条の会などとも協力して開催するなど、勢いのある活動をしていました。

近年組織に占める青年層が減るなかでも、毎月15人近い若者が部会に参加しており、支部の役員も青年部経験者が多くいます。

若者の活動参加の入口としての青年部に、いっそうの期待がかけられています。



1962年頃の青年部



1966年2月20日 第9回大会さまざまなスローガン掲げる



2009年秋に柏の宮公園で青年部住宅デーを開催

2009年メーデーデコレーションは最優秀賞



授業支援の歴史

生徒の声を学校が受け止め組合へ協力要請

杉並支部では未来を担う子供に職人の技と心を伝える授業支援活動に取り組んできました。

最初の授業支援は1999年2月12日でした。東田中学校の技術家庭科の公開授業で5人の仲間が授業支援者として教壇に立ち、多くの学校関係者らが見学するなか、鉋がけと道具の扱いや作業姿勢などを指導。また別教室で砥の粉塗りの説明と指導もおこないました。この授業は生徒の話し合いで出た「大工さんのように鉋がけしたい」「きれいに塗装したい」との声を学校が受け止め、地域の建設職人の協力を求めて実現したものでした。

区内の小中学校に広がる授業支援

この授業をきっかけに、他の小中学校にも授業支援が広がりました。1999年10月に成浜分会が杉並第二小学校で図工の授業を支援。2000年には東分会が杉並第十小学校で、2001年には井草分会が沓掛小学校と三谷小学校で授業支援。同年は支部担当で高南中学校の生徒の職場訪問・勤労体験も初めて受け入れました。2002年に成田東分会が東田小の東田フェスタで木工教室を開催。以後、活動範囲を広げ11分会24校で支援の実績を築いています。

成浜の杉二小授業支援は1999年から続く

なかでも成浜分会は杉並第二小学校での授業支援を1999年から一貫して20年以上続けています。2019年2月に分会再編で浜福分会になっても、6月に小刀とぎ・竹トンボづくりと11月にノコギリを使った木の枠づくりを図工の授業でおこないました。

学校の正規の授業で教壇に立った仲間たちは目を輝かせる子どもとのふれあいを通じて、感動していました。建設労働者の社会的地位の向上をめざすうえでも重要な活動です。



1999年最初の授業支援は東田中学校で



成浜（現浜福）の杉二小での授業支援は20年以上続いています

学校授業支援の実績

担当	学校	時期
支部	東田中学校	1999.2.12
成浜	杉並第二小学校	1999.10.18~20
東	杉並第十小学校	2000.11.16
井草	沓掛小学校	201.6.27~28
支部	高南中学校	2001.9.7
井草	三谷小学校	2001.11.22
成田東	東田小学校	2002.10.26
荻西	高井戸第四小学校	2002.11.12
中央	松ノ木小学校	2003.7.12
下高永福	向陽中学校	2003.11.12
荻西	桃井第二小学校	2003.11.15
荻西	神明中学校	2004.7.21
成浜	高井戸中学校	2004.11.5
堀ノ内	堀之内小学校	2004.11.6
善福寺	桃井第一小学校	2004.11.20
井草	八成小学校	2005.2.25
堀ノ内	済美小学校	2005.10.22
成浜	西宮中学校	2006.6.13~15
東	方南小学校	2006.7.15
井草	桃井第五小学校	2011.12.2
富士見	高井戸第二小学校	2012.3.12
荻西	西田小学校	2014.10.2

杉並支部の平和運動の歴史

二度と戦争に協力しない誓い

戦前の杉並は、蟹工船で有名な小林多喜二らプロレタリア作家のつどった町でした。杉並支部の仲間は戦前の労働運動の伝統と戦争の苦しみ、深い反省を胸に、二度と建設職人は戦争に協力をしないことを誓い出発しました。1950年の警察予備隊創設に始まる再軍備路線に反対の声を全都の仲間とともにあげ、以後も一貫して反戦平和を訴えてきました。

「原水禁運動発祥の地」

1954年3月のビキニ島水爆実験では島民、兵士、そして太平洋上で操業していた第五福竜丸をはじめとする850隻を超える漁船と漁民が被災しました。漁獲したマグロは全て廃棄処分となり「放射能マグロ」の報道に魚屋の客足は途絶え深刻な被害がおきました。

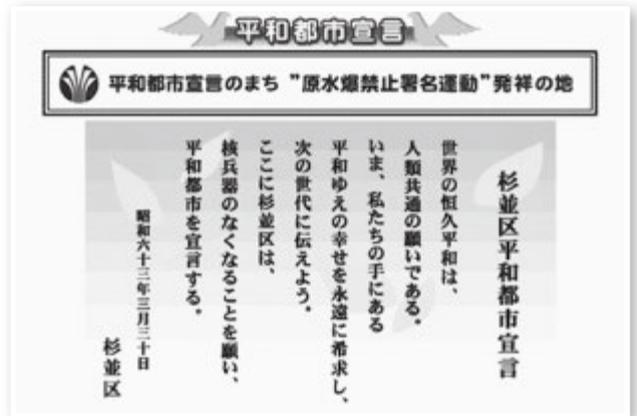
そんななか、和田地区の魚屋さんの訴えを皮切りに、主婦を中心とした水爆反対の声が高まり、8月には原水爆禁止署名運動全国協議会が結成。杉並区立公民館に事務所を置いたこの運動は燎原の火のごとく広がり、署名は人口39万人の杉並区で30万筆、全国で3000万筆集まり、翌1955年8月の原水爆禁止世界大会開催の原動力となりました。

1999年から平和のつどいを毎夏開催

1999年から毎年、国民平和行進とあわせて平和のつどいを開催しています。この運動は、原水爆禁止大会への杉並地域からの代表を励ます激励の会であり、同時に杉並地域の平和を願う仲間がつどい、学ぶ場でもあります。

戦争体験を語る仲間がいた頃は仲間が講師になり、学者や主婦の体験談なども聞き、平和への考えを深めてきました。

原水爆禁止大会には青年部を中心に代表を派遣し続けています。



杉並区平和都市宣言



国民平和行進



教科書問題で区民を顧みない採択に抗議

教科書採択問題

杉並区では2006年度から2011年度にかけて特異な歴史観で書かれ、誤りも多く区民も反対の声をあげていた「つくる会」歴史教科書が使われました。支部では2005年、2009年の教科書採択では反対の声をあげて活動しました。

2012年度からは社会分野は帝国書院版の教科書を採用しています。

杉並区での防災活動の歴史

2007年7月 家具転倒防止器具取付事業

杉並支部では、地域の5団体（東京土建・建設ユニオン杉並支部・杉並建設労働組合・杉並民主商工会・杉並建築組合）で構成する「小規模建設事業団体連絡会」で、杉並区の様々な事業の業務委託を受けています。

最初の事業委託は2007年7月からの家具転倒防止器具の取り付け事業です。2004年の新潟中越地震を経験して家具の転倒防止への理解が広がる中、住宅デーや土建まつりで得られた地域の信頼と、区役所ロビーで住宅相談を重ねた実績などが力になりました。



住宅相談員会議で事業の説明



家具転倒防止器具取付

2010年4月 住宅用火災警報器取付事業

2010年4月には新たに住宅用火災警報器取付事業を受注。消防法改正で2006年6月から義務化された住宅の火災警報器。どの自治体でもなかなか普及が進まない中で、まず65歳以上の一人だけの世帯を対象に、杉並区が無料で取り付けに乗り出し、その事業を受託したのです。



住宅用火災警報器取付

2016年6月 感震ブレーカー取付事業

杉並区でも必ず来る大地震への備えが進められるなか、2011年12月には区と防災協定を締結。

地震後に通電が再開した時の出火対策の必要性が知られるようになった2016年には6月から感震ブレーカー（震度5強以上の揺れを感知して落ちる）の設置支援事業を開始しました。

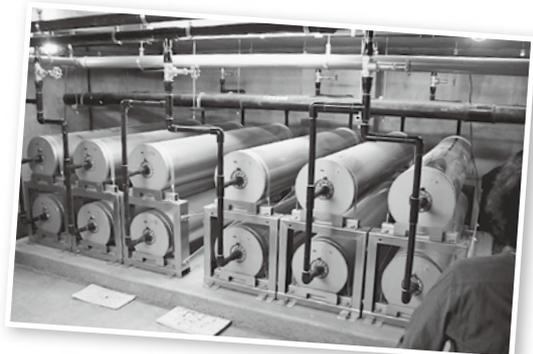


2016年12月 ビーバース結成式

消防署とも連携し防災対策に貢献

杉並支部単独でも区の防災の備えをすすめ、2016年3月には荻窪消防署と災害時救助救急の協定を結び、12月には「まちの救助隊ビーバース」を結成。消防との連携もすすめています。

支部会館は帰宅困難者一時滞在施設として区と協定しており、2019年4月には災害に備えた貯水施設も地下に完成しました。



2019年4月に完成した
地下貯水施設

公契約条例運動の歴史

賃金の底支えを公共の現場から

バブル崩壊後も建設産業の重層下請構造は変わらず、賃金さが一方の現場労働者は希望を持ってない状況が続いていました。そんななか、公共工事の現場だけでも末端の労働者の条件を底支えする「公契約法・条例」をつくろうと、東京土建・建設ユニオン・杉並建設の3組合（土建共闘）で運動を開始。2002年9月に区議会各会派の幹事長達に申し入れしたのを出発点に、区長や関係部署、区議会などへの請願を継続的におこなっていきました。

2005年6月 公契約法求める請願が区議会採択

その結果2005年6月に杉並区議会で、公契約法の制定を国に求める請願が全会一致で採択されました。しかし国は法律をつくろうとはしませんでした。2009年に千葉県野田市で最初の公契約条例が制定されても杉並区は動きません。

2010年に山田宏区長が突然区政を投げ出して国政に鞍替えし、田中良区長が誕生しました。

2012年に区は「公契約等における適正な労働環境整備に関する要綱」を策定。しかし現場の賃上げには結びつきませんでした。

毎月の実態調査で条例への道開く

そこで2014年3月から区発注の現場賃金の実態調査を毎月おこない、2015年3月の区長懇談で現場の賃金があがらない実態を伝え、区自身も調査するとの回答を得、以後も組合での調査を継続しながら、区議会各会派や建設業協会とも懇談を重ねていきました。区発注工事の施工で区外業者が93%にもものぼるなどの実態には区長も区議も考えるところが大きかったようです。

実態を調査し、ぶつける運動の結果、2019年12月から翌1月6日まで重要条例の提案に必要な区民意見募集の手続き（パブリックコメント）がなされ、いよいよ制定への道が開けました。



田中区長と懇談



現場所長と懇談し実態聞き取り



毎月定例で区の工事現場賃金調査

公契約とは…

国や地方公共団体が民間企業や団体と結ぶ契約のこと。建設工事だけでなく公共施設の清掃やゴミ収集、窓口業務の委託などもこれにあたる。

公契約条例は、現場労働者の賃金を含む労働条件の下限を、契約の条件に組み入れるもの。これによって低賃金で会社だけが儲ける競争をとめ、公共サービスの質の向上、工事の品質確保をめざす。

東京土建まつりの歴史



第1回土建まつりを報じた「すぎなみ」



第4回から建前ミニ上棟式



第6回来場者1万人に



第8回ステージが復活



第8回ステージ企画のエイサー

支部50周年記念行事として出発

今では支部最大の年間行事となっている「東京土建まつり」は2000年10月29日に、支部50周年行事としてははじまりました。

第1回土建まつりは中央舞台上で蚕糸太鼓などのアトラクション、フアフアトランポリン、ミニSL、分会の模擬店、ジャンボ工作教室、包丁研ぎ、住宅相談、他団体による医療・健康コーナーの出店など、現在の東京土建まつりの原型になりました。当日はあいにくの雨模様のもとでの開催ながら3000人の来場者を迎え支部50周年記念行事のフィナーレを飾りました。

なお、包丁とぎ379本、まな板けずり107枚、住宅相談5件でした。

地域に定着し1万人のまつりへ

2002年は9月にまつりでなく大運動会。

以後は毎年土建まつりを開催しています。

2004年9月26日の第4回から、建前ミニ上棟式でのもちまきがはじまりました。

2006年11月12日の第6回は晴れ。ついに来場者1万人の大イベントに成長しました。

翌年9月30日の第7回は、荒天で中止。

2008年11月16日の第8回は第1回以来となるステージを設け、雨のなか4000人を迎えて開催。

2009年11月22日の第9回は支部60周年行事として開催し、ヒーローショーも呼びました。



第9回シンケンジャーも

東京土建まつりの歴史

「建設業ならではの」のまつりに

2011年10月2日の第11回は、東日本大震災の自粛ムードとの葛藤のなかでの開催でした。各職コーナーを初めて設置し、建設職人らしさをいっそう打ち出しました。

2012年9月30日の第12回はイケてる職人コンテストを初開催。

2016年10月23日の第16回から3回はグルメグランプリを行いました。

2018年11月の第18回からはパワーショベルで缶ジュースをつり上げる重機運転体験、10m近くあがる高所作業車体験を実施するなど「建設業ならではの」のまつりとして歩んできています。

家族ぐるみの東京土建だから「まつり」

2019年11月11日は8分会への再編後初の開催。分会対抗手ノコ王決定戦を初めて開催。仲間も熱くなりました。大きな取り組みに参加して同じ作業をして、親しくなれたとの仲間の声もでていました。

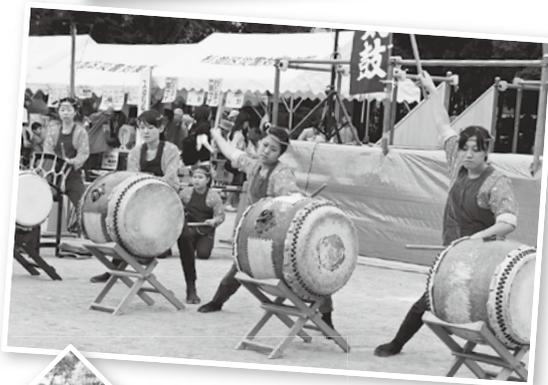
振り返れば東京土建は、設立当初から家族ぐるみの仲間のふれあいを重視してきました。本部でも支部でも運動会や文化祭をおこなってきましたし、本部は60周年から5年ごとに東京土建まつりをおこなっています。おカタイことだけじゃ、楽しくないですからね。



第10回 包丁とき



第11回 左官・塗装体験



第11回 蚕糸太鼓



本部65周年まつりにて（井の頭公園）



第18回 重機運転体験



第19回 高所作業車体験

分会・各部の紹介

杉並支部の8つの分会と、青年部、主婦の会、
シニア友の会、後継者対策部、PALを
紹介いたします。

目次

井荻分会……………	73	青年部……………	81
西荻分会……………	74	主婦の会……………	82
富士見分会……………	75	シニア友の会……………	83
阿佐谷分会……………	76	後継者対策部……………	84
中央分会……………	77	P A L（野丁倶楽部）…	85
浜福分会……………	78		
高和分会……………	79		
泉南分会……………	80		

号外
支部70周年誌
記念特別号

井荻タイムズ

東京土建杉並支部
井荻分会



高橋孝志分会長

井荻分会はこれからも仲間とともに歩みます 井草分会+善福寺分会（今川・桃井地域）で誕生

【初代分会長・タイル・高橋孝志】
井荻分会は2019年2月の分会再編で井草分会（上井草・下井草・井草）と善福寺分会の一部（今川・桃井）を合併して誕生しました。400人近くの仲間がいます。10月には初めての分会旅行もおこないました。楽しい仲間の活動をもっともっと広がっていきます。みなさんよろしくお祈いします。



新分会初の旅行は茨城県へ



東京土建まつりで塗装体験も



塗装体験の指導は三谷明書記長

杉並区の北から北西にかけて
井荻分会の担当地域です



分会センターで交流会

分会センターで交流会



6月の住宅デー
八成区民集会所で開催

西 荻 分 会

初の分会旅行は千葉県館山方面でした



春の住宅デー



仲間づくり月間出陣式



児童館で工作教室



分会若手交流会



石川浩昭分会長

めざします。

るなか、若い参加者が
増えてきました。これ
からも「みんなでチャ
レンジできる、活動す
る、楽しめる分会」を

杉並支部 70周年おめでとうございます
旧善福寺分会（善福寺・西荻地域）と旧荻
西分会（荻窪・松庵地域）を合併して誕生し
た西荻分会は、12月当初429人の分会で
す。

2月の誕生以来、最初の一年は、春の住宅
デー、秋に日帰り旅行、土建まつりなど様々
なイベントや仲間づくりも力を合わせて頑張



仲間づくり月間打ち上げ

富士見分会



分会旅行ぶどう狩り



渡部分会長
小山書記長

今よりもプラスワンを目指して！
富士見分会は2019年の分会再編により、旧富士見分会と荻西分会の宮前地域、荻窪地域の一部が集まってできた分会です。再編後の8分会の中では一番組織人数の少ない分会ではありますが、和気あいあいと楽しく活動しています。
分会の一番大きな取り組みは、なんといっても毎年6月に久我山駅周辺で行われる「ホテル祭り」会場での住宅デーです。2日間にわたり多くの来場者向けに、竹細工の工作教室やヨーヨー釣りなどが大人気です。
これからも仲間が楽しく参加したくなる分会を目指してがんばっていきます。



土建まつり



大勢の来場者で賑わう
ホテル祭り



若手交流会



いつでも「仲間」と和気あいあい楽しんでいます！

平成30年令和元年の最盛期！

阿佐谷分会



分會へ入旅行



仲間ついで出陣式



とけんまつり



住宅デー

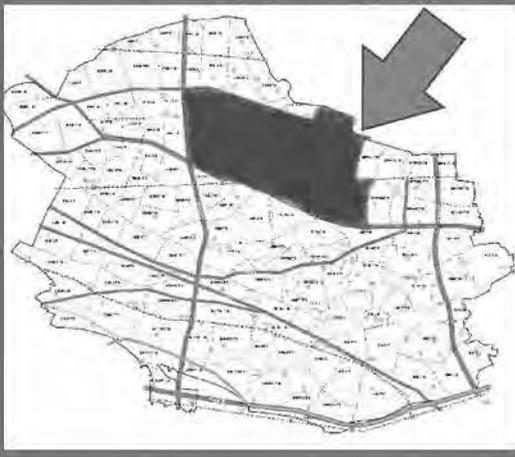


お疲れさまでした～！



仲間を訪問

エゴが「阿佐谷分会」



「阿佐谷分会」は、杉並区、阿佐谷北、阿佐谷南、天沼、本天沼、清水を担当地域とする約400人の組織人数の分会です。また、2019年2月に13分会から8分会に再編が行われた際にも、唯一他との分会の合併はありませんでした。阿佐谷分会は、役員も40代、50代の若いメンバが多く、活気

のある結束力の強い分会です。また、毎年春と秋若手交流会やセンター交流会、日帰りバス旅行や住宅デー・土建まつりの上げなど、「飲みニケーション」には事欠きません。交流はもちろんですが、仲間づくり月間では仲間や事業所を訪問し、役員が一丸となって目標達成を目指します！

「阿佐谷分会」ってこんな分会

阿佐谷分会は、しみんさん優しくあり、和気あいまし、自分自身も楽しんで活動し、仲間を増やしてもいいかな、頑張りたいです。

杉並支部70周年おめでとうございませう。阿佐谷分会長として、早く武藤真次です。何年か、初めは、でも、役員さん、みなが、助けて、やれな、が、何、つ、て、き、ま、し、た。

阿佐谷分会長
武藤真次あいさつ





2019年
せいきょう診療所
住宅デー



中央分会

仲間が集う中央分会!

杉並区のほぼ真ん中に分会センターがあります

センターでは群会議だけでなく飲み会などもおこなっており、仲間の交流が盛んです。春・秋の月間ではセンター交流会として多くの組合員の仲間が参加しています。

機会と都合のつく方はぜひお立ち寄りください。



2019年
分会センター
交流会



2019年
梅里中央公園
盆踊り



2019年
横須賀・横浜
分会旅行



中央分会長:氏福 浩

分会長挨拶 「老若男女仲良く楽しむ分会モットーに」氏福浩

僕が東京土建に加入して25年が経ちます。杉並支部は以前33分会体制でしたが73分会への再編にともなひ松ノ木・大宮・梅里分会が合併して中央分会となり、成田1・成田2の2分会が合併して成田東分会となりました。そこから8分会への再編があり、中央・成田東分会が一緒になり新しい「中央分会」として2019年2月よりスタートしました。

うちの分会は、老若男女とも仲が良く、楽しむ分会をモットーにして、新しい仲間とこれからも引き続き分会を盛りたてて築き上げていきます。



分会旅行・富士サファリパーク



としまえんBBQ



杉二小授業支援



杉二小授業支援



東京土建まつり



頼りになる
大淵修分会長



若手交流会・春



若手交流会・秋

19年度より成浜分会と下高永福分会の仲間があつまった新分会。名称は「浜福分会（はまふくぶんかい）」です。合併してからの総会・住宅デー・バス日帰り旅行・若手交流会・20年を超える伝統の杉並第二小授業支援など仲間と楽しく協力しあって取り組んでいます。とても仲良しです。これからもいろいろな行事に参加したくなるような浜福分会で「良かった！」を目指して活動していきます。これから分会を背負っていく後継者育成を頑張ります。

杉並支部70周年

おめでとうございます！

仲良し 浜福分会



東京土建一労組組合杉並支部

高和分会

高和分会 2019年12月現勢は 363名

結成70周年記念誌



高和
分会

東京土建一般労働組合杉並支部

高和分会は、2019年2月に旧高円寺分会と旧東分会の和田地域が合併して誕生しました。最初は分会運営もなかなかうまくいきませんでした。仲間づくり行動、住宅デー、若手交流会、土建まつりなど、多くのイベントをおこなっていくたびに気心が知れ、結束力も強くなってきました。

これからも仲良く、楽しく高和分会を盛り上げていきたいと思ひます。

みなさんのご協力お願いします。



熊谷勝美・分会長



高和分会2019年度役員名簿

	役 職 名	氏 名	年 齢
分 会 四 行 委 員	分 会 長	熊 谷 勝 美	12
	分 会 書 記 長	土 屋 紀 彦	32
	執 行 委 員	木 下 昌 浩	17
	副 分 会 長	藤 田 順 平	29
分 会 専 門 部 長	組 織 部 長	佐 賀 剛	18
	仕事技術対策部長	若 狭 浩 二	32
	職金労働対策部長	池 島 隆 之	30
	社会保険対策部長	鎌 田 文 彦	15
	税金経理対策部長	高 橋 美 喜 子	23
	厚生文化部長	佐 藤 修	09
	財政部長	渡 藤 勝	10
	教育厚生部長	木 村 英 一 郎	17
	後援者対策部長	高 橋 昇	32
	青年部長	飯 塚 竜	05
	シニアの会会長	鈴木 茂	29
長	主婦の会会長	高 橋 美 喜 子	23
財 政 副 部 長			
審 記 次 長	小 堀 豊	16	
分 会 会 計 監 査	青 木 光 利	06	
分 会 会 計 監 査	範 内 武 司	18	
常 任 執 行 委 員	伊 藤 和 剛	16	
常 任 執 行 委 員	角 田 幸 司	30	
支 部 会 計 監 査	和 崎 辰 夫	09	



東京土建杉並支部 泉南分会

杉並支部でいちばん大きな分会です

青梅街道 環状七号、甲州街道そして神田川と善福寺川までの広域



令和元年10月20日・初のレクリエーション
八景島シーパラダイスと中華街散策ツアー



最初の住宅フェアは妙法寺で
包可どきは地域の人も大喜び



若手交流会・若手組合員とのつながりも大切に

泉南分会は2019年2月に結成。2019年11月現在460人が所属し、杉並支部の分会の中で最も人数

の多い分会です。また担当地域も北は青梅街道から南は環七を経て甲州街道、神田川・善福寺川流域の広範囲に及びます。

妙法寺ふれあい祭りや熊野神社普賢など地域あげてのイベントに参加することも10月にはバス旅行を初開催。八景島や中華街を巡る視察を兼ねました。地域に信頼され、仲間のためになる分会をめざしていきます。



2019年3月の分会総会で運動方針を確認



名付けで一苦労ありました
泉南分会誕生秘話

【佐藤雅一・教習部長】

平成31年2月、分会

再編成の結果、堀ノ内分会、東分会より方南町、和泉分会の3分会が合併になり泉南分会が発足した。

再編に伴い様々な課題が議論されたが、新分会の命名でも様々な案が出て難渋した。

まずは地域を縦貫する環七からスバリ「環七分会」。良いと思いきやこの区なのか分からないうことで却下。続いて地域を流るる

分会長からひとこと

楽しんで活動広げましょう

【浅野眞治・分会長・石工】みなさん、まだまだ新分会に慣れていないために戸惑う点もあると思いますが、徐々に方向にいくものと信じております。



分会のよりいっそうの発展は支部・全都の仲間のためになることです。分会全員で臨み、楽しみながら活動を広げていきましょう。

未来をに 若者の集まり

青年部



東京土建まつりで建前を担当 (11月)

青年部は、毎月月初の部会と季節や組合のスケジュールと連動した多くのイベントをおこなっています。部会には10〜20数名が参加することもあり他支部と比べ大所帯です。2019年は餅つき大会、スキー・スノボツアー、サバイバルゲーム等に取り組みました。

今年、工藤部長となつて2年目となりました。メンバーでは受賞を目標に力を入れて取組んだ星のカービィの制作物を先頭にした隊列で、23区最優秀賞と青年特別賞のW受賞を頂きました。

これからも分会や支部行事に積極的に取り組み、他の組合員さんとも交流を深めていきたいです。



工藤翔部長と家族
スキー・スノボツアーにて



スキー・スノボツアー (2月)



餅つき大会 (1月)



川辺でBBQ (9月)



主婦の会



～～～ 清く正しく美しく～～～

主婦の会では、子育て世代を集めて交流会やキャンプ、楽しいイベントなどを企画したり、料理教室やヨガ教室など女子力アップにつながることもやっています。もちろん時には平和について勉強したりおしゃべりしたり楽しいことや、ためになること中心に活動にとりくみ、女性同士の輪を広げながら活動しています。仲間づくりでは、組合員と一緒に行動し主婦の会会員を増やし現在では636人となり、着々と会員数を増やしています。



シニア友の会



いつまでも仲間と楽しく！

シニア友の会は65歳以上の組合員の会で、2004年に117人の仲間スタートして以来、現在では約470人の会員がいます。

長年組合運動の先頭に立ってきた経験と技術・技能を生かし、住宅デーや授業支援活動など支部・分会の活動を支えています。

会員同士の親睦を深める取り組みとしては、恒例の一泊バス旅行の他に、月に2回支部会館でカラオケ・映画鑑賞・輪投げなどをおこなう「杉並シニアさろん」を開催しています。

これからもシニア世代の組合員が気軽に集まり交流できる場所として、シニア友の会の活動をすすめていきます。



健康教室



授業支援



輪投げ大会



バス旅行



シニアさろん



仕事も遊びもつながれる！



後継者対策部

仲間から家族まで！
交流がすすみます

働き盛りであり、子育て世代でもある後継者世代の組合員に、組合の活動を家族にも理解していただき、家族で楽しく参加できるレク企画を計画しています。仲間との付き合いは家族同士の付き合いに発展します。後継者対策部で顔見知りとなり一緒に活動を重ねることで仲間意識も生まれ、仕事のやりとりまで結びつくこと、より深い関わりとなります。

毎月の後継者対策部会には50歳以下の組合員ならどなたでも参加できます。部会ではレクリエーションの内容を決めたり仕事のためになる学習会をやったりと、居酒屋で一杯やりながら交流会をおこなっています。



支部会館屋上バーベキュー



分会対抗ボーリング大会



婚活パーティー



猿島ツアー



南相馬復興支援



田植え体験



ネイチャー体験

杉並支部PAL (やちょうくらぶ)

野丁倶楽部

ぼる

PALとは…Powerful Active Leadersの略で、野丁場(ゼネコン・サブコン)、新丁場(住宅メーカー)、パワービルダー(建売)で働く仲間を組織しています。



西部ブロック(目黒・渋谷・世田谷・新宿・中野・杉並)でも年4回の役員会と年1回の日帰りバス旅行やビアガーデン、大江戸温泉などで交流しています



支部PAL会員の交流と団結のため年1回ボウリングや日帰り温泉などのレクをおこない日々の疲れをいやし意見交換をしています



織田一、会長

【織田一・会長談】杉並支部では野丁場・新丁場で働く組合員の集まりを「大手企業従事

者懇談会」として大手企業交渉の前に、春・秋の年2回開催してきました。これを引き継ぐかたちで、杉並支部PAL「野丁倶楽部」を結成しました。私も結成当時からメンバーです。今は会長として会員を増やし「現場の声で現場を変える」運動を盛り上げるべく邁進しています。

2019年度役員体制

- ◆会長 織田 一
- ◆副会長
大越 確
岡野 隆之
佐藤 勉
高野 正行
- ◆事務局長
氏福 浩
- ◆事務局次長
栗林 弘行 (貸対部長)
岸川 正 (労対部長)



ゼネコン現場訪問



PALの運動

毎月の現場賃金調査やゼネコン現場訪問(年2回)で現場の声を集めて大手企業交渉や政党・区長懇談等で活かしています。地道な運動が公契約条例の制定につながりました。

2019年の夏、大成建設が元請の丸の内3-2計画の現場で職人からの「助けて」の悲鳴に応えた宣伝で劣悪な労働環境を改善させました。



● PALの歴史

- 2006.02 東京土建本部、職長の会「PAL」を設立。
- 2007.08.23 支部、賃金労働対策部会で支部PAL結成を決定。
- 2007.09.25 支部、賃金労働対策部会で支部PALを設立。設立時の会員は21名。初代会長に熊谷勝美氏、事務局長は松原秀夫氏。
- 2008.02.10 会員25名に。「会」の名称を野丁倶楽部(やちょうくらぶ)とする。
- 2008.05.25 支部PAL「野丁倶楽部」第一期総会開催(会員数33人)
- 2019.03.15 第十二期総会開催、会員数84名。

副執行委員長

執行委員長



浅田 正昭
[中央分会]



鎗田 登美雄
[泉南分会]



水尾 安男
[富士見分会]



松原 秀夫
[井荻分会]



吉田 康典
[中央分会]



大戸 龍雄
[阿佐谷分会]

四役待遇

書記次長

書記長



中村 隆幸
[浜福分会]



腰塚 智彦
[書記局]



双木 淳志
[書記局]



縫村 信秋
[浜福分会]

常任待遇

常任執行委員



工藤 翔
[青年部長・中央分会]



岸川 正
[泉南分会]



栗林 弘行
[中央分会]



角田 幸司
[高和分会]



毛塚 幸子
[主婦の会会長・中央分会]



矢口 徳太郎
[浜福分会]



佐藤 勉
[富士見分会]



倉田 文男
[井荻分会]



伊藤 和則
[高和分会]



高取 一二三
[書記局]



藤澤 拓海
[書記局]



石川 雅昭
[西荻分会]



塚原 恒平
[浜福分会]

35周年機に飛躍を

記念誌を運動の糧に

支部執行委員長 日浦敏光



組合員ならびに家族の皆さん、創立35周年記念を祝してごあいさつを申し上げます。今年第36回定期大会では、創立35周年の記念行事を盛大にとりくむことを決めました。この記念事業の1つに、記念誌「ねんりん」を組合員名簿と共に製本化して配布することになりました。これは単に杉並支部の歴史をつづけるだけでなく、その時代の流れの中で学んだ多くの闘いの一つ一つの事実を正しく伝えていくという目的があります。

支部の歩み、記念誌は、闘いの歴史を「誰が」「何を」「どんなことをやってきたか」とめておきたい。このことはたくさんさんの仲間の願望でした。この願いが叶えられて発行できたことは、大へん有意義なことでもあり、わたしたちにとっても、これからの運動の参考書としても貴重です。私はまず、この編さんに奮闘した編さん益垣当の仲間や皆さんに厚くお礼を申し上げます。

さて、この「ねんりん」の記録にあるように、わが杉並支部は昭和34年の秋に東京土建西部支部から分れて結成され、当時組合員は40名位であったそうです。それから今この東京土建労働組杉並支部となり、現在に至っています。

そして、昭和60年を過ぎました。組合員数も2,020名となり、区内の民間組合の中でも、最大級の労働組合になりました。2,000名達成は私たちの悲願でした。ようやくこの35周年目に達成できたことは、これまで苦勞された多くの先輩や仲間の皆さんが、きびしい条件の中で頑張ってくれたおかげだと感謝しています。

支部は結成以来、土建共闘（三組合）をはじめ区労働者の仲間と手をとりあって、仕事・健保・賃金・税金の闘いなどの運動を発展させ、建設労働者の地位向上のために努力してきました。

この間、組織の存亡をかけて闘った日雇建築廃止反対闘争は忘れることができないう大きな出来事でした。そして国や都に補助金を出させて、自前の健康保険組合を設立しました。当時、加入者は1万5,000人でした。このとき私達は、「たとえ建設国保がどんなに不利なものでも、それを足がかりにして、真の社会保険をたたかいていこう。」と決意しました。が、杉並支部も多くの組合員を失いました。

その後、茨の道を歩んできました。昭和50年の25周年記念の今年、2千人の悲願とうと目標を定めとりくみをはじめました。幸にも、この35周年記念の今年、2千人の悲願が達成され、まだまだ仲間が増えていく勢いです。

しかし、今日の情勢は私たちにとってたいへんきびしいと思います。もうこれ以上の後退は許されません。さらに全国の仲間や地域の入連と手をとり合って、「命とくらし、健康を守る」闘いの先頭に立ち、一つ一つの問題を解決していくために頑張りたいのです。組合員、家族の皆さん。この35周年を節目にして、今後も杉並支部の統一と団結のためには、絶大なご協力、ご指導をお願いします。

35周年誌「ねんりん」の発行から35年を経て、既に冊子としての「ねんりん」は手に入りがたく、復刻も困難です。当時の歴代委員長らを知る組合設立当時の雰囲気少しでも伝えることを願い、ここに掲載するものです。

歴代委員長より一言



小橋山 林三

杉並支部創立35周年、本当におめでとうございます。今、ふりかえってみると、創立当初から組合にかかわった一人として感無量です。そして、わがこのように輝くと思います。この35周年を節目に、さらに杉並支部の団結と発展を祈ってやみません。



小 木 勝 三 郎

組合創立35周年をむかえ、皆さんとともに心からこの日を喜びたいと思えます。思えば、組合員40名ならずの吹付けは飛ぶよゆうな小支部から今日の発展をみると、ただただ感無量です。お世評半分にしても、私も最近、長老とか組合の生き字引だとか言われる様になりましたが、今後ともなにか組合のお役にたてればと思っております。



當 摩 長 榮

40名ならずの杉並支部創立以来、早いもので、35年を迎える。当時1歳の子供が35歳の年になる。思いおこせば、共に怒る、泣く、笑うの歴史でした。この歴史の積重ねが、今日の2,000余名をこす支部につながっている。記念すべき前を振り返り、この歴史の統一と団結、組織の飛躍を！



黒 柳 勝 吉

35周年を迎え、心からお祝いし、喜びたいと思えます。在任中、微力ではありましたが、私なりに全力投球したつもりです。今後ともできうる限り、組合のお役にたてればと思えます。



田 名 綱 稔

組合という年輪を重ねてくるとなると、子育て(活動家を育てる)という輪があります。私の任期中、組合員の皆さんにご迷惑をかけたくありません。この場をかりておわび申し上げます。今年も役員を含め、一心同体の組合の大きな輪をつくっていくことを心より期待します。



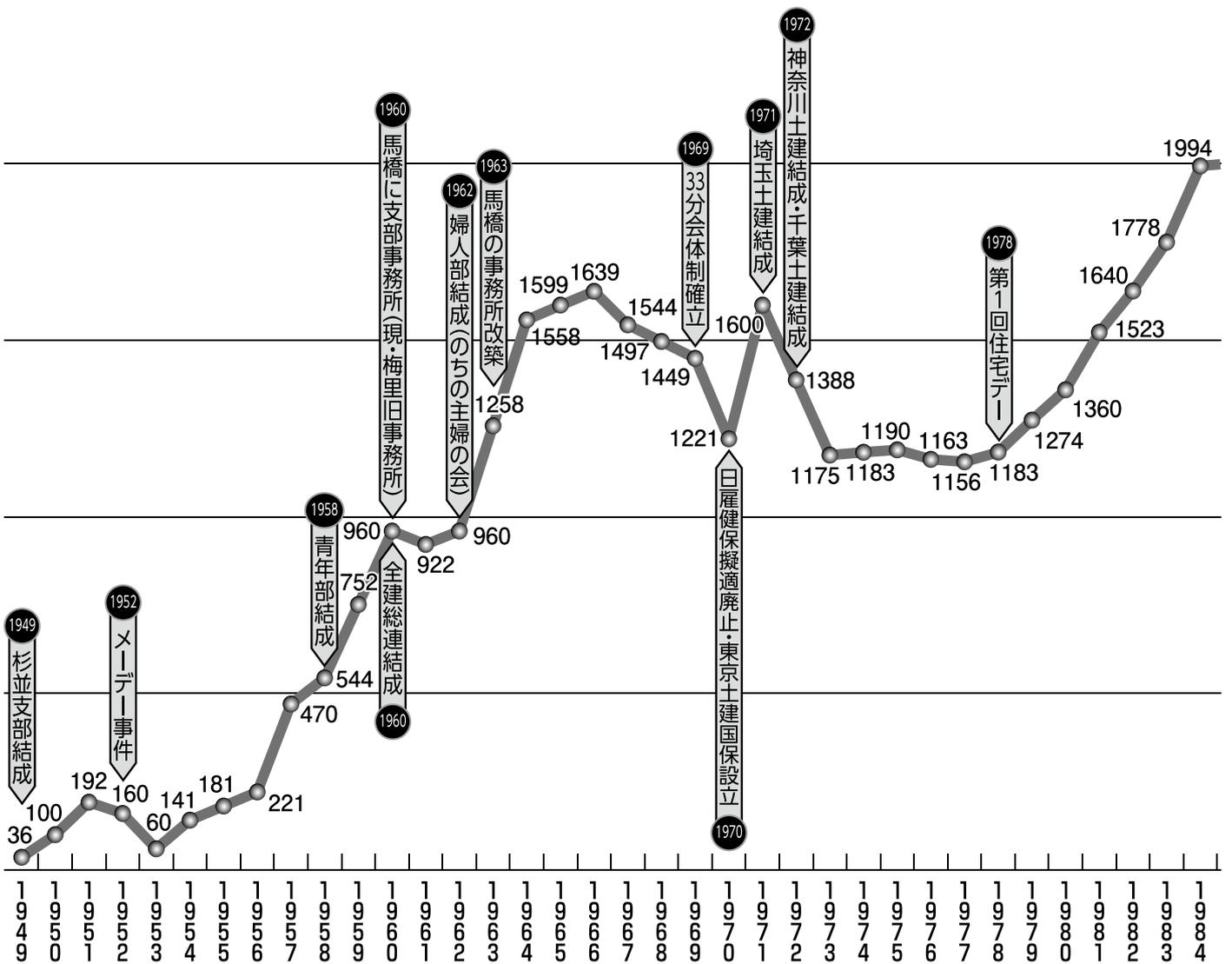
吉 永 久 作

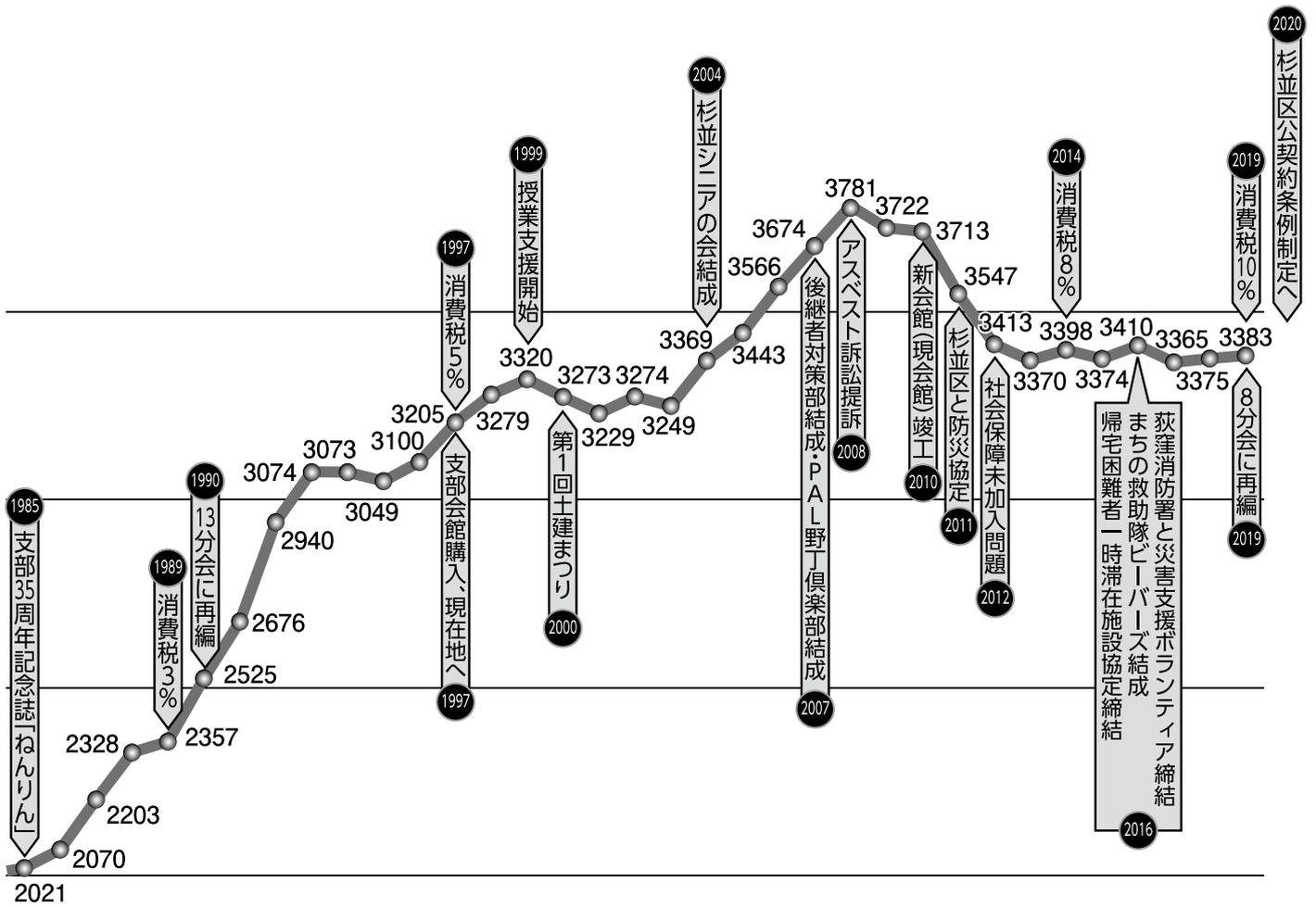
各会議の開始時間の遅行を。1. 当時、住宅ローローンの滞行者やサラ金に追われ、仲間がいて、厳しくしなければと思いましたが、厳しくしなければと思いません。2. 最初の年に180名位の拡大ができ、就任中、2,000名にできると思ったが実現しませんでした。しかし、35周年と同時に実現され、本当におめでとう。

資料編 東京土建杉並支部 歴代四役名簿

年	年号	支部長 (執行委員長)	副支部長 (副委員長)					書記長	書記次長	四役待遇
1948	昭和23	小檜山林三								
1949	昭和24	鈴木 鶴吉	青木 万平	田代 太郎			小檜山林三			
1950	昭和25	鈴木 鶴吉	青木 万平	田代 太郎			小檜山林三			
1951	昭和26	鈴木 鶴吉	青木 万平	田代 太郎			小檜山林三			
1952	昭和27	小檜山林三	※不祥	※不祥			野村 武男			
1953	昭和28	小檜山林三	※不祥	※不祥			矢田 忠昭			
1954	昭和29	小木勝三郎	鈴木 鶴吉	青木 万平			矢田 忠昭			
1955	昭和30	小木勝三郎	小檜山林三	田代 太郎			矢田 忠昭			
1956	昭和31	小木勝三郎	小檜山林三	田代 太郎			矢田 忠昭			
1957	昭和32	小木勝三郎	小檜山林三	田代 太郎			矢田 忠昭			
1958	昭和33	小木勝三郎	三宅 政義	山田 市次			矢田 忠昭			
1959	昭和34	小木勝三郎	三宅 政義	山田 市次			矢田 忠昭			
1960	昭和35	小木勝三郎	三宅 政義	山田 市次			矢田 忠昭			
1961	昭和36	小木勝三郎	三宅 政義	山田 市次			矢田 忠昭			
1962	昭和37	小木勝三郎	三嶋栄次郎	箱森 寛一			矢田 忠昭			
1963	昭和38	小木勝三郎	三嶋栄次郎	箱森 寛一			矢田 忠昭	笹岡 祥夫		
1964	昭和39	山田 市次	芦沢 定男	箱森 寛一			矢田 忠昭	畔上 泰作		
1965	昭和40	小木勝三郎	宇田川義夫	畔上 泰作			矢田 忠昭	笹岡 祥夫		
1966	昭和41	小木勝三郎	宇田川義夫	畔上 泰作	三嶋栄次郎		矢田 忠昭	笹岡 祥夫		
1967	昭和42	小木勝三郎	當摩 長栄	畔上 泰作	三嶋栄次郎		矢田 忠昭	日浦 敏光		
1968	昭和43	小木勝三郎	當摩 長栄	畔上 泰作	三嶋栄次郎		矢田 忠昭	日浦 敏光		
1969	昭和44	小木勝三郎	當摩 長栄	依田 理吉	三嶋栄次郎		矢田 忠昭	日浦 敏光		
1970	昭和45	小木勝三郎	當摩 長栄	芦沢 定男	三嶋栄次郎		田中 孜	野辺 正穂		
1971	昭和46	小木勝三郎	當摩 長栄	芦沢 定男	依田 理吉		佐藤 明	野辺 正穂		
1972	昭和47	當摩 長栄	田名網 稔	安藤 幸吉	依田 理吉		日浦 敏光			
1973	昭和48	當摩 長栄	田名網 稔	安藤 幸吉	吉水 久作		日浦 敏光	松田 重信		
1974	昭和49	當摩 長栄	田名網 稔	黒柳 勝吉	吉水 久作		日浦 敏光	松田 重信		
1975	昭和50	當摩 長栄	田名網 稔	黒柳 勝吉	吉水 久作		日浦 敏光	松田 重信		
1976	昭和51	黒柳 勝吉	宇田川義夫	吉水 久作	稲餅 武常		日浦 敏光	松田 重信		
1977	昭和52	當摩 長栄	宇田川義夫	吉水 久作	稲餅 武常		日浦 敏光	松田 重信		
1978	昭和53	田名網 稔	雪 茂次	吉水 久作	稲餅 武常		日浦 敏光	松田 重信		
1979	昭和54	田名網 稔	雪 茂次	吉水 久作	神田 俊雄		日浦 敏光	松田 重信		
1980	昭和55	吉水 久作	川鱈 浪七	佐藤 明	神田 俊雄		日浦 敏光	松田 重信		
1981	昭和56	吉水 久作	川鱈 浪七	佐藤 明	佐藤 力		日浦 敏光	松田 重信		
1982	昭和57	吉水 久作	川鱈 浪七	佐藤 明	佐藤 力		日浦 敏光	松田 重信		
1983	昭和58	日浦 敏光	川鱈 浪七	高橋 重松	羽毛球正夫		佐藤 力	松田 重信		

年	年号	支部長 (執行委員長)	副支部長 (副委員長)					書記長	書記次長	四役待遇
1984	昭和59	日浦 敏光	高橋 重松	羽毛田正夫	川鱈 浪七	田中 正水	依田 勝利	佐藤 力	松田 重信	
1985	昭和60	日浦 敏光	依田 勝利	羽毛田正夫	川鱈 浪七	田中 正水	高橋 重松	佐藤 力	松田 重信	
1986	昭和61	日浦 敏光	依田 勝利	羽毛田正夫	川鱈 浪七	田中 正水	高橋 重松	佐藤 力	松田 重信	
1987	昭和62	日浦 敏光	澤海 弘明	羽毛田正夫	川鱈 浪七	田中 正水	高橋 重松	松田 重信	野辺 秀男	
1988	昭和63	日浦 敏光	田中 正水	飯島徳太郎	川鱈 浪七	羽毛田正夫	柿澤 和美	松田 重信	野辺 秀男	
1989	平成1	日浦 敏光	田中 正水	飯島徳太郎	川鱈 浪七	羽毛田正夫	柿澤 和美	松田 重信	野辺 秀男	
1990	平成2	日浦 敏光	田中 正水	飯島徳太郎	川鱈 浪七	羽毛田正夫	柿澤 和美	松田 重信	野辺 秀男	
1991	平成3	日浦 敏光	田中 正水	飯島徳太郎	川鱈 浪七	羽毛田正夫	柿澤 和美	宮崎 喜雄	野辺 秀男	
1992	平成4	日浦 敏光	田中 正水	飯島徳太郎	柿澤 和美	羽毛田正夫	川鱈 浪七	宮崎 喜雄	野辺 秀男	
1993	平成5	日浦 敏光	田中 正水	羽毛田正夫	柿澤 和美	飯島徳太郎	大山 久治	宮崎 喜雄	野辺 秀男	
1994	平成6	日浦 敏光	田中 正水	羽毛田正夫	柿澤 和美	飯島徳太郎	大山 久治	宮崎 喜雄	野辺 秀男	
1995	平成7	日浦 敏光	伊藤 重則	羽毛田正夫	柿澤 和美	飯島徳太郎	大山 久治	野辺 秀男	松井 民人	
1996	平成8	日浦 敏光	伊藤 重則	羽毛田正夫	柿澤 和美	飯島徳太郎	大山 久治	野辺 秀男	松井 民人	
1997	平成9	日浦 敏光	伊藤 重則	羽毛田正夫	柿澤 和美	飯島徳太郎	大山 久治	野辺 秀男	松井 民人	
1998	平成10	日浦 敏光	伊藤 重則	飯島徳太郎	羽毛田正夫	柿澤 和美	大山 久治	野辺 秀男	松井 民人	
1999	平成11	日浦 敏光	縫村 信秋	飯島徳太郎	羽毛田正夫	中村 時雄	伊藤 重則	野辺 秀男	松井 民人	
2000	平成12	日浦 敏光	縫村 信秋	飯島徳太郎	羽毛田正夫	中村 時雄	伊藤 重則	野辺 秀男	岩田 輝幸	
2001	平成13	飯島徳太郎	伊藤 重則	羽毛田正夫	中村 時雄	縫村 信秋		野辺 秀男	岩田 輝幸	
2002	平成14	飯島徳太郎	伊藤 重則	羽毛田正夫	中村 時雄	縫村 信秋		野辺 秀男	岩田 輝幸	
2003	平成15	飯島徳太郎	澤海 弘明	羽毛田正夫	中村 時雄	鎗田登美雄	縫村 信秋	野辺 秀男	岩田 輝幸	
2004	平成16	飯島徳太郎	澤海 弘明	羽毛田正夫	中村 時雄	鎗田登美雄	縫村 信秋	野辺 秀男	岩田 輝幸	
2005	平成17	野辺 秀男	澤海 弘明	羽毛田正夫	中村 時雄	大平 義道	縫村 信秋	鎗田登美雄	岩田 輝幸	
2006	平成18	野辺 秀男	澤海 弘明	大平 義道	羽毛田正夫	中村 隆幸	縫村 信秋	鎗田登美雄	西岡 貴之	
2007	平成19	野辺 秀男	澤海 弘明	大平 義道	羽毛田正夫	中村 隆幸	縫村 信秋	鎗田登美雄	西岡 貴之	
2008	平成20	野辺 秀男	大平 義道	金子 幸由	中村 隆幸	縫村 信秋		鎗田登美雄	西岡 貴之	
2009	平成21	大平 義道	永田 公俊	松原 秀夫	金子 幸由	中村 隆幸	縫村 信秋	鎗田登美雄	西岡 貴之	
2010	平成22	大平 義道	永田 公俊	松原 秀夫	金子 幸由	中村 隆幸	縫村 信秋	鎗田登美雄	西岡 貴之	
2011	平成23	大平 義道	永田 公俊	松原 秀夫	金子 幸由	中村 隆幸	縫村 信秋	鎗田登美雄	双木 淳志	
2012	平成24	大平 義道	永田 公俊	縫村 信秋	金子 幸由	松原 秀夫	鎗田登美雄	中村 隆幸	双木 淳志 熊切 健二	
2013	平成25	大平 義道	松原 秀夫	金子 幸由	大戸 龍雄	鎗田登美雄	縫村 信秋	双木 淳志 熊切 健二	中村 隆幸	中村 隆幸
2014	平成26	大平 義道	松原 秀夫	金子 幸由	大戸 龍雄	村田 幸夫	鎗田登美雄	縫村 信秋	熊切 健二 双木 淳志	中村 隆幸
2015	平成27	松原 秀夫	水尾 安男	金子 幸由	大戸 龍雄	村田 幸夫	鎗田登美雄	縫村 信秋	熊切 健二 双木 淳志	中村 隆幸
2016	平成28	松原 秀夫	水尾 安男	村田 幸夫	大戸 龍雄	金子 幸由	鎗田登美雄	縫村 信秋	双木 淳志 腰塚 智彦	中村 隆幸
2017	平成29	大戸 龍雄	水尾 安男	村田 幸夫	吉田 康典	松原 秀夫	鎗田登美雄	縫村 信秋	双木 淳志 腰塚 智彦	中村 隆幸
2018	平成30	大戸 龍雄	水尾 安男	松原 秀夫	浅田 正昭	吉田 康典	鎗田登美雄	縫村 信秋	双木 淳志 腰塚 智彦	中村 隆幸
2019	平成31 令和1	大戸 龍雄	吉田 康典	水尾 安男	浅田 正昭	松原 秀夫	鎗田登美雄	縫村 信秋	双木 淳志 腰塚 智彦	中村 隆幸





1 9 8 5
1 9 8 6
1 9 8 7
1 9 8 8
1 9 8 9
1 9 9 0
1 9 9 1
1 9 9 2
1 9 9 3
1 9 9 4
1 9 9 5
1 9 9 6
1 9 9 7
1 9 9 8
1 9 9 9
2 0 0 0
2 0 0 1
2 0 0 2
2 0 0 3
2 0 0 4
2 0 0 5
2 0 0 6
2 0 0 7
2 0 0 8
2 0 0 9
2 0 1 0
2 0 1 1
2 0 1 2
2 0 1 3
2 0 1 4
2 0 1 5
2 0 1 6
2 0 1 7
2 0 1 8
2 0 1 9

この物語りは、杉並支部の歴史をつくろうという編集委員の方針に基づき昭和三十年迄を第一巻として作成しているというものです。

当時の記録がないため語り伝えられていることをもとに想像し、古き人々を尋ねて記憶をたどりつつまとめているために、期日の誤りや、事実と異なることもあろうかと思いますが、皆さんの意見、記憶によって更に正しいものにしていただきますようお願いいたします。

登場人物はすべて本名実在しております。時の流れをささげりするためにその言動を若干創作しておりますので不備の点お許し下さい。

くみあい物語 一巻

杉並支部誕生

(1)



昭和二十四年秋、その日は朝から小雨で、冷たい。杉並支部の歴史をつくろうという編集委員の方針に基づき昭和三十年迄を第一巻として作成しているというものです。

当時の記録がないため語り伝えられていることをもとに想像し、古き人々を尋ねて記憶をたどりつつまとめているために、期日の誤りや、事実と異なることもあろうかと思いますが、皆さんの意見、記憶によって更に正しいものにしていただきますようお願いいたします。

登場人物はすべて本名実在しております。時の流れをささげりするためにその言動を若干創作しておりますので不備の点お許し下さい。

くみあい物語

税金と労務加配米



税金と労務加配米

昭和二十四年秋、その日は朝から小雨で、冷たい。杉並支部の歴史をつくろうという編集委員の方針に基づき昭和三十年迄を第一巻として作成しているというものです。

当時の記録がないため語り伝えられていることをもとに想像し、古き人々を尋ねて記憶をたどりつつまとめているために、期日の誤りや、事実と異なることもあろうかと思いますが、皆さんの意見、記憶によって更に正しいものにしていただきますようお願いいたします。

登場人物はすべて本名実在しております。時の流れをささげりするためにその言動を若干創作しておりますので不備の点お許し下さい。

くみあい物語

胎動期



胎動期

昭和二十四年秋、その日は朝から小雨で、冷たい。杉並支部の歴史をつくろうという編集委員の方針に基づき昭和三十年迄を第一巻として作成しているというものです。

当時の記録がないため語り伝えられていることをもとに想像し、古き人々を尋ねて記憶をたどりつつまとめているために、期日の誤りや、事実と異なることもあろうかと思いますが、皆さんの意見、記憶によって更に正しいものにしていただきますようお願いいたします。

登場人物はすべて本名実在しております。時の流れをささげりするためにその言動を若干創作しておりますので不備の点お許し下さい。



編集後記

なんとかここに杉並支部70周年誌を発刊するに至ったこと、編集に直接携わった者としてまずひと安心というところです。

編集作業にとりくむなかで、35周年誌「ねんりん」と機関紙「すぎなみ」が大きな支えになりました。当時の編集委員・企画委員のみなさんにこの場を借りてお礼を申し上げます。過去の体験談を聞き、写真や記事に触れて感じたそれぞれの時代の人々の思いや熱気を少しでも伝えられていれば幸いです。

編集にあたり、紙幅の都合上割愛したエピソードが数多あり、不足の部分、至らぬ点が多々あるかと思いますが、悪しからずご了承ください。

編集作業に携わったことで、二点を痛感しました。ひとつは記録保存の大切さです。もうひとつは、わたしたちの課題の多くは過去の発刊物のなかにその解法があるということです。すぐれた作品や物語と同様、すぐれた行動の記録や理論というものも、掘り起こし再話する必要を感じました。

発行にあたり多くの方々から資料提供をはじめご支援、ご協力をいただきました。氏名は割愛致しますが、あらためて心からお礼を申し上げます。

2019年12月19日

〈編集委員〉

石川 雅昭
齊藤 知子
青木 隆之
田中 淳一
村上 由美
木村英一郎
佐藤 雅一
双木 淳志
喜多 正之

編 集	70周年誌編集委員会
発 行	東京土建一般労働組合杉並支部 〒166-0003 杉並区高円寺南 3- 6- 2 電話 03-3313-1445 (代表)
デザイン	株式会社アイデス・プランニング
印 刷	あかつき印刷株式会社

〈参考・抜粋資料〉

機関紙「すぎなみ」、支部35周年誌「ねんりん」、写真で綴る東京土建50年の歩み、けんせつ縮刷版、東京土建60年史年表、足立支部「70年のあゆみ」、北支部「60年のあゆみ」、その他組合員提供資料



東京土建一般労働組合杉並支部

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南3-6-2
TEL : 03-3313-1445 FAX : 03-3313-7096